

# 2012年度 地域課題研究

2013年3月

北九州市立大学都市政策研究所



## —報告書の構成—

### 第一章 北九州市民の幸福度に関する調査

経済成長期から低成長成熟社会に入った 1990 年代以降、経済的、物質的豊かさが必ずしも人間の「幸福」にはつながらないという観点から、国内外で「幸福」に関する研究が活発になり、我が国でも、内閣府や多くの自治体において研究が行われています。幸福の実感是个々人によって異なりその理由も様々ですが、超高齢化、少子化、生活格差の拡大など幸せに関わる現実が変化しつつある今、何が私たちの幸福感に関係しているのか、単なる「考え方、感じ方」ではなくできるだけ実証的にみていくことが必要と考えます。

そこで、本研究では、北九州市民の幸福度やその判断に影響すると思われる条件や環境を知るためにアンケート調査を実施し、その調査・分析結果を示しています。

人の“心”の問題に立ち入る幸福研究を政策決定に利用することの妥当性、有用性には限界がありますが、人々が置かれている状態を改善する施策の考案に際して行う判断には役立つと思われます。本研究はその一助となることを期待して実施したものです。

### 第二章 ESD 活動推進における高等教育機関の役割と課題

ESD (Education for Sustainable Development) とは「持続可能な開発のための教育」と訳されます。環境、経済、社会、文化を包括的に考慮した持続可能な社会づくりのための担い手を育てていくことを目的として、全世界で展開されています。北九州市でも 2006 年に発足した「北九州 ESD 協議会」が中心となって ESD 活動が継続的に展開されています。

本研究では、ESD の概念やこれまでの日本での活動、大学を中心とした高等教育機関の関わりなどを概括するとともに、大学が中心的な役割を果たしている岡山、中部、仙台広域圏の各地域におけるヒアリング調査を行いました。その上で、ESD 活動の活性化に向け大学に求められている役割を整理するとともに、北九州における ESD 活動の特徴やその独自性を踏まえた今後の ESD 活動の方策について検討します。

### 第三章 関門地域の大学の起業教育の現状と展望

地域経済の発展において、ベンチャー企業の果たす役割は大きいものがあります。そこで本調査研究では関門地域の大学の起業教育の実状を調査し、今後の展望を示します。

調査は、まず関門地域の大学（高専、短大含む）における起業にかかわる講義の実状をアンケートにより把握し、次に熱心に講義を行っている教授にヒアリングしました。また併せて、全国の起業教育の動向を資料ベースで調査し、さらに起業及び起業教育の認識度を把握するために本学の学生にアンケート調査を行い、起業家や支援機関の担当者などの関係者に起業や起業教育について広く意見を聴取しました。

以上の結果、大学において起業教育を普及させるためには、起業教育ができる教員を確保しなければならないこと、キャリア教育の一環として位置付けること、経営系以外の学生への教育が期待されていることなどが分かりました。

## 目 次

第一章	北九州市民の幸福度に関する調査	
	北九州市立大学都市政策研究所 教授 伊藤 解子	1
第二章	ESD活動推進における高等教育機関の役割と課題	
	北九州市立大学都市政策研究所 准教授 内田 晃	29
第三章	関門地域の大学の起業教育の現状と展望	
	北九州市立大学都市政策研究所 教授 吉村 英俊	51
	田頭 沙樹	
	山崎 香奈	



# 第一章 北九州市民の幸福度に関する調査

伊藤 解子

## 1. はじめに

### (1) 調査研究の背景・目的

経済成長期から低成長成熟社会に入った1990年代以降、経済的、物質的豊かさが必ずしも人間の「幸福」にはつながらないという観点から、国内外で「幸福の経済学」に関する研究が活発になった。経済指標である国内総生産（GDP）の限界が指摘され、国民の幸福度や満足度を測る「幸福度指標」の必要性が認識されるようになり、国民総幸福量（GNH: Gross National Happiness）を政策目標に掲げたブータンをはじめ、フランス、イギリスにおいても本格的な幸福度指標の検討が行われている。

我が国でも、内閣府が「幸福度に関する研究会」を設置し、2011年12月に研究会報告として幸福度指標の試案が公表された<sup>1)</sup>。また、東京都荒川区をはじめ<sup>2)</sup>、多くの自治体において幸福度に関する研究が様々なかたちで進められており、福岡県においても「幸福度に関する研究会」が立ち上げられ、2011年9月に公表された報告書では「県民幸福度日本一」の実現を目指して取り組む10の事項が提示された<sup>3)</sup>。

一方で、幸福度について客観的な定義ができるのか、幸福度を測ることはきわめて困難である、政策評価に用いることに合理的な根拠はない、というような慎重論もあって、現段階ではいずれの自治体も、試行錯誤を重ねている状況にある。

しかし、従来のような「世論調査」だけでなく、何らかの方法で人々の「幸福度」を把握したいという試みは、今後も様々な主体や方法によって続けられていくと考える。

幸福の実感是个々人によって異なりその理由も様々である。しかし、超高齢化、少子化、生活格差の拡大など、幸せに関わる現実が変化しつつある今、何が私たちの幸福感に関係しているのか、単なる「考え方、感じ方」ではなくできるだけ実証的にみていくことは、幸せを実現したいと人々が考える際に何かしらの役に立つかもしれない。また、政策担当者にとっても、あるべき政策の方向性を考える一助になるかもしれない。そのような観点から、北九州市民の幸福感の特徴をとらえることが本調査研究の目的である。

経済学や心理学の分野では幸福に関する実証研究が1970年代から世界的に行われており、さらに近年の研究の拡がりとともに多くの実証結果が蓄積されている。様々な国において人々がどのくらい幸せなのか、世代ごとでどのように満足度が異なるのか、どのような環境や経験が人々の生活に関する評価と密接に関係するかなどについて既に明らかになっていることは多い。現在の幸福に関する研究は、それらの知見に基づいて、幸福度を定量化するための方法や評価指標に関するものが主流となっている。幸福度は主観、客観の両面でもとらえる必要があるが、本調査研究は、まず主観的な幸福感の実態を把握することを重視し、基本的な属性や生活状況、生活意識の違いなどによる幸福度の差をみていくこととした。

## (2) 研究方法

本研究では、人々の幸福度やその判断に影響すると思われる事項について、インターネットによるアンケート調査を実施した（表 1-1）。

調査項目について、幸福の源泉はきわめて多くの側面にに関わり、そのすべてを検討することはできないが、ここでは、福岡県や国が行った調査や（表 1-2）各事例の指標体系（表 1-3）を参考に設定した。

調査対象は、北九州市の在住者だけでなく、比較のために首都圏在住者にも同様の調査を実施した。首都圏の調査対象者について、本研究では、地方圏と首都圏を比較的にとらえることができる人の意識を知ることがを意図して、北九州市に居住経験がある人を選定した。

表 1-1 調査概要

調査対象	標本数	調査時期	調査方法
北九州市内居住者	400	2013年2月	インターネット調査 (株ミックシーリサーチ)
北九州市に居住歴のある首都圏居住者	500		

表 1-2 調査項目設定や比較のために利用した調査の概要

調査名	調査主体	標本数	調査時期	調査方法
県民意識調査	福岡県	1,624	2012年10・11月	郵送法
生活の質に関する調査	内閣府	10,469	2012年3月	インターネット調査※
国民生活選好度調査	内閣府	2,802	2012年3月	個別訪問留置法
国民生活に関する世論調査	内閣府	6,351	2012年6・7月	個別面接聴取法

※:生活の質に関する調査は、別に、訪問留置法によっても行われた。

表 1-3 国内外の幸福度指標体系の項目

	ブータン	フランス	イギリス	OECD	内閣府	荒川区	新潟市
上位項目	持続可能な社会 環境保護 伝統文化の振興 優れた統治力			物質的生活環境 生活の質 持続可能性	経済社会状況 心身の健康 関係性		
主観的幸福	心理的幸福		個人の幸福	生活の満足度	主観的幸福度		仕事、経済物
経済 (生活水準)	生活水準	物質的生活 水準	国の経済 状況	住居・収入	住環境	産業革新	
環境	環境の多様性	環境	自然環境	環境	自然との つながり	環境先進	
文化	文化の多様性					文化創造	
余暇・時間	時間の使い方と バランス			ワークライフ バランス	ライフスタイル		高齢者軸
健康	健康	健康	健康	健康	身体的健康 精神的健康	生涯健康	健康
仕事		仕事を含む人 間関係	仕事	雇用	仕事		仕事・経済軸
安全・安心		安全・安心	居住地域	安全	基本的ニーズ	安全安心	安全安心家族 軸
ガバナンス	良い統治	政治的発言力と 統治	国の統治に 関する状況	ガバナンス	制度		
教育	教育	教育	教育	教育と職業技術	教育	子育て・教育	子ども軸
コミュニティ・ 関係性	地域の活力	社会的つながり と関係	人間関係	共同体	個人・家族との つながり		連帯・信頼感

出典:参考資料 4(公益財団法人荒川区自治総合研究所『荒川区民幸福度(GAH)に関する研究プロジェクト中間報告書』を参考に東北活性化研究センターが作成したもの)



### (3) 回答者の属性

性別は「北九州市」、「首都圏」のいずれも男女同数、それぞれ50%である。

年齢階層別では、「北九州市」は男女とも40歳代が最も多く、次いで、男性は50歳代、女性は30歳代が多い。「首都圏」は、男女とも40歳代、30歳代の順に多い。20歳代は「北九州市」、「首都圏」とも少ない。

居住地について、「北九州市」の回答者の行政区別構成比は、実際の人口構成比と大きな乖離はないが、小倉北区が3ポイント高く、一方、若松区が4ポイント低い。「首都圏」では、東京都が約半分を占める。

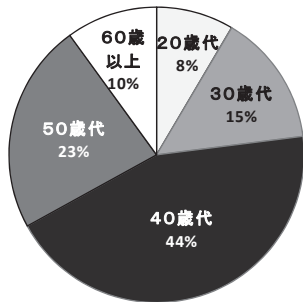


図 1-1 年齢階層別回答率  
(北九州市・男)

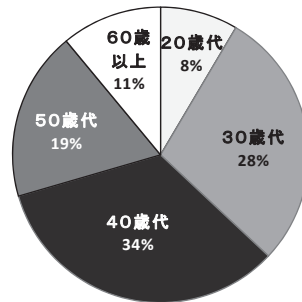


図 1-2 年齢階層別回答率  
(北九州市・女)

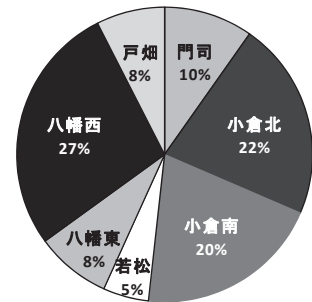


図 1-3 行政区別回答率  
(北九州市)

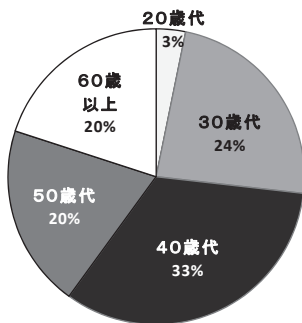


図 1-4 年齢階層別回答率  
(首都圏・男)

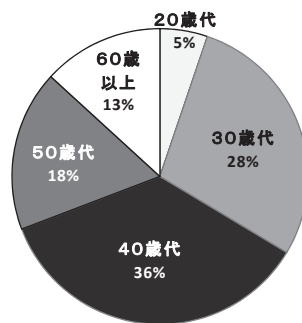


図 1-5 年齢階層別回答率  
(首都圏・女)

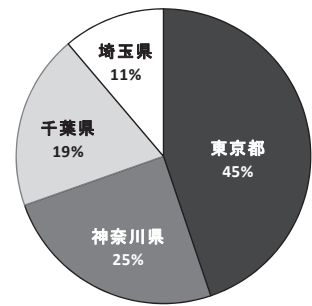


図 1-6 都県別回答率  
(首都圏)

「首都圏」の調査対象者選定にあたって、地方圏と首都圏を比較的にとらえることができる人の意識を知ることがを意図して北九州市における居住歴を要件としたが、居住歴別にみると10年未満が7割を占めており、北九州市出身者よりも、北九州市で一時期過ごしたという人の方が多い。

3年未満が約4割を占め、その多くは転勤や長期出張などの体験者と思われる。

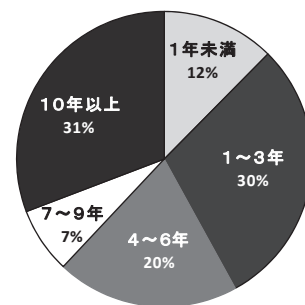


図 1-7 北九州市居住歴別回答率  
(首都圏)

## 2. 調査結果の概要

調査にあたっては、まず「現在、どの程度幸せか」を10段階評価（「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点）でたずね、その採点結果を幸福度とし、基本的な属性や生活状況、生活意識の違いなどによる幸福度の平均値を求め、比較検討を行っている。

### 2-1 属性別・生活状況別にみた幸福度

#### (1) 基本属性別の幸福度

##### ①全体的にみた幸福度

「北九州市」の平均値は5.88で「首都圏」の6.36を下回る。また、「福岡県（県民意識調査）」や「全国（生活の質に関する調査・国民生活選好度調査）」よりも低い数値となっている。点数別の回答率をみると、いずれの調査でも5点（どちらともいえない）と7点または8点を二つの山とするM字型の分布となっているが、「北九州市」は他の調査結果に比べて1～4点が多く10点が少ない（図2-1）。

##### ②男女別の幸福度

「北九州市」は女性の方が男性よりも8点以上の回答率が高く、平均値でも男性をやや上回っている（図2-2）。

「首都圏」もほぼ同様の傾向であるが、8点以上の回答率の差は「北九州市」よりもさらに大きく、平均値でも女性の方が男性をかなり上回っている（図2-3）。

##### ③年齢別の幸福度

「北九州市」は、他の調査結果と比較して年齢別の幸福度の差が大きく、40歳代までの若い世代や70歳以上の幸福度は最も低いが、50歳代の幸福度は最も高い（図2-4）。とりわけ20～24歳の幸福度が低く（図2-5）、一方、55～59歳の女性の幸福度が高い（図2-6）。

「首都圏」では、他の調査結果と比較して60歳以上の幸福度が高い（図2-4）。また、20～24歳の幸福度は「北九州市」と対照的にかなり高く、就職事情の差が幸福感に大きく影響していると思われる。また、「首都圏」では各世代において女性の幸福度が高いが、特に20～24歳が高く（図2-7）、首都圏に進学、就職した女性と「北九州市」の同世代の幸福感の差は大きい。

表 2-1 年齢別の回答率・幸福度

	回答率(%)						幸福度平均点数					
	北九州市			首都圏			北九州市			首都圏		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	5.88	5.80	5.97	6.36	6.11	6.60
20歳代	8.5	8.5	8.5	4.2	3.2	5.2	5.44	5.24	5.65	6.14	5.38	6.62
30歳代	21.5	14.5	28.5	26.0	23.6	28.4	5.48	5.45	5.49	6.20	6.10	6.28
40歳代	38.8	44.0	33.5	34.4	33.2	35.6	5.74	5.67	5.82	6.40	5.90	6.85
50歳代	20.8	23.0	18.5	18.8	20.0	17.6	6.43	6.20	6.73	6.12	5.90	6.36
60歳以上	10.5	10.0	11.0	16.6	20.0	13.2	6.50	6.40	6.59	6.84	6.80	6.91

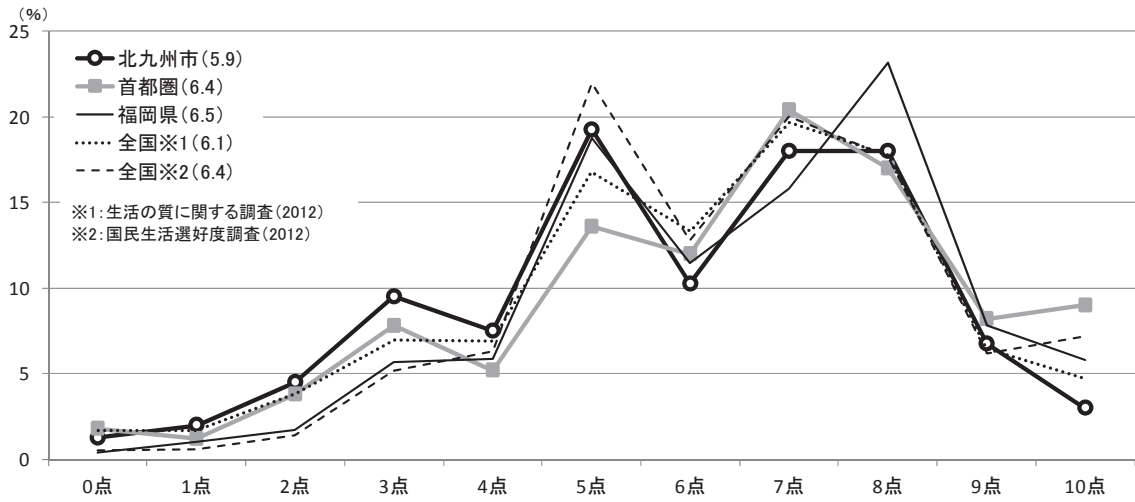


図 2-1 幸福感の点数別回答率

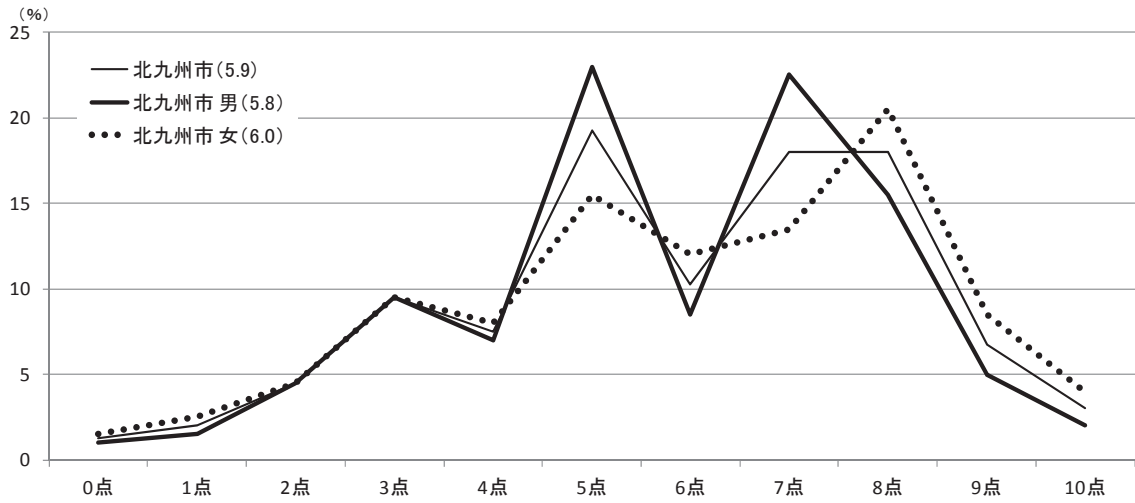


図 2-2 幸福感の点数別・男女別回答率(北九州市)

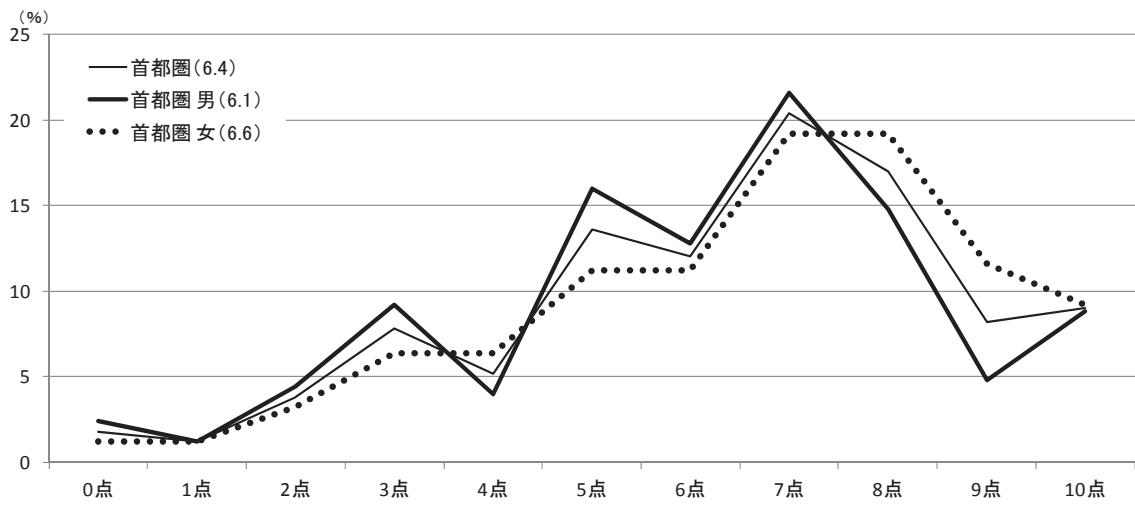


図 2-3 幸福感の点数別・男女別回答率(首都圏)

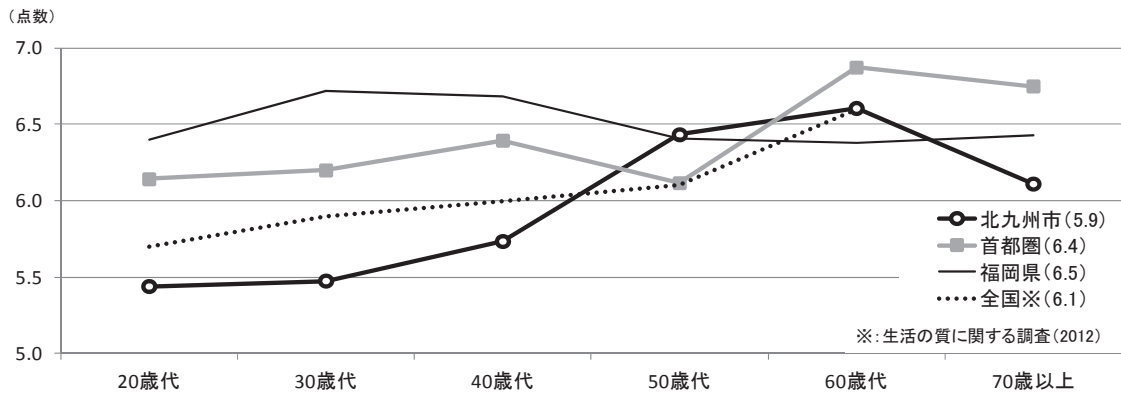


図 2-4 幸福感の年齢別平均点数

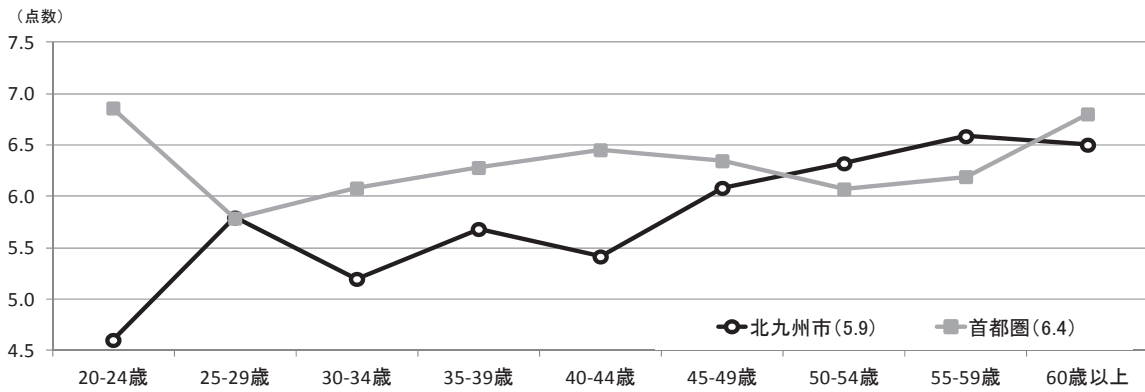


図 2-5 幸福感の年齢別平均点数(北九州市・首都圏)

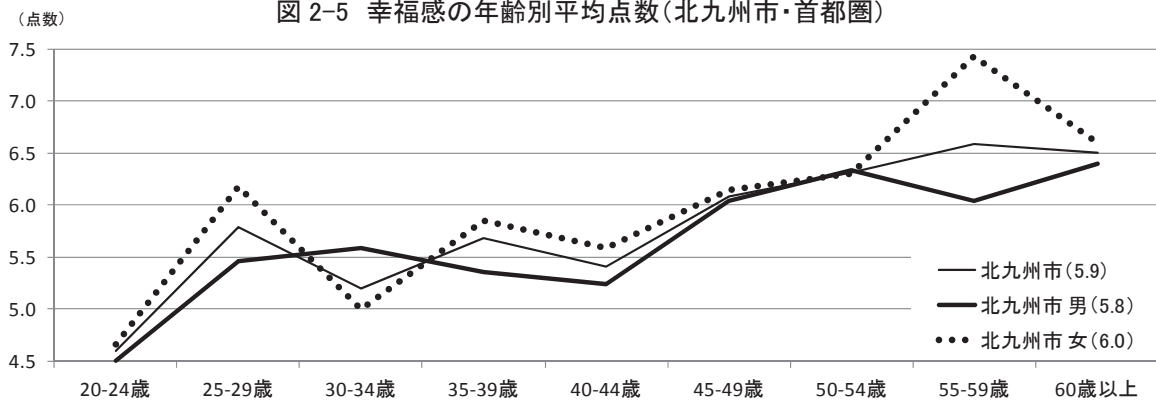


図 2-6 幸福感の年齢別・男女別平均点数(北九州市)

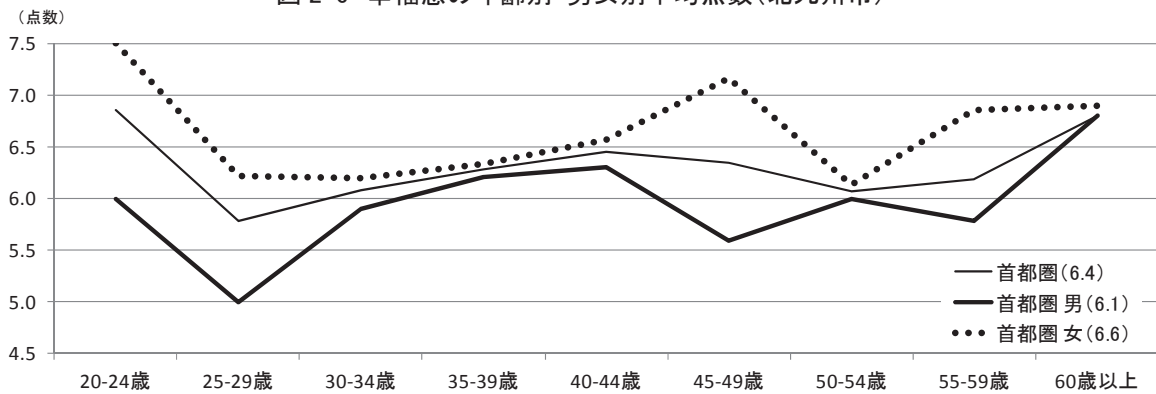


図 2-7 幸福感の年齢別・男女別平均点数(首都圏)

## (2) 居住地・居住年数別にみた幸福度

### ①居住地別の幸福度

「北九州市」では、若松区の居住者の幸福度の平均値が最も高い。若松区はサンプル数の少なさを考慮する必要があるが、女性の約8割が8点以上である。ただし、男性の幸福度の平均値は他の区よりも低く、男女差が大きい。次いで、全市の平均より幸福度が高いのは、八幡東区、戸畑区、小倉北区、小倉南区である。そのうち、八幡東区、戸畑区では男性の方が、一方、小倉北区、小倉南区では女性の方が高い。

「首都圏」では、千葉県、埼玉県の方が東京都、神奈川県よりも幸福度が高い。神奈川県は、男性、女性とも幸福度が最も低いという結果となっている。また、「首都圏」では、先に見たように総じて女性の幸福度が高いが、埼玉県では男性の満足度がかなり高い。

表 2-2 居住行政区別の回答率・幸福度

北九州市	回答率(%)			幸福度平均点数		
	計	男	女	計	男	女
全体	100.0	100.0	100.0	5.88	5.80	5.97
門司区	9.8	12.0	7.5	5.36	5.54	5.07
小倉北区	21.8	22.5	21.0	5.97	5.71	6.24
小倉南区	20.3	19.0	21.5	6.00	5.53	6.42
若松区	5.0	4.5	5.5	6.45	5.11	7.55
八幡東区	8.3	9.5	7.0	6.15	6.37	5.86
八幡西区	27.5	25.5	29.5	5.65	5.96	5.39
戸畑区	7.5	7.0	8.0	6.13	6.29	6.00

表 2-3 居住都県別の回答率・幸福度

首都圏	回答率(%)			幸福度平均点数		
	計	男	女	計	男	女
全体	100.0	100.0	100.0	6.36	6.11	6.60
東京都	44.8	45.2	44.4	6.39	6.03	6.76
神奈川県	24.8	26.0	23.6	6.02	5.80	6.25
千葉県	19.2	18.4	20.0	6.59	6.33	6.84
埼玉県	11.2	10.4	12.0	6.57	6.88	6.30

### ②居住年数別の幸福度

ここでは、現住地（市町村）の居住年数別にみていく。

「北九州市」では、生まれたときからの居住者を合わせて居住歴20年以上が回答者の約2/3を占めるが、そのうち市外出身女性の幸福度が高く、他市町村と比較できる女性からみて、北九州市の生活しやすさが評価を得ていることがうかがわれる。サンプル数の少なさを考慮する必要があるが、住み始めて間もない居住歴2年未満の女性の幸福度が比較的高いのに対し、同じく居住歴2年未満の男性の満足度がかなり低い。

「首都圏」では、現住地での居住歴10年未満が回答者の約2/3を占めるが、そのうち最も多い5年以上10年未満で男女とも幸福度は比較的低い。現住地への不満を意識する頃に幸福度が低下するが、定住地を決めて住み続ければ幸福度も高まっていくことがうかがわれる。

表 2-4 現住地での居住年数別の回答率・幸福度

現住地(市町村)での居住歴	回答率(%)						幸福度平均点数					
	北九州市			首都圏			北九州市			首都圏		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	5.88	5.80	5.97	6.36	6.11	6.60
生まれたときから	31.5	8.0	4.0	0.0	0.0	0.0	5.75	5.83	5.70	-	-	-
2年未満	6.0	7.5	3.5	4.2	3.2	5.2	5.42	4.88	6.50	7.05	7.47	6.71
2年以上5年未満	5.5	9.0	8.0	26.0	23.6	28.4	5.77	5.93	5.43	6.08	6.02	6.13
5年以上10年未満	8.5	13.5	12.0	34.4	33.2	35.6	6.15	6.67	5.56	5.90	5.71	6.07
10年以上20年未満	12.8	38.5	33.0	18.8	20.0	17.6	5.88	5.59	6.21	6.47	5.84	7.18
20年以上	35.8	23.5	39.5	16.6	20.0	13.2	6.03	5.81	6.29	6.64	6.44	6.87

### (3) 家族の状況別にみた幸福度

#### ①婚姻関係による幸福度

「北九州市」も「首都圏」も、既婚者に比べ未婚者の幸福度は低い。なかでも、「北九州市」の未婚男性の幸福度はかなり低く、既婚者との差が大きい。

最も幸福度が高いのは「首都圏」の既婚女性である。

表 2-5 婚姻関係別の回答率・幸福度

婚姻関係	回答率(%)						幸福度平均点数					
	北九州市			首都圏			北九州市			首都圏		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	5.88	5.80	5.97	6.36	6.11	6.60
未婚	28.8	26.0	31.5	24.2	28.0	20.4	4.91	4.48	5.27	5.45	5.43	5.47
配偶者あり	62.0	65.5	58.5	71.0	69.6	72.4	6.41	6.38	6.44	6.68	6.39	6.96
離婚	8.3	8.0	8.5	3.2	1.2	5.2	5.30	5.31	5.29	6.13	6.00	6.15
死別	1.0	0.5	1.5	1.6	1.2	2.0	5.50	5.00	5.67	6.38	6.33	6.40

#### ②家族構成による幸福度

「北九州市」も「首都圏」も、家族構成は夫婦だけの場合で幸福度は最も高い。子どもがいる場合でも、三世同居より夫婦と子どもだけの核家族の方が幸福度は高い。

一方、単身者の幸福度は低く、「北九州市」では男女とも幸福度の平均値が5点を下回る。

表 2-6 家族構成別の回答率・幸福度

家族構成	回答率(%)						幸福度平均点数					
	北九州市			首都圏			北九州市			首都圏		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	5.88	5.80	5.97	6.36	6.11	6.60
単身	15.3	17.0	13.5	18.8	22.4	15.2	4.69	4.56	4.85	5.54	5.41	5.74
夫婦だけ	20.5	21.0	20.0	22.0	20.8	23.2	6.59	6.60	6.58	7.05	6.69	7.36
夫婦と子ども	46.5	48.0	45.0	48.8	49.2	48.4	6.03	6.00	6.07	6.44	6.23	6.66
夫婦と子どもと親	6.0	7.5	4.5	5.0	5.2	4.8	5.67	5.60	5.78	5.88	5.46	6.33
夫婦と子どもと親と夫婦の兄弟姉妹	1.5	0.5	2.5	0.6	0.4	0.8	6.17	8.00	5.80	6.33	10.00	4.50
その他	10.3	6.0	14.5	4.8	2.0	7.6	5.63	4.92	5.93	6.00	6.00	6.00

#### ③子どもの数による幸福度

「北九州市」も「首都圏」も、子どもがいる人の方がいない人よりも幸福度は高い。ただし、子どもが3人以上になると女性の幸福度は大きく低下し、4人以上になると、子どもがいない人よりも低くなる。

また、子どもがいない場合、男性の幸福度は女性に比べてかなり低い。

表 2-7 子どもの数別の回答率・幸福度

子どもの数	回答率(%)						幸福度平均点数					
	北九州市			首都圏			北九州市			首都圏		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	5.88	5.80	5.97	6.36	6.11	6.60
1人	17.8	17.0	18.5	21.6	20.8	22.4	6.41	6.59	6.24	6.21	5.96	6.45
2人	30.8	34.5	27.0	32.8	30.0	35.6	6.46	6.17	6.81	6.82	6.73	6.89
3人	8.5	8.5	8.5	8.4	11.6	5.2	5.68	5.94	5.41	6.10	6.21	5.85
4人以上	2.0	2.5	1.5	2.6	4.0	1.2	5.88	6.80	4.33	5.92	6.20	5.00
いない	41.0	37.5	44.5	34.6	33.6	35.6	5.26	4.99	5.49	6.10	5.61	6.57

#### ④要介護者の有無による幸福度

「北九州市」では、要介護者と同居する人の幸福度は、要介護者がいない人や別居している人に比べて男女とも低く、女性の方が男性よりも低い。

また、「北九州市」も「首都圏」も、要介護者がいない人よりも別居している人の方が幸福度が高く、施設入所などによる負担軽減が心理的なプラス効果として大きいのではないかとと思われる。

表 2-8 要介護者の有無別の回答率・幸福度

要介護者の有無	回答率(%)						幸福度平均点数					
	北九州市			首都圏			北九州市			首都圏		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	5.88	5.80	5.97	6.36	6.11	6.60
いない	78.8	78.0	79.5	74.4	71.2	77.6	5.87	5.74	5.99	6.35	6.11	6.57
同居の家族・親族にいる	7.3	7.5	7.0	11.2	14.4	8.0	5.31	5.40	5.21	6.29	6.03	6.75
別居の家族・親族にいる	14.0	14.5	13.5	14.4	14.4	14.4	6.23	6.28	6.19	6.44	6.22	6.67

#### (4) 仕事や暮らしの状況別にみた幸福度

##### ①住宅の種類による幸福度

「北九州市」も「首都圏」も、「持家（一戸建て）」の幸福度が高く、一方、「公営借家」は低い。ただし「北九州市」では、「公営借家」や「給与住宅」の場合でも、女性の幸福度はかなり高く、男性との差が大きい。

また、「首都圏」では、「持家（一戸建て）」と「持家（集合住宅）」の差が小さく、男性では「持家（集合住宅）」の方が「持家（一戸建て）」よりも幸福度が高い。

表 2-9 住宅の種類別の回答率・幸福度

住宅の種類	回答率(%)						幸福度平均点数					
	北九州市			首都圏			北九州市			首都圏		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	5.88	5.80	5.97	6.36	6.11	6.60
持家(一戸建て)	46.0	45.0	47.0	34.2	31.6	36.8	6.00	5.96	6.04	6.65	6.38	6.89
持家(集合住宅)	20.3	20.5	20.0	32.6	33.2	32.0	5.85	5.80	5.90	6.53	6.48	6.58
民間の借家	22.3	20.0	24.5	22.8	24.4	21.2	5.75	5.73	5.78	5.93	5.41	6.53
給与住宅	4.3	6.0	2.5	4.0	4.8	3.2	6.06	5.67	7.00	6.15	6.00	6.38
公営の借家	5.0	6.0	4.0	4.4	4.8	4.0	5.45	4.83	6.38	5.59	5.50	5.70
その他	2.3	2.5	2.0	2.0	1.2	2.8	5.50	6.00	5.00	5.40	6.00	5.14

##### ②職業による幸福度

「北九州市」では、「主婦・主夫」、「管理職」、「専門的・技術的職業」の幸福度が比較的高い。そのうち「主婦・主夫」では、無職の方がパートタイマーよりやや幸福度が高い。また、「管理職」の幸福度は男女の差が大きく、男性では「首都圏」を上回るが、女性では平均値よりも低く、また「首都圏」よりも低い。それに対して「専門的・技術的職業」の幸福度は女性の方が高く、また、男女とも「首都圏」を上回る。

一方、「販売職」や「現業職」の幸福度は低く、なかでも販売職の男性はかなり低い。また、「無職（退職者を含む）」の幸福度も「首都圏」よりかなり低く、無職の女性は特に低い。

また、サンプル数はわずかだが、男性主夫の幸福度が「北九州市」も「首都圏」も、特に高い。



表 2-10 職業別の回答率・幸福度

職業	回答率(%)						幸福度平均点数					
	北九州市			首都圏			北九州市			首都圏		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	5.88	5.80	5.97	6.36	6.11	6.60
事務職	21.3	20.5	22.0	25.4	27.2	23.6	5.65	5.95	5.36	6.27	6.22	6.32
販売職	4.3	5.5	3.0	3.0	2.8	3.2	5.00	4.64	5.67	5.27	4.29	6.13
管理職	8.8	15.5	2.0	14.4	24.8	4.0	6.29	6.42	5.25	6.29	6.35	5.90
専門的・技術的職業	17.5	24.0	11.0	14.0	17.2	10.8	6.19	5.98	6.64	6.13	5.84	6.59
サービス職	6.3	8.5	4.0	5.4	6.4	4.4	5.76	5.41	6.50	6.00	6.13	5.82
現業職	3.5	6.5	0.5	1.2	2.4	0.0	5.00	5.00	5.00	6.00	6.00	-
主婦・主夫(パートタイマー)	8.3	1.0	15.5	5.0	0.4	9.6	6.45	5.50	6.52	6.20	7.00	6.17
主婦・主夫(無職)	15.3	1.5	29.0	19.4	1.2	37.6	6.59	7.67	6.53	7.21	7.33	7.20
学生	2.5	3.0	2.0	0.2	0.4	0.0	5.80	5.33	6.50	7.00	7.00	-
無職	9.3	10.0	8.5	9.4	14.0	4.8	5.16	5.95	4.24	5.98	6.03	5.83
その他	3.0	3.5	2.5	2.4	2.8	2.0	4.08	4.14	4.00	5.92	5.57	6.40

### ③収入による幸福度

#### a) 自身の収入

収入が高いほど幸福度も高まる傾向がみられるが、「北九州市」の方が「首都圏」よりも、収入の差による幸福度の差が大きい。「北九州市」では、女性では「100～200万円未満」、男性では「100～400万円未満」の幸福度がかなり低いが、「600～800万円未満」より上の階層では、「首都圏」の同じ収入階層よりも幸福度は高い。

「首都圏」では、800万円未満では収入階層によって幸福感の差はあまりなく、女性では400万円未満でも幸福感はかなり高い。一方、女性で「400～600万円未満」より上の階層の幸福度は「北九州市」よりも低く、首都圏で女性がまとまった収入を得るために働くことは、幸福の増進につながっていない。

表 2-11 自身の収入階層別の回答率・幸福度

年間収入 (ボーナスを含む)	回答率(%)						幸福度平均点数					
	北九州市			首都圏			北九州市			首都圏		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	5.88	5.80	5.97	6.36	6.11	6.60
全くない(0円)	16.3	6.5	26.0	12.8	3.6	22.0	5.91	5.92	5.90	6.59	5.11	6.84
1円以上100万円未満	16.5	7.0	26.0	10.0	4.0	16.0	6.18	5.79	6.29	6.68	5.80	6.90
100～200万円未満	11.8	7.5	16.0	9.4	6.0	12.8	4.72	4.60	4.78	6.23	5.20	6.72
200～400万円未満	20.0	21.5	18.5	15.8	16.0	15.6	5.46	4.88	6.14	6.25	6.00	6.51
400～600万円未満	15.0	24.5	5.5	16.6	22.8	10.4	6.05	6.04	6.09	6.20	6.26	6.08
600～800万円未満	8.5	13.5	3.5	15.4	21.6	9.2	6.00	5.89	6.43	5.84	5.91	5.70
800～1,000万円未満	4.8	7.5	2.0	7.6	10.8	4.4	6.84	6.73	7.25	6.37	6.56	5.91
1,000～1,200万円未満	2.5	3.5	1.5	6.0	8.0	4.0	6.60	6.00	8.00	6.63	6.40	7.10
1,200～1,400万円未満	3.0	5.5	0.5	2.2	2.8	1.6	7.25	7.18	8.00	6.64	6.57	6.75
1,400万円以上	1.8	3.0	0.5	4.2	4.4	4.0	7.29	7.50	6.00	7.43	7.18	7.70

#### b) 世帯の収入

自身の収入よりも世帯の収入の方が幸福度への影響が大きい。また、自身の収入と同様に、「北九州市」の方が「首都圏」よりも収入の差による幸福度の差が大きい。特に「北九州市」の女性では、世帯収入による影響が大きく、「800～1,000万円未満」より上の階層になると、



幸福度は大きく高まり「首都圏」を上回る。一方、「首都圏」の女性は、世帯収入による幸福度の差はあまり大きくない。

男性では、『400～1,000万円未満』の階層の幸福度は「北九州市」も「首都圏」も同程度であり、相応の世帯収入があれば、幸福度の地域差は小さいと考えられる。ただし、「北九州市」の男性では、「1,200～1,400万円未満」より上の階層になると幸福度は大きく高まり、世帯収入の上昇による幸福増進効果は「首都圏」よりも大きい。

表 2-12 世帯の収入階層別の回答率・幸福度

年間収入 (ボーナスを含む)	回答率(%)						幸福度平均点数					
	北九州市			首都圏			北九州市			首都圏		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	5.88	5.80	5.97	6.36	6.11	6.60
全くない(0円)	3.5	2.5	4.5	1.8	2.4	1.2	4.36	5.40	3.78	4.89	5.00	4.67
1円以上100万円未満	4.0	3.5	4.5	2.2	2.8	1.6	5.69	6.00	5.44	4.45	3.57	6.00
100～200万円未満	7.8	5.5	10.0	4.4	3.2	5.6	4.03	4.36	3.85	6.55	6.13	6.79
200～400万円未満	20.5	21.0	20.0	12.8	11.6	14.0	5.41	4.90	5.95	5.97	5.93	6.00
400～600万円未満	25.3	24.0	26.5	20.0	22.0	18.0	6.33	6.21	6.43	6.42	6.38	6.47
600～800万円未満	16.0	17.5	14.5	22.0	22.4	21.6	5.77	5.86	5.66	6.33	5.68	7.00
800～1,000万円未満	8.8	10.5	7.0	13.8	15.2	12.4	6.51	6.00	7.29	6.29	6.34	6.23
1,000～1,200万円未満	6.8	5.0	8.5	8.4	7.6	9.2	6.37	5.30	7.00	7.00	6.89	7.09
1,200～1,400万円未満	3.8	5.0	2.5	5.0	3.6	6.4	7.13	7.00	7.40	6.56	6.44	6.63
1,400万円以上	3.8	5.5	2.0	9.6	9.2	10.0	7.73	7.64	8.00	6.85	6.65	7.04

#### ④暮らし向きの見通しと幸福度

今後の暮らしや家計の状況がこれから先どうなっていくと思うかという問いに対し、「北九州市」、「首都圏」ともに、今と「おなじようなもの」と考える人が最も多く、次いで、「悪くなっていく」と考える人が多い。「北九州市」では「首都圏」に比べ、「悪くなっていく」と「わからない」の割合が大きい。

「良くなっていく」という人の幸福度は高く、「悪くなっていく」、「わからない」という人の幸福度は低い。現在幸福な人は明るい見通しを持ちやすく、また、楽観的な人は幸福を感じやすいのではないかと。そのような相互作用もあって、幸福度の高低と見通しの良し悪しには強い相関性があらわれていると思われる。

また、「同じようなもの」という人の幸福度は「北九州市」も「首都圏」も同程度であり、収入格差等があっても暮らし向きが安定していれば、幸福度の地域差は小さいと考えられる。

表 2-13 暮らし向きの見通し別の回答率・幸福度

	回答率(%)						幸福度平均点数					
	北九州市			首都圏			北九州市			首都圏		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	5.88	5.80	5.97	6.36	6.11	6.60
良くなっていく	8.8	9.5	8.0	13.2	11.2	15.2	7.06	6.79	7.38	7.30	7.36	7.26
同じようなもの	48.3	50.5	46.0	54.4	55.2	53.6	6.44	6.31	6.58	6.51	6.30	6.72
悪くなっていく	26.0	26.0	26.0	23.6	25.2	22.0	5.06	4.81	5.31	5.43	5.03	5.89
わからない	17.0	14.0	20.0	8.8	8.4	9.2	4.96	5.11	4.85	6.45	6.43	6.48

## 2-2 幸福度判断に関わる意識と幸福度

### (1) 幸福度を判断する際に重視した事項と幸福度

「北九州市」、「首都圏」、また「全国（国民生活選好度調査）」でも、「家計の状況」、「家族関係」、「健康状況」「精神的なゆとり」が上位を占めているが、「北九州市」では「家計の状況」、「首都圏」では「精神的なゆとり」が最も多い。

性別では、女性の方が男性よりも重視する事項が多く、なかでも、「友人関係」や「自由な時間」、「充実した余暇」、「精神的なゆとり」は、女性の回答率が男性をかなり上回る。

年齢別にみていくと、まず、年齢が高いほど「健康状況」を重視する傾向は「北九州市」でも「首都圏」でも明らかである。「北九州市」における世代間比較では、50歳代女性と20歳代男性で「家計の状況」、50歳代男女で「家族関係」、50歳代男性で「仕事の充実度」、60歳以上の女性で「趣味、社会貢献などの生きがい」が、他の世代に比べて高い回答率となっている。20歳代についてはサンプル数が少ないことを考慮する必要があるが、20歳代男性で、同世代の女性や他の世代、また「首都圏」の同世代の男性と比較して、「精神的なゆとり」や「自由な時間」の回答率が高いのが目立つ。

幸福度を判断する項目と幸福度の関係をみていくと、「北九州市」も「首都圏」も、「友人関係」や「家族関係」を重視する人の幸福度が高い。一方、「就業状況」重視する人の幸福度は最も低く、就業不安が「就業状況」の重視につながっていると思われる。

また、「北九州市」で幸福度が高いのは、サンプル数は少ないが、「職場の人間関係」や「充実した余暇」を重視する20歳代女性、「地域コミュニティとの関係」を重視する40歳代男性や50歳代以上の女性、「友人関係」を重視する60歳以上の女性などである。

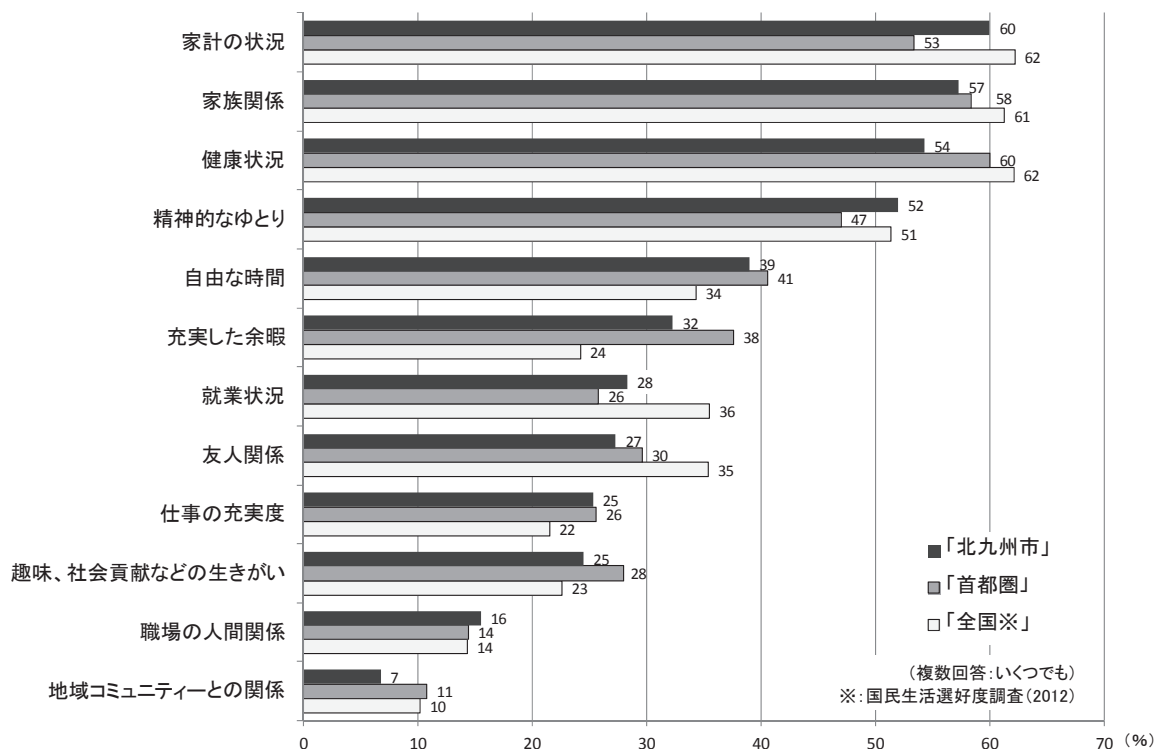


図 2-8 幸福度を判断する際に重視した事項別の回答率

表 2-14 幸福度を判断する際に重視した事項別の回答率・幸福度

		サンプル数	合計・平均	幸福度を判断する際に重視した事項(複数回答)													
				家計の状況	就業状況	健康状況	自由な時間	充実した余暇	仕事の充実度	精神的なゆとり	趣味、社会貢献などの生きがい	家族関係	友人関係	職場の人間関係	地域コミュニティとの関係		
回答率(%)		北九州市	400	100	60.0	28.3	54.3	39.0	32.3	25.3	52.0	24.5	57.3	27.3	15.5	6.8	
		男	全世代	200	100	58.0	29.5	50.5	33.0	26.5	29.5	46.5	22.0	53.0	20.0	13.5	6.0
			20歳代	17	100	70.6	29.4	41.2	47.1	29.4	17.6	58.8	41.2	41.2	17.6	11.8	11.8
			30歳代	29	100	44.8	37.9	48.3	31.0	31.0	34.5	41.4	27.6	48.3	34.5	20.7	13.8
			40歳代	88	100	56.8	31.8	42.0	33.0	21.6	28.4	46.6	17.0	46.6	11.4	9.1	2.3
			50歳代	46	100	65.2	30.4	65.2	34.8	32.6	41.3	50.0	23.9	71.7	28.3	21.7	6.5
			60歳以上	20	100	55.0	5.0	65.0	20.0	25.0	10.0	35.0	15.0	55.0	20.0	5.0	5.0
		女	全世代	200	100	62.0	27.0	58.0	45.0	38.0	21.0	57.5	27.0	61.5	34.5	17.5	7.5
			20歳代	17	100	41.2	35.3	29.4	29.4	17.6	29.4	58.8	29.4	35.3	35.3	17.6	0.0
			30歳代	57	100	56.1	28.1	54.4	47.4	38.6	26.3	57.9	26.3	49.1	35.1	21.1	5.3
			40歳代	67	100	71.6	29.9	59.7	41.8	35.8	22.4	59.7	22.4	70.1	35.8	17.9	10.4
			50歳代	37	100	59.5	24.3	67.6	48.6	51.4	8.1	48.6	27.0	78.4	32.4	13.5	5.4
			60歳以上	22	100	68.2	13.6	68.2	54.5	36.4	18.2	63.6	40.9	59.1	31.8	13.6	13.6
		首都圏		500	100	53.4	25.8	60.0	40.6	37.6	25.6	47.0	28.0	58.4	29.6	14.4	10.8
		男	全世代	250	100	47.6	27.6	56.0	34.4	32.4	26.8	40.0	24.0	52.0	22.8	16.0	12.8
20歳代	8		100	37.5	12.5	37.5	25.0	25.0	25.0	12.5	25.0	12.5	12.5	12.5	12.5		
30歳代	59		100	37.3	28.8	45.8	39.0	28.8	20.3	37.3	20.3	30.5	20.3	13.6	8.5		
40歳代	83		100	53.0	34.9	53.0	33.7	36.1	34.9	38.6	28.9	49.4	22.9	20.5	14.5		
50歳代	50		100	38.0	34.0	48.0	28.0	20.0	36.0	30.0	14.0	60.0	22.0	20.0	10.0		
60歳以上	50		100	62.0	10.0	84.0	38.0	44.0	12.0	60.0	30.0	80.0	28.0	8.0	18.0		
女	全世代	250	100	59.2	24.0	64.0	46.8	42.8	24.4	54.0	32.0	64.8	36.4	12.8	8.8		
	20歳代	13	100	61.5	38.5	53.8	53.8	38.5	30.8	38.5	30.8	53.8	15.4	15.4	7.7		
	30歳代	71	100	50.7	28.2	60.6	53.5	45.1	28.2	49.3	31.0	56.3	36.6	11.3	4.2		
	40歳代	89	100	57.3	25.8	62.9	38.2	34.8	25.8	51.7	30.3	66.3	36.0	15.7	9.0		
	50歳代	44	100	63.6	27.3	63.6	47.7	45.5	31.8	59.1	31.8	65.9	38.6	18.2	11.4		
	60歳以上	33	100	75.8	0.0	78.8	51.5	57.6	0.0	69.7	39.4	81.8	42.4	0.0	15.2		
幸福度平均点(10点満点)		北九州市	400	5.88	5.61	5.32	6.00	6.17	5.92	5.58	5.81	6.01	6.36	6.41	6.06	6.15	
		男	全世代	200	5.80	5.53	5.61	5.75	5.88	5.83	5.64	5.90	5.80	6.25	5.73	5.78	5.83
			20歳代	17	5.24	4.83	5.60	4.43	5.00	6.40	7.33	5.40	5.14	6.57	6.67	6.00	4.50
			30歳代	29	5.45	4.69	4.64	5.21	4.89	5.11	5.10	5.42	4.75	5.50	5.40	4.67	4.25
			40歳代	88	5.67	5.56	5.46	5.65	5.79	5.74	5.16	6.02	6.07	5.98	5.20	5.25	8.00
			50歳代	46	6.20	5.83	6.57	6.07	6.81	6.07	6.26	6.13	6.36	6.67	6.08	6.60	7.00
			60歳以上	20	6.40	6.36	7.00	6.62	6.75	6.20	6.00	6.00	6.67	6.82	6.00	8.00	7.00
		女	全世代	200	5.97	5.68	5.00	6.22	6.39	5.99	5.50	5.73	6.19	6.46	6.81	6.29	6.40
			20歳代	17	5.65	5.43	5.00	7.40	6.20	8.33	7.60	6.80	8.00	7.33	8.50	8.67	-
			30歳代	57	5.49	5.25	4.13	5.84	5.81	5.18	4.53	5.15	5.40	6.18	5.85	5.25	3.33
			40歳代	67	5.82	5.46	5.15	5.88	6.18	5.71	5.53	5.53	5.73	6.21	6.42	6.42	6.57
			50歳代	37	6.73	6.36	6.11	6.76	7.06	6.63	5.33	6.28	7.50	6.86	7.75	7.00	8.00
			60歳以上	22	6.59	6.40	5.33	6.60	7.25	6.63	6.50	6.21	5.78	6.62	7.86	6.33	8.00
		首都圏		500	6.36	6.42	6.12	6.61	6.84	6.65	6.52	6.72	6.79	6.98	6.99	6.89	6.96
		男	全世代	250	6.11	6.18	5.91	6.29	6.44	6.22	6.52	6.60	6.17	6.72	6.53	6.83	6.06
20歳代	8		5.38	6.67	8.00	6.33	7.50	7.00	6.50	8.00	6.50	7.00	7.00	7.00	0.00		
30歳代	59		6.10	5.86	5.65	5.85	6.22	6.71	6.08	6.18	6.50	6.94	6.00	6.63	7.00		
40歳代	83		5.90	5.73	6.00	6.18	6.00	5.43	6.52	6.44	6.00	6.85	6.16	7.06	6.75		
50歳代	50		5.90	6.00	5.53	5.96	6.07	5.20	6.44	5.93	4.86	5.90	6.27	6.20	3.80		
60歳以上	50		6.80	7.13	7.20	6.86	7.53	7.32	7.67	7.37	6.73	7.10	7.64	7.75	6.56		
女	全世代	250	6.60	6.61	6.37	6.89	7.14	6.98	6.51	6.81	7.25	7.18	7.29	6.97	8.27		
	20歳代	13	6.62	6.13	5.00	6.71	7.00	7.80	5.75	7.60	7.75	7.71	6.50	6.50	9.00		
	30歳代	71	6.28	6.64	5.95	6.81	6.42	6.56	6.15	6.40	6.95	7.25	6.88	6.00	8.00		
	40歳代	89	6.85	6.43	6.74	7.02	7.38	6.97	6.83	7.00	7.33	7.12	7.34	7.21	8.25		
	50歳代	44	6.36	6.50	6.92	6.96	7.52	7.00	6.71	6.81	6.86	7.07	7.59	7.63	9.00		
	60歳以上	33	6.91	7.20	-	6.73	7.82	7.47	-	6.91	7.85	7.19	7.64	-	7.60		

## (2) 幸福感を高める手立てと幸福度

幸福感を高めるために有効な手立ては何かという問いに対して、いずれの調査でも「家族との助け合い」と「自分自身の努力」がほぼ並んで最も多い。「全国（国民生活選好度調査）」に比較して「北九州市」や「首都圏」では「友人や仲間との助け合い」や「国や地方の政府からの支援」の回答率が低く、今回の調査対象者の自助意識は比較的高いと考えられる。

「北九州市」では、男性に「自分自身の努力」、女性に「家族との助け合い」が多く、また、女性に「友人や仲間との助け合い」が比較的多い。男性は自助意識、女性は共助意識が強いという傾向がみられる。一方、「首都圏」では、男女とも「家族との助け合い」が最も多いが、次いで「自分自身の努力」は女性の方が男性よりもかなり多く、「北九州市」と逆に、女性の自助意識がかなり高いことがうかがわれる。

「家族との助け合い」は年齢が高いほど増える傾向にあるが、「北九州市」では、40歳代の女性の回答率が最も高い。また、「自分自身の努力」は、20歳代男性と60歳以上の男性の回答率が最も高い。

幸福度との関係を見ていくと、「北九州市」も「首都圏」も、「家族との助け合い」を有効と考える人の幸福度が最も高く、一方、「国や地方の政府からの支援」や「社会の助け合い」を有効と考える人の幸福度は最も低い。公助や共助を求める人とそうでない人では、幸福度に明らかな差がみられる。

「北九州市」で幸福度が高いのは、「家族との助け合い」を有効と考える50歳代女性や、「友人や仲間との助け合い」を有効と考える60歳以上などである。

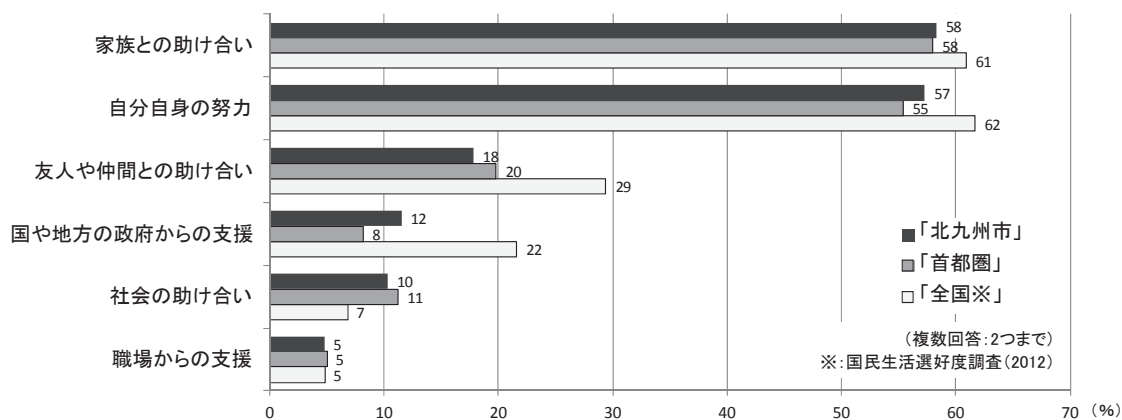


図 2-9 幸福度を高める手立て別の回答率

## (3) 社会貢献意識と幸福度

社会のために役立ちたいと「思っている」という回答率は、「北九州市」の男性では20歳代を除く各年齢層で「首都圏」の男性を上回る。一方、女性では、全年齢層で「首都圏」の女性を下回り、男性に比べて女性の消極性が目立つ結果となっている。

社会貢献したいと「思っている」人の幸福度は「あまり考えていない」という人より明らかに高く、年齢が高いほど幸福度も高くなっている。なかでも「北九州市」の60歳以上の女性の幸福度は特に高い。

表 2-15 幸福度を高める手立て・社会貢献意識別の回答率・幸福度

		サンプル数	合計・平均	自身の幸福度を高めるために有効な手立ては何か (2つまで選択)						社会の一員として何か社会のために役立ちたいと思っているか			
				自分自身の努力	家族との助け合い	友人や仲間との助け合い	社会の助け合い	職場からの支援	国や地方の政府からの支援	思っている	あまり考えていない	わからない	
回答率 (%)	北九州市	400	100	57.3	58.3	17.8	10.3	4.8	11.5	40.5	48.5	11.0	
	男	全世代	200	100	63.0	55.0	13.0	11.5	5.0	9.0	45.5	46.0	8.5
		20歳代	17	100	82.4	35.3	35.3	5.9	0.0	11.8	47.1	41.2	11.8
		30歳代	29	100	58.6	41.4	13.8	13.8	3.4	13.8	17.2	65.5	17.2
		40歳代	88	100	58.0	54.5	11.4	11.4	8.0	6.8	48.9	42.0	9.1
		50歳代	46	100	63.0	67.4	8.7	13.0	4.3	8.7	54.3	41.3	4.3
		60歳以上	20	100	75.0	65.0	10.0	10.0	0.0	10.0	50.0	50.0	0.0
	女	全世代	200	100	51.5	61.5	22.5	9.0	4.5	14.0	35.5	51.0	13.5
		20歳代	17	100	47.1	47.1	17.6	5.9	11.8	17.6	35.3	41.2	23.5
		30歳代	57	100	63.2	45.6	22.8	12.3	7.0	12.3	31.6	56.1	12.3
		40歳代	67	100	44.8	73.1	25.4	9.0	3.0	10.4	37.3	50.7	11.9
		50歳代	37	100	54.1	67.6	24.3	10.8	0.0	10.8	32.4	51.4	16.2
60歳以上		22	100	40.9	68.2	13.6	0.0	4.5	31.8	45.5	45.5	9.1	
首都圏	500	100	55.4	58.0	19.8	11.2	5.0	8.2	44.4	44.2	11.4		
男	全世代	250	100	48.8	52.0	21.6	13.6	6.0	10.8	42.4	48.4	9.2	
	20歳代	8	100	50.0	25.0	37.5	12.5	0.0	12.5	25.0	37.5	37.5	
	30歳代	59	100	42.4	42.4	30.5	13.6	6.8	11.9	52.5	37.3	10.2	
	40歳代	83	100	50.6	48.2	20.5	12.0	7.2	12.0	33.7	53.0	13.3	
	50歳代	50	100	40.0	54.0	26.0	16.0	10.0	10.0	48.0	50.0	2.0	
	60歳以上	50	100	62.0	72.0	6.0	14.0	0.0	8.0	42.0	54.0	4.0	
女	全世代	250	100	62.0	64.0	18.0	8.8	4.0	5.6	46.4	40.0	13.6	
	20歳代	13	100	61.5	53.8	23.1	7.7	0.0	7.7	46.2	46.2	7.7	
	30歳代	71	100	64.8	56.3	15.5	11.3	8.5	7.0	39.4	45.1	15.5	
	40歳代	89	100	58.4	64.0	19.1	7.9	3.4	6.7	48.3	38.2	13.5	
	50歳代	44	100	59.1	72.7	20.5	9.1	2.3	0.0	43.2	38.6	18.2	
	60歳以上	33	100	69.7	72.7	15.2	6.1	0.0	6.1	60.6	33.3	6.1	
幸福度平均点 (10点満点)	北九州市	400	5.88	5.86	6.61	6.21	4.78	5.32	4.20	6.28	5.59	5.68	
	男	全世代	200	5.80	5.90	6.49	5.65	4.78	5.60	4.06	6.13	5.39	6.18
		20歳代	17	5.24	5.50	6.67	5.50	4.00	-	1.50	5.00	5.00	7.00
		30歳代	29	5.45	5.59	6.33	4.50	4.75	1.00	5.00	5.20	5.47	5.60
		40歳代	88	5.67	5.75	6.21	5.40	5.00	5.71	3.50	6.02	5.11	6.38
		50歳代	46	6.20	6.34	6.87	6.75	4.17	7.50	4.25	6.60	5.68	6.00
		60歳以上	20	6.40	6.33	6.69	7.50	6.00	-	6.00	6.80	6.00	-
	女	全世代	200	5.97	5.80	6.72	6.53	4.78	5.00	4.29	6.46	5.77	5.37
		20歳代	17	5.65	6.38	6.88	4.67	2.00	6.50	3.67	6.17	5.00	6.00
		30歳代	57	5.49	5.42	6.42	6.46	4.86	4.00	3.57	5.39	5.72	4.71
		40歳代	67	5.82	5.47	6.37	6.35	5.00	4.00	4.14	6.52	5.38	5.50
		50歳代	37	6.73	6.50	7.56	7.33	5.00	-	5.00	6.92	6.68	6.50
60歳以上		22	6.59	6.33	6.87	7.33	-	8.00	5.00	7.90	6.10	2.50	
首都圏	500	6.36	6.44	6.79	6.23	5.30	5.96	5.73	6.65	5.87	7.07		
男	全世代	250	6.11	6.30	6.60	5.74	5.53	5.87	5.30	6.21	5.76	7.52	
	20歳代	8	5.38	7.00	5.00	6.33	5.00	-	0.00	6.00	5.33	5.00	
	30歳代	59	6.10	6.24	6.20	5.61	5.50	6.75	6.00	5.87	5.64	9.00	
	40歳代	83	5.90	6.07	6.93	4.94	5.30	4.67	5.40	5.64	5.70	7.36	
	50歳代	50	5.90	5.80	5.89	6.69	5.38	6.60	4.60	6.63	5.16	7.00	
	60歳以上	50	6.80	6.87	7.14	6.33	6.14	-	6.00	7.00	6.56	8.00	
女	全世代	250	6.60	6.56	6.95	6.82	4.95	6.10	6.57	7.06	6.01	6.76	
	20歳代	13	6.62	6.25	7.29	7.67	5.00	-	8.00	7.00	6.00	8.00	
	30歳代	71	6.28	6.54	7.08	6.36	4.13	5.50	6.00	6.96	5.66	6.36	
	40歳代	89	6.85	6.58	7.04	6.94	5.43	7.00	6.83	7.23	6.26	7.17	
	50歳代	44	6.36	6.23	6.44	6.33	5.50	7.00	-	6.26	6.24	6.88	
	60歳以上	33	6.91	7.04	7.13	7.80	5.50	-	6.50	7.60	5.91	5.50	

#### (4) 生活充実感と幸福度

日頃の生活の中で、どの程度充実感を感じているかという問いに対して、「北九州市」では、「十分感じている」及び「ある程度感じている」という回答率が「首都圏」や「全国（国民生活に関する世論調査）」を下回る。なかでも、20歳代と30歳代の男性や30歳代と40歳代の女性は「首都圏」との差が大きい。ただし、50歳代の男性では「北九州市」が「首都圏」を上回っている。

また、充実感を感じている人の幸福度をみると、「北九州市」は男女とも「首都圏」より高く、なかでも50歳以上の女性の幸福度が高い。

「北九州市」も「首都圏」も、「十分感じている」と「ほとんど（全く）感じていない」の幸福度の差は大きく、生活の充実感は幸福度を大きく左右していることがわかる。

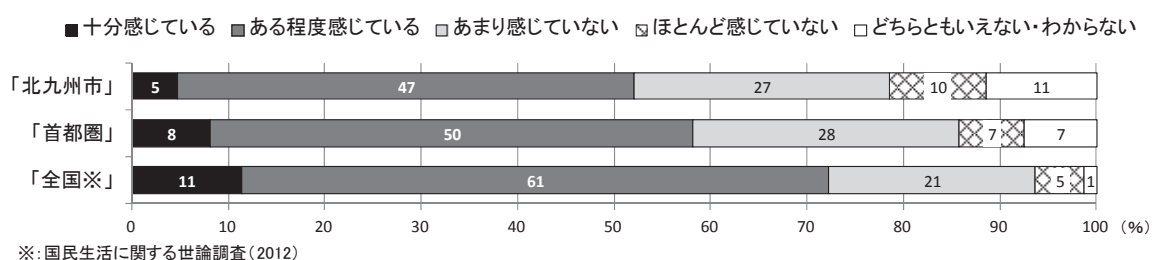


図 2-10 日頃の生活における充実感の程度別の回答率

さらに、どのような時に充実感を感じるかという問いに対し、「北九州市」も「首都圏」も、「家族団らんの時」、「ゆったりと休養している時」、「趣味やスポーツに熱中している時」という回答が上位を占める。「全国」では「友人や知人と会合、雑談している時」もかなり多く上位を占めるが、「北九州市」、「首都圏」ではさほど多くない。また、「首都圏」では、「勉強や教養などに身を入れている時」が「北九州市」や「全国」をかなり上回る。

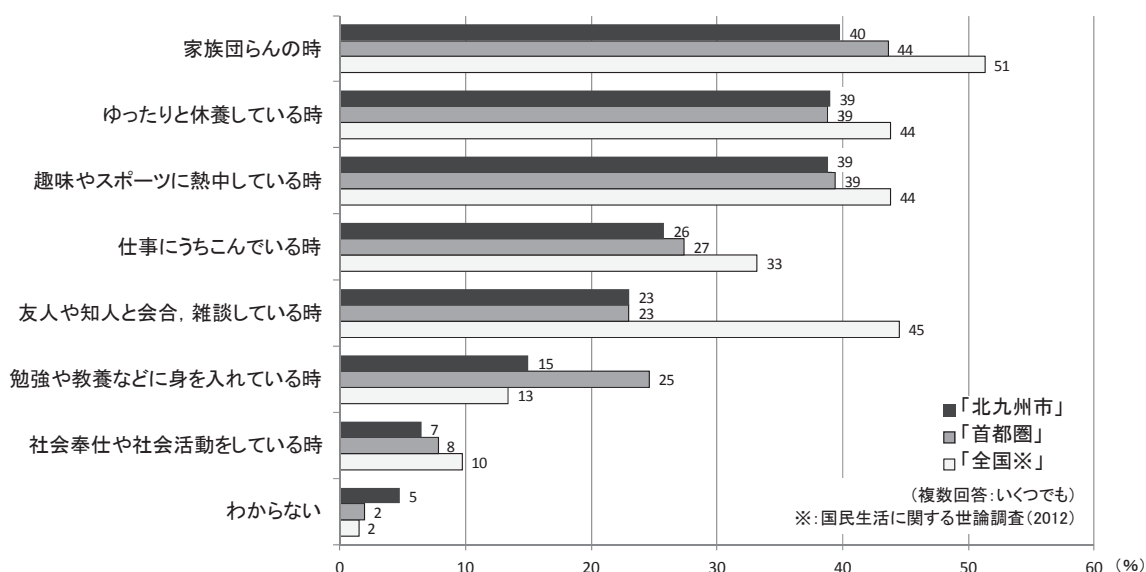


図 2-11 生活の中で充実感を感じる時別の回答率



表 2-16 生活における充実感の程度・充実感を感じる時別の回答率・幸福度

		サンプル数	合計・平均	日頃の生活の中で、どの程度充実感を感じているか						日頃の生活の中で充実感を感じるのは主にどのような時か(複数回答) ※									
				十分感じている	ある程度感じている	あまり感じていない	ほとんど(全く)感じていない	どちらともいえない	わからない	サンプル数	仕事にうちこんでいる時	勉強や教養などに身を入れている時	趣味やスポーツに熱中している時	ゆつたりと休養している時	家族団らんの時	雑談している時	友人や知人と会合、をしている時	社会奉仕や社会活動をしている時	わからない
回答率 (%)	北九州市	400	100	4.8	47.3	26.5	10.0	7.3	4.3	343	25.8	15.0	38.8	39.0	39.8	23.0	6.5	4.8	
	男	全世代	200	100	4.5	48.0	26.5	10.5	7.0	3.5	172	30.5	13.5	37.5	33.5	35.5	17.0	6.0	5.5
		20歳代	17	100	0.0	52.9	23.5	5.9	11.8	5.9	15	5.9	23.5	47.1	41.2	17.6	29.4	0.0	11.8
		30歳代	29	100	3.4	34.5	27.6	17.2	10.3	6.9	22	10.3	17.2	34.5	31.0	27.6	24.1	6.9	6.9
		40歳代	88	100	8.0	39.8	26.1	13.6	8.0	4.5	72	37.5	13.6	36.4	25.0	30.7	13.6	8.0	5.7
		50歳代	46	100	0.0	67.4	23.9	4.3	4.3	0.0	44	43.5	8.7	32.6	47.8	56.5	15.2	4.3	2.2
		60歳以上	20	100	5.0	55.0	35.0	5.0	0.0	0.0	19	20.0	10.0	50.0	35.0	35.0	15.0	5.0	5.0
	女	全世代	200	100	5.0	46.5	26.5	9.5	7.5	5.0	171	21.0	16.5	40.0	44.5	44.0	29.0	7.0	4.0
		20歳代	17	100	0.0	52.9	11.8	17.6	5.9	11.8	12	11.8	17.6	23.5	23.5	35.3	29.4	11.8	5.9
		30歳代	57	100	1.8	42.1	33.3	7.0	5.3	10.5	47	24.6	10.5	40.4	40.4	36.8	29.8	3.5	3.5
		40歳代	67	100	6.0	43.3	26.9	11.9	10.4	1.5	58	25.4	13.4	38.8	44.8	41.8	22.4	3.0	6.0
		50歳代	37	100	8.1	51.4	24.3	5.4	8.1	2.7	34	18.9	27.0	43.2	45.9	56.8	29.7	5.4	2.7
		60歳以上	22	100	9.1	54.5	22.7	9.1	4.5	0.0	20	9.1	22.7	50.0	68.2	54.5	45.5	27.3	0.0
	首都圏	500	100	8.2	50.0	27.6	6.8	4.2	3.2	450	27.4	24.6	39.4	38.8	43.6	23.0	7.8	2.0	
男	全世代	250	100	6.4	49.2	27.6	8.4	4.8	3.6	220	32.0	23.6	33.6	31.6	36.4	15.2	8.8	2.0	
	20歳代	8	100	0.0	62.5	25.0	12.5	0.0	0.0	7	50.0	75.0	12.5	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	
	30歳代	59	100	13.6	44.1	20.3	5.1	13.6	3.4	54	35.6	23.7	33.9	28.8	25.4	11.9	5.1	5.1	
	40歳代	83	100	3.6	42.2	30.1	14.5	2.4	7.2	65	31.3	18.1	27.7	36.1	32.5	12.0	8.4	2.4	
	50歳代	50	100	8.0	46.0	36.0	8.0	2.0	0.0	46	46.0	20.0	26.0	30.0	36.0	16.0	12.0	0.0	
	60歳以上	50	100	2.0	68.0	24.0	2.0	2.0	2.0	48	12.0	28.0	54.0	32.0	60.0	24.0	12.0	0.0	
女	全世代	250	100	10.0	50.8	27.6	5.2	3.6	2.8	230	22.8	25.6	45.2	46.0	50.8	30.8	6.8	2.0	
	20歳代	13	100	23.1	38.5	23.1	7.7	0.0	7.7	11	23.1	46.2	61.5	53.8	46.2	23.1	0.0	0.0	
	30歳代	71	100	11.3	45.1	29.6	8.5	2.8	2.8	63	22.5	29.6	35.2	43.7	49.3	29.6	4.2	0.0	
	40歳代	89	100	5.6	58.4	25.8	4.5	1.1	4.5	81	23.6	22.5	44.9	50.6	47.2	32.6	9.0	4.5	
	50歳代	44	100	13.6	43.2	27.3	4.5	11.4	0.0	42	27.3	29.5	47.7	34.1	50.0	25.0	11.4	2.3	
	60歳以上	33	100	9.1	57.6	30.3	0.0	3.0	0.0	33	15.2	12.1	57.6	51.5	66.7	39.4	3.0	0.0	
幸福度平均点 (10点満点)	北九州市	400	5.88	7.79	7.10	4.57	3.33	5.38	5.29	343	6.19	6.12	6.27	6.22	7.05	6.54	6.54	3.95	
	男	全世代	200	5.80	7.11	6.83	4.60	3.86	5.29	5.71	172	6.38	6.11	6.21	5.99	6.96	6.24	5.67	3.45
		20歳代	17	5.24	-	6.78	3.25	3.00	3.50	5.00	15	4.00	5.50	6.13	5.57	7.33	5.80	-	1.50
		30歳代	29	5.45	8.00	6.80	5.13	3.20	5.00	5.00	22	7.00	5.60	5.90	5.78	6.00	5.71	5.50	5.00
		40歳代	88	5.67	6.86	6.91	4.39	4.08	4.86	6.25	72	6.24	6.42	6.09	5.77	7.22	6.58	5.86	3.60
		50歳代	46	6.20	-	6.84	4.45	3.00	9.00	-	44	6.55	6.50	6.53	6.23	6.96	6.00	4.50	3.00
		60歳以上	20	6.40	8.00	6.64	5.71	7.00	-	-	19	6.75	6.00	6.50	6.57	6.86	7.33	7.00	4.00
	女	全世代	200	5.97	8.40	7.37	4.53	2.74	5.47	5.00	171	5.93	6.12	6.33	6.40	7.13	6.72	7.29	4.63
		20歳代	17	5.65	-	7.33	3.50	3.67	6.00	3.00	12	8.00	6.33	7.00	5.50	7.50	7.80	6.50	6.00
		30歳代	57	5.49	10.00	6.96	3.84	3.00	6.00	5.50	47	4.64	4.83	5.83	5.61	6.19	5.88	6.00	3.00
		40歳代	67	5.82	7.75	7.24	5.06	2.25	5.29	3.00	58	6.41	6.22	6.19	6.70	7.21	6.80	7.50	5.00
		50歳代	37	6.73	8.67	7.89	4.67	3.00	5.67	8.00	34	6.29	6.50	6.94	6.76	7.76	7.36	7.50	5.00
		60歳以上	22	6.59	8.50	7.67	5.40	2.50	4.00	-	20	7.50	6.60	6.55	6.87	7.25	6.80	7.83	-
	首都圏	500	6.36	7.34	7.04	5.26	3.76	6.62	7.75	450	6.46	6.21	6.51	6.93	7.25	6.92	6.72	6.70	
男	全世代	250	6.11	7.13	6.72	5.23	3.86	6.42	7.56	220	6.55	5.73	6.07	6.62	7.08	7.00	6.82	6.00	
	20歳代	8	5.38	-	6.60	5.00	0.00	-	-	7	6.50	6.33	7.00	8.00	8.00	8.00	-	-	
	30歳代	59	6.10	6.50	6.12	5.00	6.67	6.25	9.50	54	6.67	5.79	5.20	5.88	7.20	7.57	8.67	6.67	
	40歳代	83	5.90	7.00	6.69	5.36	3.83	7.00	6.83	65	6.50	5.27	6.13	6.47	7.04	5.80	6.29	5.00	
	50歳代	50	5.90	7.75	6.74	5.22	2.25	6.00	-	46	6.35	4.90	6.08	6.60	6.22	6.88	6.83	-	
	60歳以上	50	6.80	10.00	7.24	5.25	6.00	7.00	8.00	48	7.17	6.50	6.63	7.63	7.53	7.67	6.50	-	
女	全世代	250	6.60	7.48	7.35	5.29	3.62	6.89	8.00	230	6.33	6.66	6.83	7.15	7.38	6.88	6.59	7.40	
	20歳代	13	6.62	5.00	7.60	5.67	8.00	-	8.00	11	6.00	5.83	6.25	7.71	7.83	6.67	-	-	
	30歳代	71	6.28	7.75	7.22	4.86	4.00	7.50	6.00	63	6.00	6.10	6.48	6.68	7.17	6.19	4.33	-	
	40歳代	89	6.85	8.20	7.44	5.65	2.25	7.00	9.00	81	6.86	7.10	6.73	7.04	7.33	7.21	7.00	8.00	
	50歳代	44	6.36	6.67	7.26	5.25	3.00	6.60	-	42	6.33	6.85	7.14	7.47	7.91	6.55	7.60	5.00	
	60歳以上	33	6.91	9.67	7.32	5.30	-	7.00	-	33	5.40	8.00	7.42	7.76	7.14	7.62	5.00	-	

※:前問の回答者のうち、充実感を「ほとんど(全く)感じていない」、「わからない」という回答者以外に聴いている

女性の方が男性よりも、また女性では「首都圏」方が「北九州市」よりも選択項目の数が多く、充実感を感じる時が多いことがわかる。「北九州市」の女性では、年齢が高いほど選択項目数が多く、60歳以上では「首都圏」を上回る。一方「首都圏」の女性は年齢による選択項目数にあまり差が無く、最も多いのは20歳代の女性である。

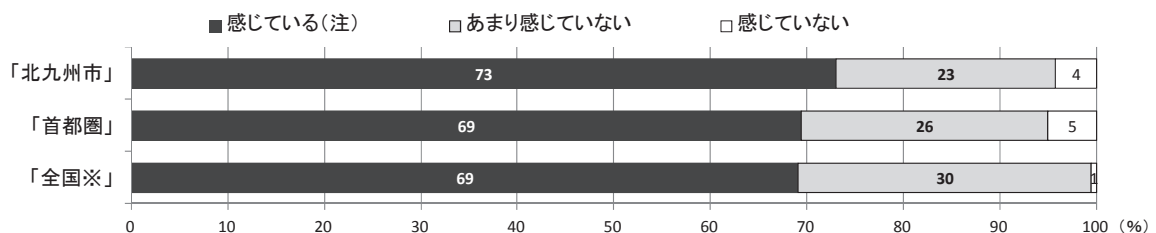
項目別にみても、ほとんどの項目で女性の方が回答率が高く、「北九州市」で男性の方が高いのは「仕事にうちこんでいる時」だけである。充足度を感じている人が多かった50歳代の男性で「仕事にうちこんでいる時」の回答率が高い。また、50歳代では男女とも、「家族団らんの時」の回答率が他の世代に比べて高い。

幸福度との関係を見ていくと、「北九州市」も「首都圏」も、「家族団らんの時」に充実感を感じる人の幸福度が最も高い。また、「北九州市」では、「勉強や教養などに身を入れている時」に充実感を感じる人は「首都圏」より少ないが、充実感を感じている男性の幸福度は「首都圏」よりも高い。「趣味やスポーツに熱中している時」に充実感を感じる人の幸福度も、「北九州市」の男性の方がやや高い。

#### (5) 不安や悩みと幸福度

生活の中で悩みや不安を感じているかという問いに対し、「感じている」と「ある程度感じている」を合わせた回答率は「北九州市」、「首都圏」、「全国（国民生活に関する世論調査）」のいずれも70%前後で、ほとんど差は無いが、わずかながら「北九州市」が高い。

「北九州市」では、男性の20歳代と50歳代、女性の30歳代、40歳代の回答率が高く、一方、60歳以上の男性では「あまり感じていない」が多い。



※:国民生活に関する世論調査(2012) (注)「北九州市」と「首都圏」は「感じている」と「ある程度感じている」の合計

図 2-12 生活における悩みや不安の有無別の回答率

不安や悩みを「感じている」人の幸福度は低く、「感じていない」人との幸福度の差は「北九州市」の方が「首都圏」よりも大きい。「首都圏」では、30歳代の男性の場合、「感じている」人や「ある程度感じている」人の方が「あまり感じていない」人よりも幸福度が高く、悩みや不安があってもポジティブな姿勢がうかがわれる。

また、「北九州市」も「首都圏」も、不安や悩みを感じている人の幸福度は男性の方が女性よりも低い。女性は、ある程度感じていても、それが幸福度にはさほど大きく影響しない。男性の方が深刻な不安や悩みを抱えているとも、また、女性の方が不安や悩みへの耐性が強いとも考えられる。





さらに、どのような悩みや不安を感じているかという問いに対し、「北九州市」では、「老後の生活設計」、「今後の収入や資産の見通し」及び「自分の健康」が、いずれも 40%前後で上位を占めている。「首都圏」に比べ、「老後の生活設計」、「今後の収入や資産の見通し」、「現在の収入や資産」といった収入、家計などに関する項目の回答率が高い。ただし、「全国（国民生活に関する世論調査）」に比べるとさほど高くない。

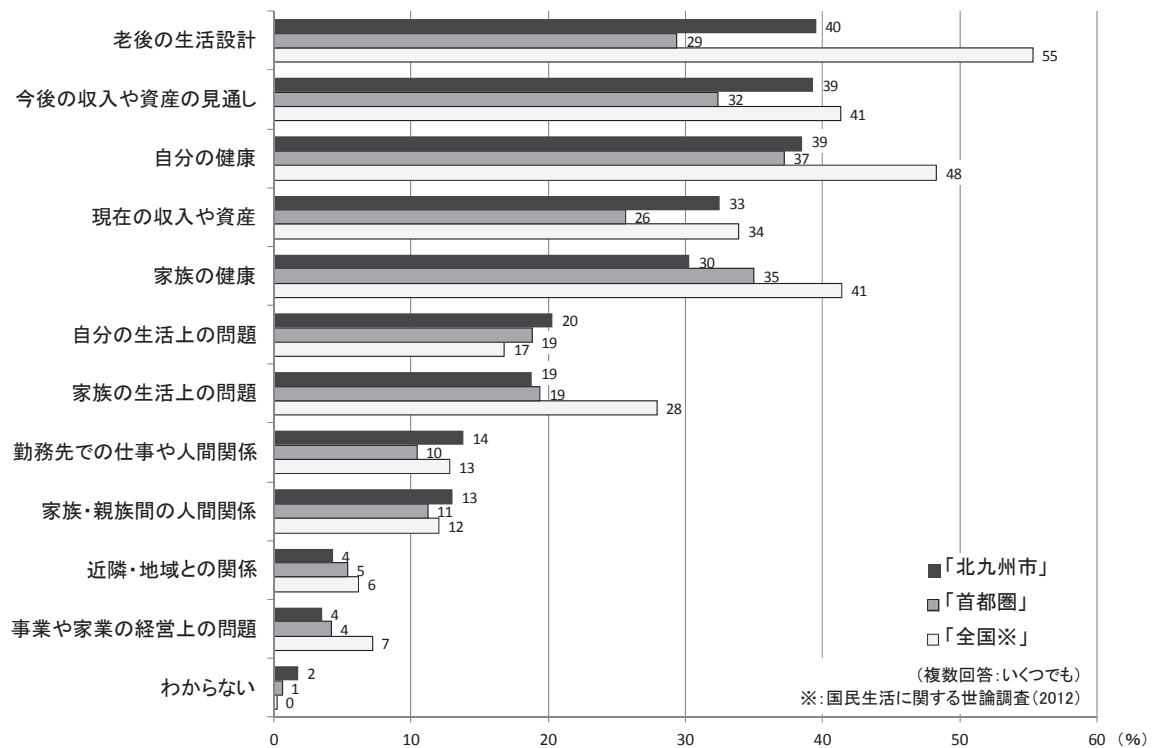


図 2-13 生活における悩みや不安の内容別の回答率

性別にみると、「北九州市」も「首都圏」も、女性の方が男性よりも選択項目数が多く、いくつもの悩みを抱える人は女性の方が多い。「北九州市」では、「家族の健康」、「自身の健康」、「老後の生活設計」の回答率は、女性の方がかなり高い。

さらに年齢別にみると、「北九州市」では、20 歳代は男女とも「自分の生活上の問題（進学、就職、結婚など）」の回答率が高く、特に 20 歳代男性では、「今後の収入や資産の見通し」や「現在の収入や資産」の回答率の高さが目立つ。また、30 歳代男性では「現在の収入や資産」、40 歳代女性では「今後の収入や資産の見通し」、50 歳代男性では「老後の生活設計」と「今後の収入や資産の見通し」、50 歳代女性では「自分の健康」、そして 60 歳以上の女性では「老後の生活設計」と「家族の健康」の回答率が高い。「首都圏」と比較して、収入や資産、生活上の問題について、不安や悩みを感じている若い世代が多い。

幸福度との関係を見ていくと、「北九州市」、「首都圏」ともに、「自分の生活上の問題（進学、就職、結婚など）」や「近隣・地域との関係」に不安や悩みを感じる人の幸福度が低い。

「北九州市」では、「家族の生活上の問題（進学、就職、結婚など）」、「家族・親族間の人間関係」、「近隣・地域との関係」などの悩みや不安を感じている 30 歳代男性の幸福度の低さが目立つ。また、「家族の生活上の問題（進学、就職、結婚など）」に悩みや不安を感じている 50 歳代女性の幸福度もかなり低い。

#### （6）生活に関する項目の重要度・満足度と幸福感

これからの生活にとってどのようなことをどの程度重要と思うか、10 項目についてたずねたところ、「きわめて重要」という回答が多いのは、「北九州市」、「首都圏」ともに「親子関係」と「子育て環境」であった。また、「北九州市」の回答率が「首都圏」より高い項目は、「就業環境」、「市民意見行政反映」、「要介護者対策等」及び「子育て環境」であった。「全国（国民生活に関する世論調査）」の方が「きわめて重要」という回答率が高い項目が多く、なかでも「防災・災害対策」について、「北九州市」と「全国」の意識の差が大きい。さらに、「きわめて重要」と「かなり重要」を合わせると、「北九州市」の回答率が「首都圏」より高いのは「就業環境」だけであり、「首都圏」に比べて生活上重視している項目は少ない。「全国」と比較しても、「北九州市」の回答率が上回るのは「就業環境」と「地域活動」だけである。

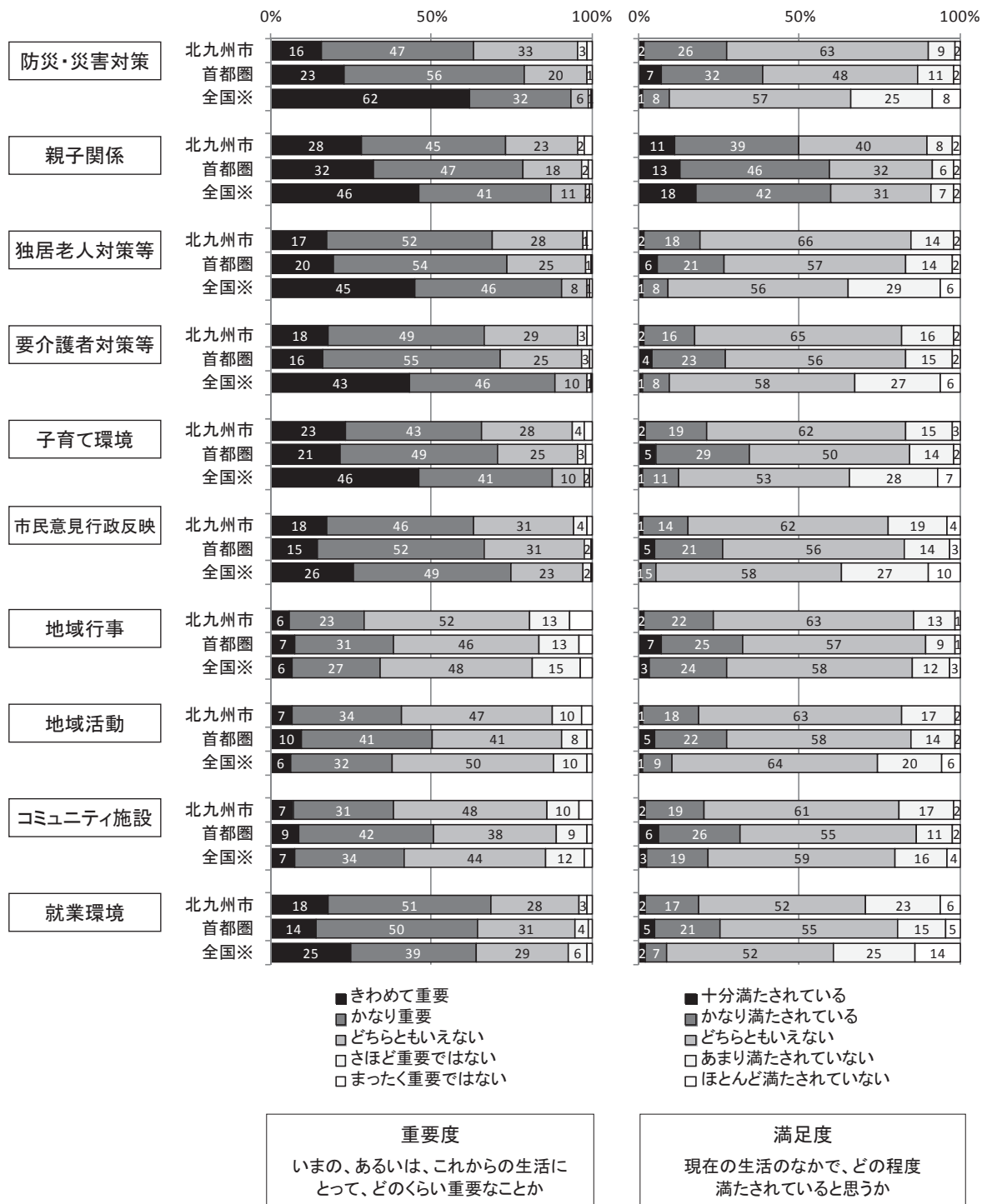
次に、同じ項目について、現在の満足度についてたずねたところ、まず、「十分満たされている」という回答は、どの項目も「首都圏」が「北九州市」を上回っている。「北九州市」、「首都圏」ともに、重要度と同じく「親子関係」が最も多い。「十分満たされている」と「かなり満たされている」を合わせてもほぼ同様の結果であり、総じて「首都圏」の方が満足度が高い。ただし、不満とする回答をみると、「ほとんど満たされたいない」は「北九州市」、「首都圏」とも同様にわずかであり、「あまり満たされていない」を合わせても大きな差はない。

重要度、満足度ともに、「北九州市」は「わからない」という回答が比較的多く、生活関連の諸事への関心がさほど高くないといった傾向がうかがわれる。

重要と思う項目と幸福度の関係をみると（表 2-18・19）、「北九州市」では、幸福度が比較的高いのは「地域行事」や「地域活動」を重要と考える人であり、そのうち男性では、「首都圏」で「地域行事」や「住民活動」を重視する男性よりも福度は高い。一方、「首都圏」では、「子育て環境」や「親子関係」を重要と考える人の幸福度が高い。

また、満足度と幸福度の関係をみると（表 2-20・21）、「北九州市」では、「親子関係」以外の全ての項目で、満たされている人の幸福度は「首都圏」を上回っている。そのなかで、「就業環境」や「コミュニティ施設」が満たされているという人の幸福度が比較的高い。

一方、満たされていない項目についてみると、「北九州市」では、満たされたいないという人の幸福度は、全ての項目で「首都圏」を下回っており、満たされている人といない人の幸福度の差は大きい。なかでも、「親子関係」が満たされていないという人の満足度が低い。



※: 国民生活選好度調査(2012)

図 2-14 生活に関する項目別の重要度・満足度別の回答率

表 2-18 生活に関する項目別・重要度別の回答率・幸福度

		サンプル数	合計・平均	防災・災害対策 (地震、台風、火災などに対する防災と被災後の支援がしっかりしていること)			親子関係 (親子の間の対話があり、互いに相手を信頼していること)			独居老人対策等 (ひとり暮らしの老人やひとり親世帯の人たちなどが安心して生活できること)			要介護者対策等 (重度の要介護の老人や障害者・障害児がいる家庭のための福祉サービスが充実していること)			子育て環境 (安心して子どもを養育できる環境が整っていること)			
				重要 ※1	いえない どちらとも	※2 重要ではない	重要	いえない どちらとも	重要ではない	重要	いえない どちらとも	重要ではない	重要	いえない どちらとも	重要ではない	重要	いえない どちらとも	重要ではない	
	北九州市	400	100	63.0	32.8	4.3	73.0	22.5	4.5	69.3	28.3	2.5	66.8	28.8	4.5	65.8	28.3	6.0	
回答率 (%)	男	全世代	200	100	58.0	36.5	5.5	69.5	24.0	6.5	66.0	30.5	3.5	62.0	32.0	6.0	63.0	30.5	6.5
		20歳代	17	100	52.9	41.2	5.9	52.9	47.1	-	70.6	29.4	-	58.8	35.3	5.9	64.7	29.4	5.9
		30歳代	29	100	51.7	48.3	-	79.3	13.8	6.9	62.1	34.5	3.4	58.6	37.9	3.4	58.6	41.4	-
		40歳代	88	100	52.3	38.6	9.1	61.4	28.4	10.2	55.7	37.5	6.8	53.4	37.5	9.1	63.6	25.0	11.4
		50歳代	46	100	69.6	28.3	2.2	87.0	10.9	2.2	84.8	15.2	-	76.1	21.7	2.2	65.2	30.4	4.3
		60歳以上	20	100	70.0	25.0	5.0	65.0	30.0	5.0	70.0	30.0	-	75.0	20.0	5.0	60.0	40.0	-
	女	全世代	200	100	68.0	29.0	3.0	76.5	21.0	2.5	72.5	26.0	1.5	71.5	25.5	3.0	68.5	26.0	5.5
		20歳代	17	100	58.8	35.3	5.9	52.9	47.1	-	52.9	47.1	-	52.9	41.2	5.9	64.7	35.3	-
		30歳代	57	100	61.4	36.8	1.8	75.4	22.8	1.8	66.7	28.1	5.3	66.7	28.1	5.3	77.2	15.8	7.0
		40歳代	67	100	71.6	25.4	3.0	79.1	16.4	4.5	73.1	26.9	-	70.1	26.9	3.0	62.7	29.9	7.5
		50歳代	37	100	75.7	21.6	2.7	73.0	24.3	2.7	78.4	21.6	-	83.8	16.2	-	64.9	29.7	5.4
		60歳以上	22	100	68.2	27.3	4.5	95.5	4.5	-	90.9	9.1	-	81.8	18.2	-	72.7	27.3	-
	首都圏	500	100	78.8	19.8	1.4	78.6	18.4	3.0	73.4	24.8	1.8	71.4	25.4	3.2	70.8	24.6	4.6	
幸福度平均点 (10点満点)	男	全世代	250	100	74.4	23.6	2.0	73.2	22.8	4.0	66.0	31.2	2.8	66.0	29.6	4.4	65.2	29.2	5.6
		20歳代	8	100	100.0	-	-	75.0	12.5	12.5	62.5	25.0	12.5	87.5	-	12.5	37.5	50.0	12.5
		30歳代	59	100	76.3	22.0	1.7	76.3	23.7	0.0	62.7	33.9	3.4	59.3	35.6	5.1	57.6	35.6	6.8
		40歳代	83	100	63.9	32.5	3.6	65.1	27.7	7.2	57.8	38.6	3.6	55.4	38.6	6.0	67.5	27.7	4.8
		50歳代	50	100	70.0	28.0	2.0	70.0	26.0	4.0	70.0	28.0	2.0	68.0	28.0	4.0	58.0	34.0	8.0
		60歳以上	50	100	90.0	10.0	-	86.0	12.0	2.0	80.0	20.0	-	86.0	14.0	0.0	82.0	16.0	2.0
	女	全世代	250	100	83.2	16.0	0.8	84.0	14.0	2.0	80.8	18.4	0.8	76.8	21.2	2.0	76.4	20.0	3.6
		20歳代	13	100	100.0	-	-	84.6	15.4	-	84.6	15.4	-	69.2	30.8	-	84.6	15.4	-
		30歳代	71	100	76.1	23.9	-	83.1	14.1	2.8	73.2	25.4	1.4	69.0	26.8	4.2	81.7	12.7	5.6
		40歳代	89	100	85.4	13.5	1.1	82.0	15.7	2.2	82.0	18.0	-	76.4	22.5	1.1	75.3	21.3	3.4
		50歳代	44	100	81.8	18.2	-	79.5	18.2	2.3	79.5	18.2	2.3	77.3	20.5	2.3	61.4	34.1	4.5
		60歳以上	33	100	87.9	9.1	3.0	97.0	3.0	-	93.9	6.1	-	97.0	3.0	-	84.8	15.2	-
	北九州市	400	5.88	6.27	5.29	4.65	6.20	4.97	5.28	6.16	5.23	5.40	6.21	5.17	5.44	6.28	4.99	5.71	
幸福度平均点 (10点満点)	男	全世代	200	5.80	6.25	5.14	5.36	6.15	4.90	5.31	6.11	5.05	6.43	6.16	5.06	5.92	6.29	4.84	5.54
		20歳代	17	5.24	6.22	3.86	6.00	6.33	4.00	-	5.75	4.00	-	6.10	3.67	6.00	6.09	4.00	2.00
		30歳代	29	5.45	5.67	5.21	-	5.74	5.50	2.00	5.72	4.70	8.00	5.65	4.91	8.00	6.35	4.17	-
		40歳代	88	5.67	6.26	4.85	5.75	6.07	4.72	5.89	5.96	5.15	6.17	6.11	4.94	6.13	6.13	4.36	6.00
		50歳代	46	6.20	6.34	6.08	3.00	6.30	5.60	5.00	6.38	5.14	-	6.29	6.20	3.00	6.47	5.79	5.00
		60歳以上	20	6.40	6.64	6.20	4.00	6.62	5.83	7.00	6.64	5.83	-	6.67	5.75	5.00	6.67	6.00	-
	女	全世代	200	5.97	6.29	5.48	3.33	6.24	5.05	5.20	6.21	5.44	3.00	6.26	5.31	4.50	6.27	5.17	5.91
		20歳代	17	5.65	6.80	4.17	3.00	7.00	4.13	-	7.11	4.00	-	7.11	4.14	3.00	6.64	3.83	-
		30歳代	57	5.49	5.60	5.48	2.00	5.74	4.38	9.00	5.55	5.81	3.00	5.61	5.44	4.33	5.66	4.33	6.25
		40歳代	67	5.82	5.96	5.47	5.50	5.85	6.00	4.67	5.94	5.50	-	5.94	5.56	5.50	6.36	4.80	5.40
		50歳代	37	6.73	7.14	5.75	3.00	7.19	5.78	3.00	7.00	5.75	-	7.13	4.67	-	7.00	6.18	6.50
		60歳以上	22	6.59	7.00	6.50	1.00	6.71	4.00	-	6.60	6.50	-	6.56	6.75	-	6.38	7.17	-
	首都圏	500	6.36	6.42	6.16	5.57	6.51	6.07	4.20	6.44	6.21	4.89	6.43	6.24	5.56	6.53	5.99	5.61	
幸福度平均点 (10点満点)	男	全世代	250	6.11	6.14	6.12	5.00	6.32	5.84	3.90	6.18	6.15	4.14	6.16	6.16	5.00	6.28	5.84	5.57
		20歳代	8	5.38	5.38	-	-	6.33	5.00	0.00	6.20	6.00	0.00	5.14	-	7.00	7.00	3.75	7.00
		30歳代	59	6.10	6.07	6.15	7.00	6.20	5.79	-	5.97	6.40	5.50	6.34	5.86	5.00	6.59	5.33	6.00
		40歳代	83	5.90	5.91	6.11	4.00	6.24	5.83	3.17	6.06	5.88	3.67	5.78	6.41	3.80	6.02	5.83	4.75
		50歳代	50	5.90	5.89	5.93	6.00	5.91	5.62	7.50	5.91	5.79	7.00	5.88	5.79	7.00	5.59	6.59	5.25
		60歳以上	50	6.80	6.82	6.60	-	6.86	6.67	5.00	6.73	7.10	-	6.81	6.71	-	6.83	6.63	7.00
	女	全世代	250	6.60	6.67	6.23	7.00	6.67	6.43	4.80	6.66	6.30	7.50	6.67	6.34	6.80	6.74	6.22	5.67
		20歳代	13	6.62	6.62	-	-	6.82	5.50	-	6.82	5.50	-	6.89	6.00	-	6.91	5.00	-
		30歳代	71	6.28	6.48	5.65	-	6.44	5.70	4.50	6.31	6.00	10.00	6.24	6.00	8.67	6.33	6.33	5.50
		40歳代	89	6.85	6.86	6.83	7.00	6.77	7.50	5.50	6.89	6.69	-	6.93	6.80	3.00	6.88	7.00	5.33
		50歳代	44	6.36	6.31	6.63	-	6.46	6.25	4.00	6.37	6.50	5.00	6.32	6.67	5.00	7.00	5.20	6.50
		60歳以上	33	6.91	7.00	6.00	7.00	7.06	2.00	-	6.97	6.00	-	7.06	2.00	-	6.96	6.60	-

※1:「きわめて重要」と「かなり重要」の和 ※2:「まったく重要ではない」と「さほど重要ではない」の和



表 2-19 生活に関する項目別・重要度別の回答率・幸福度(続き)

		サンプル数	合計・平均	市民意見行政反映 (行政に住民の要望や意見が十分採り入れられること)			地域行事 (祭り、盆踊り、運動会など自分が住んでいる地域の行事が盛んなこと)			地域活動 (自分が住んでいる地域・社会をよくする活動ができる時間や機会があること)			コミュニティ施設 (住民が集うための施設が自由に使えること)			就業環境 (住みたいと思う地域で希望する仕事に就けること)			
				重要	いえない	どちらとも	重要	いえない	どちらとも	重要	いえない	どちらとも	重要	いえない	どちらとも	重要	いえない	どちらとも	
				重要ではない	重要ではない	重要ではない	重要ではない	重要ではない	重要ではない	重要ではない	重要ではない	重要ではない	重要ではない	重要ではない	重要ではない	重要ではない	重要ではない	重要ではない	
回答率 (%)	北九州市	400	100	63.3	31.3	5.5	29.0	51.5	19.5	40.8	46.8	12.5	38.0	48.0	14.0	68.5	27.5	4.0	
	男	全世代	200	100	59.0	35.5	5.5	29.5	53.5	17.0	40.0	47.0	13.0	34.0	51.5	14.5	65.5	29.5	5.0
		20歳代	17	100	82.4	17.6	-	52.9	41.2	5.9	58.8	35.3	5.9	52.9	47.1	-	76.5	23.5	-
		30歳代	29	100	51.7	41.4	6.9	27.6	62.1	10.3	27.6	65.5	6.9	20.7	69.0	10.3	51.7	44.8	3.4
		40歳代	88	100	54.5	37.5	8.0	26.1	56.8	17.0	36.4	47.7	15.9	30.7	54.5	14.8	62.5	30.7	6.8
		50歳代	46	100	65.2	32.6	2.2	26.1	52.2	21.7	45.7	37.0	17.4	41.3	39.1	19.6	82.6	15.2	2.2
		60歳以上	20	100	55.0	40.0	5.0	35.0	40.0	25.0	45.0	50.0	5.0	35.0	45.0	20.0	50.0	40.0	10.0
	女	全世代	200	100	67.5	27.0	5.5	28.5	49.5	22.0	41.5	46.5	12.0	42.0	44.5	13.5	71.5	25.5	3.0
		20歳代	17	100	58.8	35.3	5.9	41.2	47.1	11.8	29.4	64.7	5.9	35.3	52.9	11.8	52.9	47.1	-
		30歳代	57	100	66.7	26.3	7.0	26.3	47.4	26.3	33.3	54.4	12.3	43.9	38.6	17.5	82.5	17.5	-
		40歳代	67	100	65.7	28.4	6.0	20.9	56.7	22.4	41.8	43.3	14.9	35.8	52.2	11.9	70.1	26.9	3.0
		50歳代	37	100	73.0	27.0	-	29.7	48.6	21.6	54.1	37.8	8.1	48.6	40.5	10.8	64.9	29.7	5.4
		60歳以上	22	100	72.7	18.2	9.1	45.5	36.4	18.2	50.0	36.4	13.6	50.0	36.4	13.6	72.7	18.2	9.1
	首都圏	500	100	66.4	31.2	2.4	38.0	45.6	16.4	50.2	40.6	9.2	50.8	38.2	11.0	64.2	30.6	5.2	
	男	全世代	250	100	61.2	36.0	2.8	37.6	46.0	16.4	50.4	39.2	10.4	47.6	39.6	12.8	62.0	33.2	4.8
		20歳代	8	100	37.5	50.0	12.5	50.0	37.5	12.5	37.5	37.5	25.0	50.0	37.5	12.5	75.0	25.0	-
		30歳代	59	100	59.3	37.3	3.4	52.5	37.3	10.2	62.7	30.5	6.8	59.3	32.2	8.5	74.6	22.0	3.4
		40歳代	83	100	56.6	41.0	2.4	33.7	47.0	19.3	49.4	41.0	9.6	43.4	43.4	13.3	60.2	34.9	4.8
50歳代		50	100	62.0	36.0	2.0	28.0	50.0	22.0	46.0	42.0	12.0	48.0	36.0	16.0	64.0	34.0	2.0	
60歳以上		50	100	74.0	24.0	2.0	34.0	52.0	14.0	44.0	44.0	12.0	40.0	46.0	14.0	46.0	44.0	10.0	
女	全世代	250	100	71.6	26.4	2.0	38.4	45.2	16.4	50.0	42.0	8.0	54.0	36.8	9.2	66.4	28.0	5.6	
	20歳代	13	100	61.5	38.5	-	23.1	53.8	23.1	53.8	38.5	7.7	53.8	38.5	7.7	46.2	38.5	15.4	
	30歳代	71	100	69.0	29.6	1.4	43.7	42.3	14.1	50.7	45.1	4.2	50.7	38.0	11.3	71.8	25.4	2.8	
	40歳代	89	100	73.0	24.7	2.2	39.3	46.1	14.6	50.6	39.3	10.1	55.1	36.0	9.0	65.2	28.1	6.7	
	50歳代	44	100	65.9	29.5	4.5	36.4	40.9	22.7	40.9	47.7	11.4	47.7	40.9	11.4	63.6	29.5	6.8	
	60歳以上	33	100	84.8	15.2	-	33.3	51.5	15.2	57.6	36.4	6.1	66.7	30.3	3.0	69.7	27.3	3.0	
幸福度平均点 (10点満点)	北九州市	400	5.88	6.21	5.36	5.09	6.50	5.60	5.71	6.45	5.52	5.34	6.36	5.57	5.63	6.05	5.45	5.94	
	男	全世代	200	5.80	6.16	5.11	6.27	6.53	5.37	5.85	6.51	5.17	5.85	6.38	5.34	6.03	6.15	5.08	5.40
		20歳代	17	5.24	5.21	5.33	-	6.22	4.14	4.00	5.90	4.00	6.00	6.22	4.13	-	5.85	3.25	-
		30歳代	29	5.45	5.80	5.00	5.50	6.25	5.06	5.67	6.00	5.21	5.50	5.67	5.30	6.00	5.80	5.23	3.00
		40歳代	88	5.67	6.15	4.91	6.00	6.52	5.14	6.13	6.59	4.88	5.93	6.41	5.13	6.15	6.04	5.11	4.83
		50歳代	46	6.20	6.67	5.13	8.00	7.00	6.21	5.20	6.76	5.65	5.88	6.63	6.06	5.56	6.47	4.43	8.00
		60歳以上	20	6.40	6.55	6.00	8.00	6.43	6.13	6.80	6.78	6.20	5.00	6.43	6.22	6.75	6.40	6.25	7.00
	女	全世代	200	5.97	6.24	5.69	3.91	6.47	5.84	5.59	6.40	5.88	4.79	6.35	5.84	5.19	5.97	5.86	6.83
		20歳代	17	5.65	6.80	4.17	3.00	7.14	4.63	4.50	7.40	4.82	6.00	7.50	4.67	4.50	6.33	4.88	-
		30歳代	57	5.49	5.71	5.60	3.00	5.60	5.52	5.33	5.58	5.81	3.86	5.84	5.68	4.20	5.51	5.40	-
		40歳代	67	5.82	6.11	5.58	3.75	6.71	6.00	4.53	6.29	6.00	4.00	5.92	5.91	5.13	5.77	6.17	4.00
		50歳代	37	6.73	6.93	6.20	-	6.45	6.44	7.75	6.80	6.71	6.33	6.78	6.80	6.25	6.67	6.55	8.50
		60歳以上	22	6.59	6.38	7.50	6.50	7.00	6.00	6.75	6.91	5.75	7.67	7.09	5.50	7.67	6.63	5.75	8.00
	首都圏	500	6.36	6.38	6.31	6.17	6.32	6.46	6.16	6.33	6.57	5.54	6.38	6.47	5.85	6.38	6.19	7.04	
	男	全世代	250	6.11	6.10	6.13	6.00	6.13	6.19	5.85	6.08	6.27	5.69	6.15	6.12	5.94	6.09	6.00	7.17
		20歳代	8	5.38	4.67	5.50	7.00	4.25	6.33	7.00	5.67	3.67	7.50	4.25	6.00	8.00	6.50	2.00	-
		30歳代	59	6.10	6.17	5.95	6.50	6.29	5.95	5.67	6.14	5.89	6.75	6.37	5.47	6.60	6.14	6.00	6.00
		40歳代	83	5.90	5.81	6.09	5.00	5.68	6.36	5.19	5.88	6.32	4.25	5.67	6.39	5.09	5.78	5.97	7.00
50歳代		50	5.90	5.94	5.78	7.00	6.36	5.60	6.00	5.83	6.24	5.00	6.00	5.89	5.63	5.84	5.82	9.00	
60歳以上		50	6.80	6.68	7.33	5.00	6.82	6.69	7.14	6.68	6.86	7.00	7.20	6.43	6.86	6.91	6.55	7.40	
女	全世代	250	6.60	6.62	6.56	6.40	6.50	6.73	6.46	6.59	6.85	5.35	6.58	6.85	5.74	6.65	6.41	6.93	
	20歳代	13	6.62	6.50	6.80	-	6.33	6.71	6.67	6.43	6.80	7.00	6.57	6.60	7.00	6.33	6.60	7.50	
	30歳代	71	6.28	6.33	6.00	10.00	6.10	6.33	6.70	6.11	6.47	6.33	5.78	6.70	7.13	6.43	5.50	9.50	
	40歳代	89	6.85	6.94	6.86	4.00	6.97	6.88	6.46	7.27	6.71	5.33	7.20	6.81	4.88	6.86	7.24	5.17	
	50歳代	44	6.36	5.97	7.15	7.00	5.81	6.67	6.70	5.67	7.29	5.00	5.81	7.22	5.60	6.18	6.31	8.33	
	60歳以上	33	6.91	7.11	5.80	-	7.18	7.18	5.40	6.84	7.50	4.00	7.23	6.80	1.00	7.26	6.00	7.00	

表 2-20 生活に関する項目別・満足度別の回答率・幸福度

		サンプル数	合計・平均	防災・災害対策 (地震、台風、火災などに対する防災と被災後の支援がしっかりしていること)			親子関係 (親子の間の対話があり、互いに相手を信頼していること)			独居老人対策等 (ひとり暮らしの老人やひとり親世帯の人たちが安心して生活できること)			要介護者対策等 (重度の要介護の老人や障害者・障害児がいる家庭のための福祉サービスが充実していること)			子育て環境 (安心して子どもを生み育てられる環境が整っていること)			
				※1	満たされている	ない	※2	満たされていない	ない	どちらともいえない	満たされている	ない	どちらともいえない	満たされている	ない	どちらともいえない	満たされている	ない	どちらともいえない
				27.3	62.8	10.0	50.0	39.8	10.3	19.0	65.8	15.3	17.3	64.5	18.3	21.0	62.0	17.0	
回答率 (%)	北九州市	400	100	27.3	62.8	10.0	50.0	39.8	10.3	19.0	65.8	15.3	17.3	64.5	18.3	21.0	62.0	17.0	
	男	全世代	200	100	28.5	59.5	12.0	48.0	39.5	12.5	22.0	63.5	14.5	18.0	63.5	18.5	20.0	62.0	18.0
		20歳代	17	100	35.3	52.9	11.8	29.4	64.7	5.9	23.5	64.7	11.8	17.6	58.8	23.5	11.8	58.8	29.4
		30歳代	29	100	31.0	65.5	3.4	44.8	44.8	10.3	17.2	75.9	6.9	20.7	65.5	13.8	20.7	65.5	13.8
		40歳代	88	100	28.4	53.4	18.2	47.7	37.5	14.8	25.0	58.0	17.0	19.3	59.1	21.6	23.9	51.1	25.0
		50歳代	46	100	26.1	67.4	6.5	56.5	28.3	15.2	21.7	65.2	13.0	13.0	73.9	13.0	13.0	78.3	8.7
		60歳以上	20	100	25.0	65.0	10.0	50.0	45.0	5.0	15.0	65.0	20.0	20.0	60.0	20.0	25.0	70.0	5.0
	女	全世代	200	100	26.0	66.0	8.0	52.0	40.0	8.0	16.0	68.0	16.0	16.5	65.5	18.0	22.0	62.0	16.0
		20歳代	17	100	29.4	64.7	5.9	47.1	52.9	-	23.5	64.7	11.8	17.6	76.5	5.9	29.4	58.8	11.8
		30歳代	57	100	17.5	73.7	8.8	50.9	40.4	8.8	10.5	70.2	19.3	8.8	77.2	14.0	22.8	61.4	15.8
		40歳代	67	100	25.4	65.7	9.0	43.3	43.3	13.4	11.9	70.1	17.9	14.9	56.7	28.4	19.4	59.7	20.9
		50歳代	37	100	29.7	62.2	8.1	70.3	24.3	5.4	29.7	59.5	10.8	24.3	64.9	10.8	24.3	64.9	10.8
		60歳以上	22	100	40.9	54.5	4.5	54.5	45.5	-	13.6	72.7	13.6	27.3	54.5	18.2	18.2	68.2	13.6
	首都圏	500	100	38.6	48.2	13.2	59.2	32.4	8.4	26.4	56.8	16.8	26.8	56.2	17.0	34.6	49.8	15.6	
	男	全世代	250	100	42.0	46.4	11.6	57.6	34.0	8.4	28.8	56.8	14.4	28.8	53.6	17.6	34.8	52.4	12.8
		20歳代	8	100	75.0	25.0	-	62.5	25.0	12.5	87.5	12.5	-	87.5	-	12.5	75.0	12.5	12.5
		30歳代	59	100	47.5	44.1	8.5	62.7	35.6	1.7	45.8	45.8	8.5	35.6	52.5	11.9	39.0	52.5	8.5
		40歳代	83	100	37.3	49.4	13.3	45.8	39.8	14.5	16.9	66.3	16.9	21.7	61.4	16.9	34.9	53.0	12.0
50歳代		50	100	44.0	46.0	10.0	60.0	32.0	8.0	26.0	62.0	12.0	30.0	54.0	16.0	36.0	52.0	12.0	
60歳以上		50	100	36.0	48.0	16.0	68.0	26.0	6.0	22.0	56.0	22.0	22.0	50.0	28.0	22.0	58.0	20.0	
女	全世代	250	100	35.2	50.0	14.8	60.8	30.8	8.4	24.0	56.8	19.2	24.8	58.8	16.4	34.4	47.2	18.4	
	20歳代	13	100	69.2	15.4	15.4	69.2	30.8	-	46.2	46.2	7.7	46.2	46.2	7.7	53.8	38.5	7.7	
	30歳代	71	100	33.8	53.5	12.7	47.9	40.8	11.3	28.2	54.9	16.9	29.6	59.2	11.3	36.6	45.1	18.3	
	40歳代	89	100	31.5	50.6	18.0	60.7	29.2	10.1	14.6	64.0	21.3	18.0	62.9	19.1	29.2	48.3	22.5	
	50歳代	44	100	38.6	50.0	11.4	61.4	29.5	9.1	27.3	52.3	20.5	20.5	61.4	18.2	31.8	61.4	6.8	
	60歳以上	33	100	30.3	54.5	15.2	84.8	15.2	-	27.3	51.5	21.2	30.3	48.5	21.2	39.4	33.3	27.3	
幸福度平均点 (10点満点)	北九州市	400	5.88	6.81	5.59	5.18	6.80	5.25	3.83	6.76	5.83	5.02	6.74	5.87	5.10	6.69	5.80	5.16	
	男	全世代	200	5.80	6.77	5.51	4.88	6.67	5.34	3.88	6.82	5.61	5.07	6.69	5.77	5.00	6.73	5.73	4.97
		20歳代	17	5.24	5.33	5.44	4.00	5.80	5.09	4.00	6.00	5.09	4.50	6.67	4.70	5.50	3.50	5.20	6.00
		30歳代	29	5.45	6.33	5.26	1.00	6.54	5.15	2.00	6.60	5.45	2.50	6.17	5.68	3.25	6.50	5.58	3.25
		40歳代	88	5.67	7.08	5.15	5.00	6.81	4.88	4.00	6.73	5.41	5.00	6.71	5.54	5.11	7.14	5.38	4.86
		50歳代	46	6.20	7.17	5.87	5.67	6.81	5.92	4.43	7.50	5.83	5.83	7.50	6.21	4.83	6.33	6.17	6.25
		60歳以上	20	6.40	6.80	6.38	5.50	6.30	6.78	4.00	6.67	6.54	5.75	6.25	6.58	6.00	7.00	6.36	4.00
	女	全世代	200	5.97	6.85	5.66	5.63	6.92	5.16	3.75	6.69	6.03	4.97	6.79	5.97	5.19	6.66	5.87	5.38
		20歳代	17	5.65	5.40	6.00	3.00	6.63	4.78	-	5.25	5.64	6.50	5.67	5.31	10.00	4.40	5.80	8.00
		30歳代	57	5.49	5.50	5.45	5.80	6.00	5.00	4.80	5.50	5.73	4.64	5.60	5.77	3.88	5.54	5.57	5.11
		40歳代	67	5.82	7.24	5.23	6.17	6.90	5.52	3.33	6.88	5.87	4.92	7.30	5.55	5.58	7.08	5.58	5.36
		50歳代	37	6.73	7.82	6.43	5.00	7.62	5.00	3.00	7.18	6.91	4.50	7.00	7.00	4.50	8.33	6.54	4.25
		60歳以上	22	6.59	7.22	6.17	6.00	7.92	5.00	-	8.67	6.31	6.00	7.17	6.67	5.50	8.00	6.33	6.00
	首都圏	500	6.36	6.59	6.43	5.42	6.92	5.87	4.26	6.33	6.52	5.83	6.47	6.46	5.84	6.66	6.33	5.74	
	男	全世代	250	6.11	6.39	6.09	5.17	6.76	5.54	3.95	6.13	6.23	5.64	6.03	6.20	5.98	6.23	6.12	5.75
		20歳代	8	5.38	5.00	6.50	-	6.00	6.50	0.00	5.00	8.00	-	5.00	-	8.00	4.67	7.00	8.00
		30歳代	59	6.10	6.25	6.23	4.60	6.46	5.62	3.00	6.33	6.15	4.60	6.33	6.13	5.29	6.52	6.03	4.60
		40歳代	83	5.90	5.94	6.22	4.64	6.66	5.73	4.00	5.00	6.24	5.50	5.28	6.24	5.50	5.93	6.00	5.40
50歳代		50	5.90	6.73	5.39	4.60	6.60	4.88	4.75	6.38	5.71	5.83	6.00	5.93	5.63	6.33	5.54	6.17	
60歳以上		50	6.80	7.44	6.38	6.63	7.47	5.62	4.33	7.45	6.79	6.18	7.36	6.52	6.86	7.09	6.90	6.20	
女	全世代	250	6.60	6.82	6.74	5.62	7.07	6.23	4.57	6.57	6.82	5.98	6.98	6.69	5.68	7.10	6.57	5.74	
	20歳代	13	6.62	7.22	6.50	4.00	6.22	7.50	-	5.33	8.17	5.00	7.17	6.33	5.00	7.14	6.20	5.00	
	30歳代	71	6.28	6.54	6.45	4.89	6.94	5.83	5.13	5.95	6.46	6.25	6.48	6.31	5.63	6.73	5.97	6.15	
	40歳代	89	6.85	7.25	6.96	5.88	7.31	6.77	4.33	8.23	6.60	6.68	7.81	6.70	6.47	7.38	7.09	5.65	
	50歳代	44	6.36	5.88	6.64	6.80	6.78	6.23	4.00	5.92	7.04	5.22	6.44	6.81	4.75	6.43	6.37	6.00	
	60歳以上	33	6.91	7.50	6.94	5.60	7.29	4.80	-	7.22	7.65	4.71	7.10	7.63	5.00	8.00	6.91	5.33	

※1:「十分満たされている」と「かなり満たされている」の和 ※2:「ほとんど満たされていない」と「あまり満たされていない」の和

表 2-21 生活に関する項目別・満足度別の回答率・幸福度(続き)

		サンプル数	合計・平均	市民意見行政反映 (行政に住民の要望や意見が十分採り入れられること)			地域行事 (祭り、盆踊り、運動会など自分が住んでいる地域の行事が盛んなこと)			地域活動 (自分が住んでいる地域・社会をよくする活動ができる時間や機会があること)			コミュニティ施設 (住民が集うための施設が自由に使えること)			就業環境 (住みたいと思う地域で希望する仕事につけること)					
				いる	満たされて	いえない	どちらとも	ない	満たされて	いえない	どちらとも	ない	満たされて	いえない	どちらとも	ない	満たされて	いえない	どちらとも	ない	満たされて
				15.3	62.3	22.5	23.3	62.5	14.3	18.8	63.3	18.0	20.5	60.5	19.0	18.5	52.3	29.3			
回答率 (%)	北九州市	400	100	15.3	62.3	22.5	23.3	62.5	14.3	18.8	63.3	18.0	20.5	60.5	19.0	18.5	52.3	29.3			
	男	全世代	200	100	14.0	62.5	23.5	21.5	64.0	14.5	18.5	61.0	20.5	19.5	59.5	21.0	18.0	49.0	33.0		
		20歳代	17	100	23.5	58.8	17.6	35.3	64.7	-	29.4	52.9	17.6	29.4	52.9	17.6	17.6	47.1	35.3		
		30歳代	29	100	10.3	75.9	13.8	17.2	75.9	6.9	20.7	69.0	10.3	17.2	72.4	10.3	13.8	65.5	20.7		
		40歳代	88	100	19.3	52.3	28.4	25.0	53.4	21.6	20.5	52.3	27.3	21.6	50.0	28.4	19.3	44.3	36.4		
		50歳代	46	100	4.3	71.7	23.9	15.2	76.1	8.7	8.7	73.9	17.4	10.9	73.9	15.2	19.6	50.0	30.4		
		60歳以上	20	100	10.0	70.0	20.0	15.0	65.0	20.0	20.0	65.0	15.0	25.0	55.0	20.0	15.0	45.0	40.0		
	女	全世代	200	100	16.5	62.0	21.5	25.0	61.0	14.0	19.0	65.5	15.5	21.5	61.5	17.0	19.0	55.5	25.5		
		20歳代	17	100	17.6	58.8	23.5	23.5	64.7	11.8	11.8	70.6	17.6	17.6	52.9	29.4	17.6	52.9	29.4		
		30歳代	57	100	15.8	61.4	22.8	29.8	50.9	19.3	15.8	68.4	15.8	15.8	66.7	17.5	17.5	54.4	28.1		
		40歳代	67	100	11.9	62.7	25.4	16.4	68.7	14.9	11.9	68.7	19.4	20.9	59.7	19.4	19.4	52.2	28.4		
		50歳代	37	100	24.3	67.6	8.1	32.4	62.2	5.4	32.4	59.5	8.1	27.0	67.6	5.4	24.3	62.2	13.5		
		60歳以上	22	100	18.2	54.5	27.3	27.3	59.1	13.6	31.8	54.5	13.6	31.8	50.0	18.2	13.6	59.1	27.3		
	首都圏	500	100	26.2	56.4	17.4	32.2	57.0	10.8	27.2	57.6	15.2	31.6	54.8	13.6	25.4	55.4	19.2			
	幸福度平均点 (10点満点)	男	全世代	250	100	28.0	53.6	18.4	32.0	57.6	10.4	26.0	57.6	16.4	31.6	54.0	14.4	26.0	54.0	20.0	
			20歳代	8	100	50.0	37.5	12.5	37.5	37.5	25.0	12.5	62.5	25.0	50.0	37.5	12.5	25.0	37.5	37.5	
			30歳代	59	100	45.8	40.7	13.6	45.8	42.4	11.9	39.0	47.5	13.6	44.1	44.1	11.9	39.0	49.2	11.9	
			40歳代	83	100	22.9	57.8	19.3	26.5	61.4	12.0	20.5	59.0	20.5	21.7	61.4	16.9	20.5	56.6	22.9	
50歳代			50	100	20.0	68.0	12.0	34.0	62.0	4.0	26.0	60.0	14.0	34.0	60.0	6.0	36.0	42.0	22.0		
60歳以上			50	100	20.0	50.0	30.0	22.0	68.0	10.0	22.0	64.0	14.0	28.0	50.0	22.0	10.0	70.0	20.0		
女		全世代	250	100	24.4	59.2	16.4	32.4	56.4	11.2	28.4	57.6	14.0	31.6	55.6	12.8	24.8	56.8	18.4		
		20歳代	13	100	53.8	38.5	7.7	53.8	46.2	-	53.8	38.5	7.7	30.8	69.2	-	30.8	61.5	7.7		
		30歳代	71	100	25.4	63.4	11.3	29.6	60.6	9.9	28.2	60.6	11.3	33.8	56.3	9.9	31.0	52.1	16.9		
		40歳代	89	100	18.0	62.9	19.1	34.8	49.4	15.7	24.7	58.4	16.9	25.8	53.9	20.2	19.1	59.6	21.3		
		50歳代	44	100	22.7	59.1	18.2	29.5	61.4	9.1	38.6	52.3	9.1	43.2	47.7	9.1	31.8	52.3	15.9		
		60歳以上	33	100	30.3	48.5	21.2	27.3	63.6	9.1	15.2	63.6	21.2	27.3	63.6	9.1	15.2	63.6	21.2		
北九州市	400	5.88	6.70	5.86	5.37	6.82	5.77	4.82	6.80	5.86	5.00	6.91	5.80	5.01	6.96	5.95	5.07				
男	全世代	200	5.80	6.61	5.91	5.00	6.93	5.65	4.76	6.62	5.83	4.95	6.85	5.70	5.10	6.92	5.71	5.30			
	20歳代	17	5.24	5.50	6.10	2.00	5.67	5.00	-	5.60	5.11	5.00	5.40	4.56	7.00	5.33	4.88	5.67			
	30歳代	29	5.45	7.00	5.64	3.25	7.60	5.14	3.50	6.50	5.30	4.33	6.80	5.57	2.33	6.50	5.47	4.67			
	40歳代	88	5.67	6.76	5.48	5.28	6.95	5.36	4.95	7.00	5.57	4.88	7.00	5.32	5.28	7.00	5.33	5.38			
	50歳代	46	6.20	7.50	6.39	5.36	7.71	6.26	3.00	6.75	6.41	5.00	8.20	6.24	4.57	7.56	6.48	4.86			
	60歳以上	20	6.40	6.00	6.50	6.25	6.33	6.46	6.25	6.25	6.54	6.00	6.40	6.73	5.50	6.67	6.67	6.00			
女	全世代	200	5.97	6.79	5.81	5.77	6.72	5.90	4.89	6.97	5.89	5.06	6.98	5.90	4.91	7.00	6.16	4.76			
	20歳代	17	5.65	5.67	4.60	8.25	7.75	4.82	6.00	6.50	5.08	7.33	5.67	4.78	7.20	6.00	5.89	5.00			
	30歳代	57	5.49	5.44	5.71	4.92	5.65	5.66	4.82	6.11	5.54	4.67	6.22	5.71	4.00	6.10	5.77	4.56			
	40歳代	67	5.82	7.00	5.55	5.94	6.73	5.80	4.90	6.75	5.89	5.00	6.86	5.75	4.92	7.31	6.03	4.42			
	50歳代	37	6.73	8.22	6.24	6.33	7.25	6.52	6.00	7.58	6.41	5.67	7.90	6.32	6.00	8.00	6.57	5.20			
	60歳以上	22	6.59	7.00	7.17	5.17	8.00	6.62	3.67	7.43	6.83	3.67	7.43	7.09	3.75	6.67	6.92	5.83			
首都圏	500	6.36	6.53	6.44	5.82	6.50	6.43	5.54	6.44	6.52	5.57	6.44	6.49	5.65	6.59	6.50	5.63				
男	全世代	250	6.11	6.24	6.07	6.04	6.06	6.23	5.62	6.08	6.24	5.73	6.00	6.27	5.75	6.31	6.20	5.62			
	20歳代	8	5.38	6.00	3.67	8.00	3.67	5.67	7.50	6.00	4.40	7.50	5.00	5.33	7.00	6.00	5.33	5.00			
	30歳代	59	6.10	6.93	5.54	5.00	6.63	5.96	4.57	6.52	5.96	5.38	6.50	6.04	4.86	6.57	6.17	4.29			
	40歳代	83	5.90	5.16	6.27	5.69	5.27	6.31	5.20	5.00	6.39	5.41	5.00	6.47	5.00	5.53	6.11	5.74			
	50歳代	50	5.90	5.40	6.09	5.67	6.18	5.58	8.50	5.92	5.83	6.14	6.12	5.70	6.67	6.22	5.67	5.82			
	60歳以上	50	6.80	7.40	6.44	7.00	6.73	6.94	6.00	7.00	6.91	6.00	6.50	6.92	6.91	8.20	6.74	6.30			
女	全世代	250	6.60	6.85	6.78	5.56	6.94	6.63	5.46	6.77	6.81	5.37	6.87	6.69	5.53	6.89	6.79	5.63			
	20歳代	13	6.62	6.57	7.00	5.00	6.57	6.67	-	6.57	6.60	7.00	7.00	6.44	-	5.50	7.38	5.00			
	30歳代	71	6.28	6.28	6.40	5.63	6.71	6.09	6.14	6.45	6.28	5.88	6.58	6.23	5.57	6.68	6.30	5.50			
	40歳代	89	6.85	7.56	6.96	5.82	7.58	7.07	4.57	7.82	6.96	5.07	7.65	6.98	5.50	7.71	7.04	5.58			
	50歳代	44	6.36	6.10	6.73	5.50	5.54	6.67	7.00	5.82	7.13	4.25	6.26	6.62	5.50	6.21	6.96	4.71			
	60歳以上	33	6.91	7.70	7.25	5.00	7.56	6.76	6.00	7.00	7.24	5.86	6.89	7.10	5.67	8.00	6.62	7.00			



### 3. まとめと考察

以上の分析結果から明らかになった「北九州市」の幸福感の特徴や気付きなどなどについて、ここでは要点を述べる。

1) 幸福度にプラスの影響を与える要因や生活条件として、「女性」、「結婚」、「核家族」、「子ども2人」、「要介護者がいない」、「持ち家」、「管理職や専門的・技術的職業」、「高収入」、「家族の信頼・助け合い」、「自助意識」、「共助意識」、「生活充実感」、「不安や悩みがない」ことなどが確認できた。これらは既往研究などからも明らかであり、常識的なことからでもある。ほぼ予想通りの結果が得られたことから、本調査の回答者に特異性や偏りはなく、信頼性のある回答が得られたと考える。

2) 「北九州市」の幸福度の平均値は「首都圏」や「全国」よりも低く、これは、マイナスの影響要因や生活条件によって、幸福感が阻害されている人が比較的多いためと考えられる。とりわけ「単身」、「未婚」、「無職」、「低収入」、「進路に関する悩み」、「親子関係への不満」などが幸福度の低下に作用している。いずれも、就業不安と結びつく要因であり、そのような不安を持つ人の相対的な多さが幸福度の差となって表れているといえる。幸福に関する研究は、経済的豊かさが必ずしも人々の幸せに結び付いていないという「幸福のパラドックス」を解明しようとする試みが出発点であったが、やはり、幸福度に最も大きく左右するのは経済的要因と思われる。

3) ただし、家計の将来に楽観的な人の幸福度は「北九州市」も「首都圏」も同程度に高く、収入額の大小よりも「暮らし向き」が安定していることの方が、幸福の条件として重要と思われる。また、世帯収入が800万円を超えると「北九州市」の方が「首都圏」よりも幸福度は高く、幸福のコストパフォーマンス（幸せになるために必要な金額）は、北九州市の方が有利といえる。

4) また、生活に充足感や満足感を持っているという回答率は「首都圏」より低いですが、そのような人の幸福度を比較すると「北九州市」の方が「首都圏」よりも高く、経済面だけでなく生活上の諸事に関してある程度“不足のない”生活が実現できれば、北九州市の方が暮らしやすく、幸福を実現しやすいと思われる。

5) しかし「北九州市」は「首都圏」に比較して幸福度の格差が大きい。既往研究などから、他者との比較意識が主観的幸福感の判断に大きく影響することが実証されている。生活条件の個人間、世代間の格差が、“恵まれていない”人の幸福感の低減につながっているのではないかと思われる。

6) いくつもの不安や悩みを感じている人は女性の方が多いが、幸福度は男性よりも女性の方が高い。また、「首都圏」では、不安や悩みの有無による幸福度の差はさほど大きくない。不安や悩みが幸福度を低下させることは明らかだが、それらを受け止め、向き合う意識や姿勢も幸福度に大きく影響すると思われる。

7) 「北九州市」の女性は首都圏の女性に比べて自助意識が弱く、社会貢献に対しても消極性がみられる。「首都圏」では、女性の幸福度の高さが全体の幸福度を高めており、「北九州

市」においても、若い世代の女性の自立意識や社会意識が高まれば、幸福度も高まっていくと思われる。

8) 自身の幸福度を高めるために社会の助け合いが必要と感じている人の幸福度は低く、一方、社会貢献意識のある人の幸福度は高い。ソーシャル・キャピタルを豊かにし、その恩恵を受けやすくしていくことが、幸福度の格差解消につながると考えられる。

#### 4. おわりに

どのような条件や環境が人々の幸福に関係しているのか、多くの場合、因果関係は両方向に作用するといわれている。例えば、仕事の満足度が人を幸福にする傾向と、もともと幸せな人ほど仕事から大きな喜びを得る傾向の両方の関係があることが研究で示されている。また、強い相関がみられても、互いに因果関係は無く、第三の要因が作用している可能性もある。例えば、収入の低い人が幸せでない理由は、低い収入それ自体にあるのではなく、報われない、評価されないという意識にあるといわれる。

このような、人の“心”の問題に立ち入る幸福研究を政策決定に利用することの妥当性、有用性には限界がある。しかし、人々が置かれている状態を改善する施策の考案に際して行う判断には役立つと思われる。様々な視点から幸福に関する研究が行われることが期待される。また行政主導ではなく市民主導で行われることが、より望ましいと考える。

#### 参考文献

- 1) 幸福度に関する研究会(2011)「幸福度に関する研究会報告－幸福度指標試案－」, 内閣府
- 2) 荒川区自治総合研究所(2012)「荒川区民幸福度(GAH)に関する研究プロジェクト第二次中間報告書」, 公益財団法人荒川区自治総合研究所,  
[http://www.rilac.or.jp/report/Rilac\\_GAH\\_report\\_02.pdf](http://www.rilac.or.jp/report/Rilac_GAH_report_02.pdf)
- 3) 幸福度に関する研究会(2011)「県民幸福度日本一を目指して～福岡県の取組について～(報告書)」, 福岡県
- 4) 東北活性化研究センター(2012)「幸福度の定量化に関する調査研究中間報告書」, 公益財団法人東北活性化研究センター, [http://www.kasseiken.jp/pdf/news/120516\\_press.pdf](http://www.kasseiken.jp/pdf/news/120516_press.pdf)
- 5) 内閣府(2010)「平成20年度版国民生活白書」,  
<http://www5.cao.go.jp/seikatsu/whitepaper/h20/honpenzuhyo/honpen.html>
- 6) 内閣府(2012)「第1回生活の質に関する調査結果」,  
<http://www5.cao.go.jp/keizai2/koufukudo/shiryuu/6shiryuu/6shiryuu.html>
- 7) 内閣府(2012)「平成23年度国民生活選好度調査について」,  
<http://www5.cao.go.jp/seikatsu/senkoudo/senkoudo.html>
- 8) 大竹文雄、白石小百合、筒井義郎(2010)「日本の幸福度-格差・労働・家族」, 日本評論社
- 9) デレク・ボック(2011)「幸福の研究」, 東洋経済新報社

## 第二章 ESD活動推進における高等教育機関の役割と課題

内 田 晃

### 1. はじめに

#### (1) 研究の背景

2002年9月に南アフリカ・ヨハネスブルグで開催された「持続可能な開発に関する世界首脳会議（ヨハネスブルグサミット）」において、持続可能な開発という世界が共有する目標に向けて、政府、NGO/NPO、民間企業、市民など多様な主体が力を合わせて行動を起こしていくためのパートナーシップによる取り組みの重要性が強調された。この会議の中で当時の小泉純一郎首相が、ESD（Education for Sustainable Development）を国際的な立場から推進することを提唱し、その後、2002年の第57回国連総会において「ESDの10年：Decade of ESD」が提案され、2005年からの10年間をその推進期間とすることが満場一致で採択された。

ESD（Education for Sustainable Development）とは「持続可能な開発のための教育」と訳される。持続可能な社会の実現を目指し、私たち一人ひとりが、世界の人びとや将来世代、また環境との関係性の中で生きていることを認識し、よりよい社会づくりに参画するための力を育む教育のことである。つまり、環境、経済、社会、文化を包括的に考慮した持続可能な社会づくりのための担い手を育てていくことである。

このESDのグローバルなアジェンダを地域レベルにおいて行動に移していくための推進組織として、国連大学（United Nations University）が提唱したのがRCE（Regional Centres of Expertise on Education for Sustainable Development）である。2005年に最初のRCE 7箇所が指定され、その後全世界の100を超える地域が指定されている。

既にESDの10年がはじまって9年目を迎えており、来年2014年がその最終年となる。2014年の秋には最終年会合がESDの世界的推進組織であるユネスコと日本政府の共催によって日本で開催されることが決定した。閣僚級会合及び全体の取りまとめは名古屋市で、RCEをはじめとしたステークホルダーの会合は岡山市で開催されることになっている。今後は最終年会合に向けた各地域での取り組みの推進とともに、2015年以降、「ESDの10年」以後（post decade of ESD）の活動推進のあり方を検討していくことが求められている。

#### (2) 研究の目的

北九州市でも、ESD活動（ESDという定義づけがなくてもその理念を踏襲した活動：広義の環境教育活動）が以前より市民団体を中心に幅広く実施されていた。そのネットワークを核として市民団体、企業、大学、行政などによって構成された「北九州ESD協議会」が2006年に発足し、その後、国内4箇所目のRCEに選定され、現在でも活動が継続されている。北九州市におけるESD活動の成果については、各方面から大きな評価を受けているが、一方で行政による関与が少なく、また企業による支援も限定的であったことから、他のRCEと比較

すると予算規模は決して大きくはなかった。また研究者による個人的なレベルでのE S D活動の実践はあったが、大学として組織的に関与してきたことはなかった。2014年の最終年會合に向けてE S D活動の活性化を図っていく中で、大学をはじめとした高等教育機関が果たす役割とは何かについて、より具体的に検討していくことが求められていると言える。そこで、本研究では、高等教育機関がR C Eにおいて中心的な役割を果たしている他の都市の事例について調査するとともに、北九州におけるE S D活動の特徴やその独自性を踏まえた今後のE S D活動の方策について検討することを目的とする。

## 2. E S D活動とその推進のための組織

### (1) E S Dの概要

E S D (Education for Sustainable Development : 持続可能な開発のための教育 (又は持続発展教育)) とは、国際社会が経済発展をめざしてきた過程において是とされてきた大量生産、大量消費、大量廃棄によってもたらされた環境悪化、自然破壊、貧困増大などの弊害を招いてきた反省を踏まえ、世界中のあらゆる人々が自然環境と共生できる持続可能な社会の達成をめざすための教育である。環境教育や国際理解教育など、持続可能な発展に関わる主要な分野にとどまらず、エネルギー教育、地域固有の文化財等に関する教育などを包括的にとらえ、社会をより良く変革させ、次世代に受け渡すのに必要な価値観や技能、ライフスタイルを学ぶ実践的な教育活動のことである。

E S Dの実践においては、①人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育むこと、②他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「関わり」「つながり」を尊重できる個人を育むこと、の2つの観点が特に重要とされている<sup>1)</sup>。

教育の機会としては、学校教育にとどまらず、社会教育、高等教育、企業内研修なども対象となり、地域の実情に合わせて、また学習する対象者に応じて様々な形式があるのがE S Dの特徴でもある。



出典：ユネスコスクールウェブサイト (<http://www.unesco-school.jp/>)

図1 E S Dの概念図

## (2) 日本におけるESD活動の促進

2005年から「ESDの10年」がスタートし、我が国においても2005年12月に「ESDの10年関係省庁連絡会議」<sup>(1)</sup>が発足、2006年3月には「わが国における国連ESDの10年実施計画」が策定された。それを受けて、まず各地域でモデルとなる地域活動やプロセスを支援するために始まったのが「環境省ESD促進事業」で、表1及び表2に示すように、2006年度に10地域（北海道当別町、仙台広域圏、江戸前の海、山梨県須玉町、静岡県三島市、愛知県春日井市、大阪府豊中市、兵庫県西宮市、高知県柏島、北九州市）2007年度に4地域（大阪市西淀川区、山口・島根広域、岡山市京山地区、長崎県雲仙市）のモデル地域が採択された。

各地域での取り組みのテーマは自然環境、農業、漁業、食育、環境教育、人権、福祉、観光など多岐に渡っており、またその対象地域についても、県を超えた広域、海岸沿いの圏域、都市部の密集住宅市街地、小学校区、過疎化した農村集落など様々である。このようにESDには普遍的な一般解があるのではなく、気候風土、社会環境、取り組む主体などによって多様であることが特徴でもある。

表1 環境省ESD促進事業で採択されたモデル地域の取り組み（2006年度採択分）

(1) 北海道石狩郡当別町 ～大都市に隣接する農村地帯～	
テーマ	食に根ざした地域づくりで、地域の価値とライフスタイルを見直す
概要	地域の市民、農家、行政、NPO、企業、教員が協力し、生産から販売までを子供たちが学びながら関わる「チルドレンズファーム」の実施や、都市と農村の交流による学びの場「ライフスタイルファーマー塾」の開講など、「食」や「農」をキーワードとした「学び合い」事業に取り組む。
大学の関わり	北海道教育大学、東京学芸大学 <ul style="list-style-type: none"> <li>当別町内の教員を対象とした研修会での講師</li> <li>シンポジウムでのパネラー、コーディネーター</li> </ul>
(2) 宮城県仙台広域圏 ～環境教育先進地域をつなぐ広域圏の連携～	
テーマ	海、山、まちを繋ぐ、広域連携による持続可能な地域づくり
概要	仙台市、気仙沼市、大崎市田尻地域などでの環境教育やESDにつながる学習活動の拠点をむすび、仙台広域圏での学びあいのしくみを構築し、各地の活動を活性化している。また、広域圏全体でESD月間を決め、各地で連動したイベントやセミナーを開催し、広く圏内へのESDの普及を進める。
大学の関わり	宮城教育大学ESD推進会議 <ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校及び高等学校と、地域の諸機関や大学等の専門機関との連携の充実を図り、ESDのための「地域の拠点」(RCE)体制を推進</li> <li>国連大学から認定を受けたRCE(イニシャルセブン)の仙台広域圏事務局を担当</li> <li>気仙沼市教育委員会と連携協定を結び気仙沼を支援</li> </ul>
(3) 江戸前の海(羽田から船橋へ至る東京湾奥部沿岸地域) ～東京湾を面で結ぶ沿岸地域～	
テーマ	江戸前の海、学びの環づくり
概要	東京湾沿岸域の博物館、NPO、教育関係者、漁業従事者などと一緒に「寺子屋」(ワークショップによる理解の共有)を軸に「耳袋」(体験の共有)と「カフェ」(知識の共有)により、持続可能な沿岸海洋の利用のありかたを考えている。また、この実践を通して、学校・博物館を拠点に地域でESDを実践していく「江戸前ESDリーダー」の養成にも取り組んでいる。
大学の関わり	東京海洋大学海洋科学部 <ul style="list-style-type: none"> <li>推進協議会の中心となるワーキンググループや活動のコーディネート全般</li> <li>カフェにおける講演者の斡旋</li> <li>耳袋活動の相談、人材(団体)斡旋、広報活動など</li> </ul>



<b>(4) 山梨県北杜市須玉町増富地域 ～都市近郊の過疎高齢化の農村～</b>	
テーマ	都市と農村の交流と学びあいが培う、持続可能な農村開発
概要	過疎高齢化により、遊休農地の増大、山林の荒廃等が進んでいる須玉町増富地域において、農・森林・グリーンツーリズム・自然エネルギーなど、持続可能な農村社会発展に有効なテーマを掲げ、NPOと地域、その他多様な組織が連携し、都市と農村が多面的に学習交流しながら、地域発展に取り組んでいる。
大学の関わり	特になし
<b>(5) 静岡県三島市 ～パートナーシップによる環境再生が活発な地域～</b>	
テーマ	地域の環境・まちづくりの人材を育む「みしまESD環境まちづくりゼミ」
概要	地域の小中高校や県内外の大学と連携して、地域の環境・まちづくりをテーマに、「学ぶ」→「体験する」→「活動する、実践する」→「発表する、伝える」といった、一連のプロセスからなる若者を中心に多様な世代が関わる人材育成事業を総合的に実施し、ESDのプログラムの体系化を図っている。
大学の関わり	日本大学国際関係学部（三島校舎） ・ まちづくりゼミへの講師派遣、学生の参加
<b>(6) 愛知県春日井市 ～周辺に自然が残る新興住宅地域～</b>	
テーマ	人・自然を尊ぶ心の育成、絆再生プロジェクト「かすがい KIZUNA」
概要	小学校区を拠点として、フィールドワークによる体験と教科学習を連動したカリキュラムに親子で参加する「KIZUNA ラーニング」。また、そこで発見した自然の課題や重要性を、学区に住む多様な住民（幼児、高齢者、障害者等）への発信や共同調査・観察を通じて、多様な人々との共生を学ぶ「KIZUNA コミュニティ」を進める。
大学の関わり	中部大学国際ESDセンター ・ 国際関係学科のゼミ有志が「若いフィリピン人の母親のためのマニュアル」を作成、在日フィリピン人の生活をサポート
<b>(7) 大阪府豊中市 ～環境・国際交流・人権・福祉など異分野の連携が進んでいる地域～</b>	
テーマ	地域を有機的に結ぶ「ESDとよなかりソースセンター」
概要	「ESDとよなか」のこれまでの取組をさらに推進するため、地域の様々な人々や団体が有機的につながるようなコーディネートをするため、地域で活用できるリソース（人材、団体、場所、プログラム等）を集約し、つなげる機能を持つリソースセンターを模索し、構築する。
大学の関わり	特になし
<b>(8) 兵庫県西宮市 ～環境学習が活発な地域～</b>	
テーマ	環境学習を通じた持続可能な社会システムの構築
概要	①市民向けの「地域コーディネーター」研修プログラムの実施、②教員へのESDの普及とESDのカリキュラムづくり、③エコカード活動とエココミュニティ会議をつなぐESD活動システムの開発、④ESD普及のためのイベントの実施と情報提供など4つの事業を通して、環境のみならず様々な分野の人々が相互に学び合い、育み合う持続可能な社会に向けて取り組む。
大学の関わり	特になし
<b>(9) 高知県柏島 ～豊かな自然環境と多数の観光客が訪れる島～</b>	
テーマ	環境学習から始まる持続可能な「里海づくり」
概要	高等学校－大学連携や地元小学校などによる地域環境学習活動を通して、柏島の自然環境、生活文化、経済性などについて、島外からの訪問者が学び、かつ人に伝えることができる人材育成の場を構築する。また、里海をキーワードとして活動している日本各地の大学や団体などと協力連携を目的とした里海シンポジウムの開催、柏島ローカルルールの発見と発信にむけたサポートなどを行っている。
大学の関わり	高知大学 ・ 高大連携体制の構築 ・ 活動方針の作成 ・ 里海シンポジウムの準備と開催 ・ ローカルルール発見と発信にむけたサポート
<b>(10) 北九州市 ～公害克服と市民運動の歴史を持つ都市～</b>	
テーマ	市民協働による環境・経済・社会活動の実践統合型ESD
概要	学校、大学、NPO、地域団体、企業、行政など40数団体からなる北九州ESD協議会

	は、北九州市が目指す「世界の環境首都」実現のために、現在行われているさまざまな活動にESDの視点を取り入れ、活動をつなげていくために、ESDの勉強会、ワークショップ、ファシリテーターの養成を行い、100万市民へのESD普及活動を展開する。
大学の関わり	北九州ESD協議会の加盟団体として、北九州市立大学、九州国際大学、九州工業大学理数教育支援センター、福岡大学環境未来オフィスが加入

表2 環境省ESD促進事業で採択されたモデル地域の取り組み（2007年度採択分）

<b>(11) 大阪市西淀川区 ～公害からの環境再生をめざす住工混在地域～</b>	
テーマ	持続可能な交通まちづくり市民会議～みんなで考え・つながり・行動するために
概要	大気汚染公害で悩まされた地域で、持続可能なまちづくりに向けて様々な立場の住民が一緒になって活動を行っている。既存の取組を活かしつつ、交通まちづくり市民会議を設置し、各団体の情報共有が行える場作りを行う。個々の活動の充実と連携、新たな共感の環を拡げている。
大学の関わり	大阪経済大学 ・「ECOまちネットワーク・よどがわ」のメンバーとして参画
<b>(12) 山口・島根広域連携 ～山海畑歴史という多くフィールドを持つ田舎～</b>	
テーマ	山、海、畑、歴史を守るコミュニティスクールコーディネーター育成からはじまる広域連携ネットワークづくり
概要	山・海・畑・歴史という田舎のもつ多くのフィールドを活用した、地域の役に立つ人材の育成を目指し、コミュニティスクールを開催。スクールのイベントやインターンシップの体験、コーディネーターの育成を行い、モニタリング調査等から、メニューを開発、ITを活用した普及啓発活動を行い、予約システムも開設する。
大学の関わり	特になし
<b>(13) 岡山市京山地区 ～公民館を拠点に社会教育が特に活発な地域～</b>	
テーマ	公民館を拠点とした学社連携・地域協働によるESDの継続的促進のための仕組みづくり
概要	岡山市立京山公民館を拠点に、全世代合同・学社連携により、地域全体でESDに取り組んでいる。地域の環境点検、エコツアー、ESDフェスティバル、ESDサミット（地域全体会議）、ワークショップ、勉強会など、社会教育と学校教育が連携・協働し、地域教育力の向上と地域社会の持続性を高める活動を行っている。
大学の関わり	岡山大学ユネスコチェア ・観音寺用水を活用したまちづくり計画についてワークショップを開催
<b>(14) 長崎県雲仙市 ～日本最初の国立公園を囲む自然豊かな地域～</b>	
テーマ	大学と地域の協働による地域協議会を基としたエコビレッジ作りへの挑戦
概要	バイオマスの利活用の社会化等持続的開発のための社会的課題について協議会で議論。さらにその経験を踏まえて市民への環境教育（学び）計画を作成し、具体的な活動や実践への移行を目指す。この過程では高校生の取組なども連携し地域における将来世代の人材育成にも資するようなバイオマス利活用システムを創設することを目指す。
大学の関わり	長崎大学 ・島原農業高校等で開発し活動してきた有機性廃棄物の堆肥等への循環を地域社会としてシステム化して行くための調査を支援 ・雲仙市国見町東里自治会における環境美化宣言を通した環境保全活動、小浜町における田んぼの学校活動に参画 ・インドネシアジャカルタ市で進めているESD活動の地域関係者と国見町での活動との交流会を実施

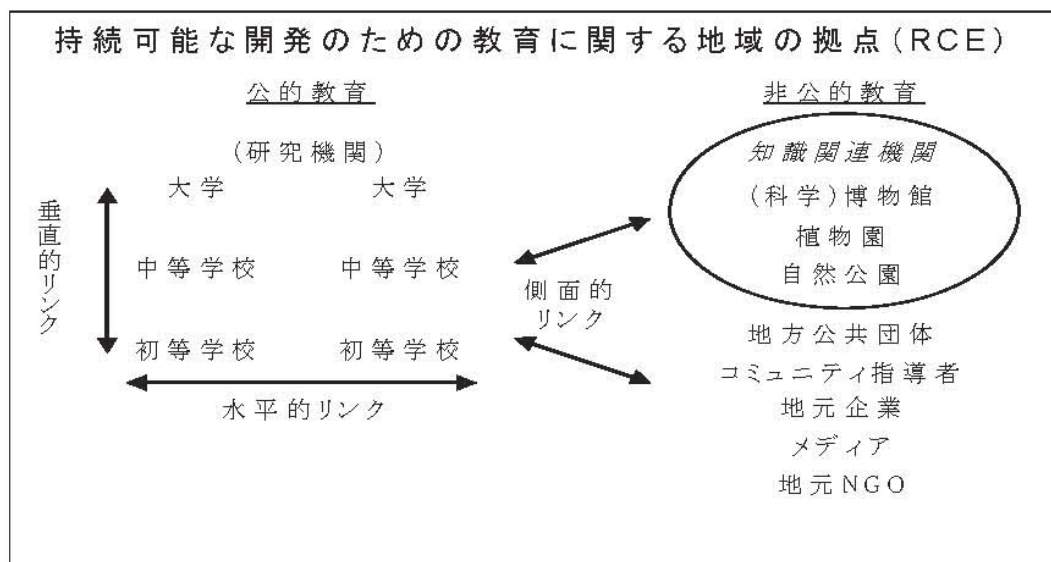
### (3) 地域でのESD活動の拠点となるRCE

「ESDの10年」の推進に向けて、国連大学が「持続可能な開発のための教育に関する地域の拠点」づくりとして提唱しているものが地域の拠点（RCE）である。RCEとはRegional Centres of Expertise on Education for Sustainable Developmentの略で、地域においてESDに関わりのある組織や団体等のネットワークを作り、関係者が連携・協力してESDをより効果的に実践していこうとするものである。RCEが果たしている機能としては、①地域の



多様な関係者がESDに関する情報や経験を交流できるような積極的な対話の場を提供していること、②ESDを推進しようとする様々な関係者に対して適切な助言や資料提供をする「地域の知識ベース」の構築を図っていること、の2点があげられる。

構成メンバーとなるステークホルダーも各RCEによって様々であり、事務局を担当している（つまりRCEの牽引役となっている）組織は大学、政府、地方公共団体、財団法人や協議会などがあげられる。個人レベルでも小学校や大学の教員といった教育関係者から、地域のNGO、科学者、博物館・美術館の学芸員、地方公務員、地元企業の代表者、学生などあらゆるレベルの参加者によって推進されている。図2に示すように垂直的リンク、水平横断的なリンクで構成される小学校から大学までの公的教育機関と、研究所、博物館などの非公的教育機関及びNGO、企業、行政などの各セクターとが側面的なリンクで相互に関係し合い、地域レベルで対話の場をつくることによって、ESDをより効果的に推進していくことがRCEの役割である。



出典：国連大学高等研究所ウェブサイト (<http://www.env.go.jp/council/34asia-univ/y340-01/ref06.pdf>)

図2 RCEの概念

2005年6月に国連大学とユネスコの共催によって名古屋市で開催された国際会議「グローバル化とESD」の最終日に、最初のRCE7地域（仙台広域圏、岡山、太平洋島嶼国、ライン＝ムーズ川流域、バルセロナ、ガーナ、トロント）が認定された。その後、現在までに115の地域<sup>(2)</sup>で認定されている。国別ではインドが11地域で最も多く、日本は6地域（中部、仙台広域圏、兵庫－神戸、北九州、岡山、横浜）が認定されている。RCEの対象エリアは、個別の市や町のような行政区域と一致するエリアから、仙台広域圏のように複数の市町村からなるエリア、さらにはライン＝ムーズ川流域のように、地理的・自然的条件によって経済・文化活動が盛んな圏域など、様々である。

中東・アフリカ (22)

- カメルーン
- 18. Buea
- エジプト
- 19. Cairo
- ガーナ
- 20. Ghana
- ヨルダン
- 21. Jordan
- ケニア
- 22. Greater Nairobi
- 23. Greater Pwani
- 24. Kakamega-  
Western Kenya
- レソト
- 25. Lesotho
- マラウイ
- 26. Zomba
- モザンビーク
- 27. Maputo
- ナミビア
- 28. Khomas-Erongo

- ナイジェリア
- 29. Kano
- 30. Lagos
- 31. Minna
- セネガル
- 32. Senegal
- 南アフリカ共和国
- 33. KwaZulu Natal
- 34. Makana and Rural  
Eastern Cape
- スワジランド
- 35. Swaziland
- ウガンダ
- 36. Greater Eastern Uganda
- 37. Greater Mbarara
- ザンビア
- 38. Lusaka
- ジンバブエ
- 39. Mutare

ヨーロッパ (32)

- アルバニア
- 40. Middle Albania
- オーストリア
- 41. Graz-Styria
- 42. Vienna
- デンマーク
- 43. Copenhagen
- フィンランド
- 44. Espoo
- ドイツ
- 45. Hamburg
- 46. Munich
- 47. Nuremberg
- 48. Oldenburger Münsterland
- ギリシア
- 49. Central Macedonia
- 50. Crete

- アイルランド
- 51. Ireland
- イタリア
- 52. Euroregion Tyrol
- ポルトガル
- 53. Açores
- 54. Creias-Oeste
- 55. Porto Metropolitan Area
- ロシア
- 56. Nizhny Novgorod
- 57. Samara
- スペイン
- 58. Barcelona
- スウェーデン
- 59. North Sweden
- 60. Skane
- 61. West Sweden

- イギリス
- 62. East Midlands
- 63. Greater Manchester
- 64. London
- 65. North East
- 66. Scotland
- 67. Severn
- 68. Wales
- 69. Yorkshire & Humberside
- 国境を越える地域
- 70. Rhine-Meuse region
- 71. Southern North Sea,  
Belgium/ Netherlands/France

南北アメリカ (17)

- アルゼンチン
- 1. Chaco
- ブラジル
- 2. Curitiba-Parana
- 3. Rio de Janeiro
- 4. Sao Paulo
- カナダ
- 5. British Columbia
- 6. Greater Sudbury
- 7. Montreal
- 8. Quebec
- 9. Saskatchewan
- 10. Tantramar
- 11. Toronto
- コロンビア
- 12. Bogota
- グアテマラ
- 13. Guatemala
- メキシコ
- 14. Western Jalisco
- ペルー
- 15. Lima-Callao
- アメリカ合衆国
- 16. Grand Rapids
- 17. North Texas

アジア太平洋 (44)

- オーストラリア
- 72. Gippsland
- 73. Greater Western Sydney
- 74. Murray-Darling
- 75. Western Australia
- バングラデシュ
- 76. Greater Dhaka
- カンボジア
- 77. Greater Phnom Penh
- 中国
- 78. Anji
- 79. Beijing
- 80. Greater Shanghai
- 81. Hohhot

- インド
- 82. Bangalore
- 83. Chandigarh
- 84. Delhi
- 85. East Arunachal Pradesh
- 86. Goa
- 87. Guwahati
- 88. Kodagu
- 89. Lucknow
- 90. Mumbai
- 91. Pune
- 92. Srinagar
- インドネシア
- 93. Bogor
- 94. East Kalimantan
- 95. Yogyakarta

- 日本
- 96. Chubu
- 97. Greater Sendai
- 98. Hyogo-Kobe
- 99. Kitakyushu
- 100. Okayama
- 101. Yokohama
- キルギス
- 102. Kyrgyzstan
- マレーシア
- 103. Penang
- フィリピン
- 104. Bohol
- 105. Cebu
- 106. Ilocos
- 107. Northern Mindanao

- 大韓民国
- 108. Incheon
- 109. Inje
- 110. Tongyeong
- 111. Ulsu
- タイ
- 112. Cha-am
- 113. Trang
- ベトナム
- 114. Southern Vietnam  
地域
- 115. Pacific Island Countries



出典：国連大学高等研究所ウェブサイト (<https://www.ias.unu.edu/>) を参考に筆者作成

図3 世界のRCE

### 3. ESD活動における高等教育機関

#### (1) 国内RCEにおける大学の活動

日本国内で認定されたRCEのすべてにおいて大学等の高等研究機関がその活動に何らかの関わりがみられる。そこでここでは北九州以外の5つのRCE（中部、仙台広域圏、兵庫ー神戸、岡山、横浜）における大学の関わりを整理した。

表3 国内RCEにおける大学等の高等研究機関の活動内容

(1) RCE中部	
主な参加大学	愛知学院大学、愛知県立大学、岐阜大学、中部大学、なごや環境大学、名古屋工業大学、名古屋市立大学、名古屋造形大学、名古屋大学、日本福祉大学、名城大学、三重大学
概要	<p>中部ESD拠点の運営組織は、大学、企業、行政、NGO/NPOなどに広く呼びかけて参加を募る協議会からなっている。協議会の中から構成された運営委員会が実質的な運営を担い、事務局を中部大学が担当。そのために組織化されたのが「中部大学国際ESDセンター」。</p> <p>&lt;センターの役割&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内ESD（持続可能な発展のための教育）活動の推進</li> <li>・学内ESD研究の発掘と支援</li> <li>・学生のESD活動支援</li> <li>・ESD活動の国際的な展開</li> <li>・地域との連携によるESDの普及活動</li> </ul>
活動内容	<p>1) 学生×ESD</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の子どもたちと田植えを実施</li> <li>・地産地消でキャンパスマネーイベントを開催</li> <li>・キャンパスで、「ESDエコマネー」の実験運用</li> </ul> <p>2) 研究×ESD</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グリーン・ニューディールの調査を報告</li> <li>・「サステナビリティ研究会」を発足</li> <li>・光機能薄膜研究センターの設立による太陽電池、光触媒、有機発光デバイス等の研究開発の推進</li> <li>・あいち森と緑づくりモデル事業地で里山実験</li> </ul> <p>3) 地域×ESD</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国籍市民のための自立支援</li> <li>・三重大学にて総会&amp;フォーラムを開催</li> </ul> <p>4) 国際連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際専門家会議の開催</li> <li>・アジア諸大学との連携を模索</li> <li>・国際NGOとの協働</li> </ul>
(2) RCE仙台広域圏	
主な参加大学	宮城教育大学、東北工業大学、東北福祉大学
概要	2005年6月にRCEのイニシャルセブンとして岡山などととも最初に認定されたRCE。仙台地域、大崎田尻地域、気仙沼地域、白石・七ヶ宿地域を活動フィールドとしている。宮城教育大学では「宮城教育大学ESD・RCE推進会議」を作り、RCEの事務局を担当している。
活動内容	<p>&lt;活動テーマ&gt;：「教員養成・人材育成」</p> <p>環境教育、特別支援教育、教育臨床、国際理解教育の分野で各研究センターが参画しており、宮城県、仙台市、気仙沼市、岩沼市、栗原市の各教育委員会や、動物園、新聞社、天文台とも連携協定を締結している。</p> <p>&lt;主な取り組み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ESDセミナー、ESD国際フォーラム等の開催</li> <li>・第2回RCE若者会議の開催</li> <li>・North Texas RCEとの交流</li> <li>・ProsPER NET（Promotion of Sustainability in Postgraduate Education and Research Network：持続可能な社会を推進する大学院研究教育ネット）に加盟</li> </ul>

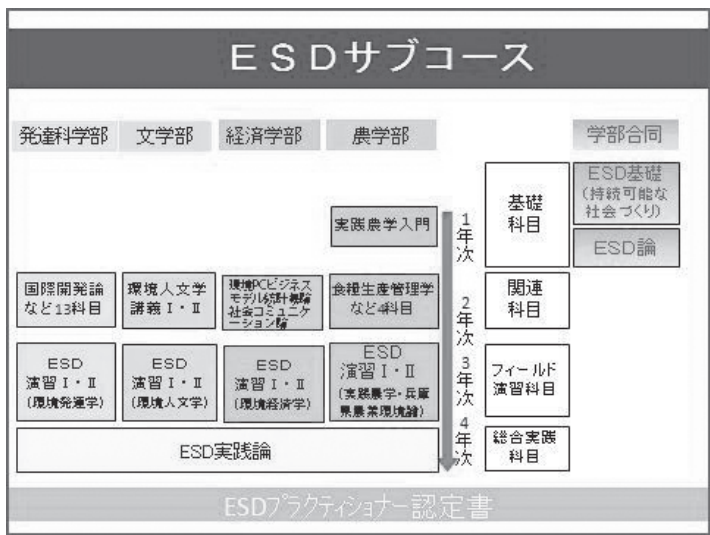
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みやぎ環境学習パートナーシップ推進事業の実施</li> <li>・気仙沼市に宮城教育大学連携センターを開設、研修会等を実施</li> <li>・学校の敷地などに植樹を行う「グリーンウェイブ活動」の実施</li> <li>・ESD授業デザインプロジェクト公開研究会の実施</li> <li>・学都仙台サテライトキャンパスでの公開講座</li> <li>・新聞社との連携協力調印を記念したワークショップの開催</li> <li>・小学生を対象としたワークショップの実施</li> <li>・JICA集団研修の実施</li> </ul>
--	---

**(3) RCE兵庫-神戸**

主な参加大学	神戸大学
--------	------

**概要**  
 2007年8月に国連大学からRCEの認定を受け、愛称を「ESD推進ネットひょうご神戸」としている。大学からの参加機関としては神戸大学のみだが、その他、兵庫県立人と自然の博物館、(財)ひょうご環境創造協会、アジア防災センター、国際連合地域開発センター防災計画兵庫事務所、JICA兵庫国際センター、兵庫国際交流協会、神戸新聞社、サンテレビジョンが加盟している。

**活動内容**  
 <神戸大学の取り組み>  
 ・文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)」(2007年度~2009年度)の支援を受けて、発達科学部・文学部・経済学部が学部横断の取り組みとしてESDサブコースを開設  
 ・2011年度より農学部の参加を得てカリキュラムを拡張し、4学部が協同し取り組みを推進



出典：神戸大学環境報告書 2011

<ESDサブコースの特徴>  
 以下に示す3つの特徴的な仕組みのなかで、個別の専門知に偏らない複眼的な視点、実際の問題を解決する上で求められる組織・集団の調整能力、および問題を解決する意志とスキルを持った人材の養成を目標としている。  
 ①従来型の「環境教育」の拡張を目指し、ESDに求められる課題の多様性に対応した汎領域的な視点でカリキュラムを企画している。文学部の「新しい倫理の形成」、「リスクマネジメント・防災」、経済学部の「持続可能な経済活動」、農学部の「食農実践」、発達科学部の「人間の変革可能性」など四つの学部の特色を生かした多様な領域からの学びを組み込んでいる。  
 ②学生が、地域社会の個々の活動現場に出かけ、学外の人々と連携しながら実践活動への参画(アクション・リサーチ)を通して、持続不可能な社会や仕組みの問題性あるいは解決の方向性を探究する。学外のフィールドに出かけ、現場での学びやワークショップなど、参加・体験を重視している。  
 ③4年間で関連科目を含め14単位を取得することで、学生は卒業学位とは別に「ESDプラクティショナー」として認証を受けることができる。

(4) RCE岡山	
主な参加大学	岡山大学、岡山理科大学、ノートルダム女子大学
概要	2005年6月にRCEのイニシャルセブンとして仙台広域圏などとともに最初に認定されたRCE。活動の中核組織として岡山大学と岡山理科大学が参画している。岡山大学は大学院環境学研究科が中心となって地域において持続可能な社会を創造していくための人材を育成することを目標として、ユネスコにユネスコチェア（ユネスコ講座）の設置を申請し、2007年4月に認定を受ける。
活動内容	<p>&lt;岡山大学ユネスコチェアの取り組み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な社会を創造するスキルを備えた人材を育成することを目標とする。</li> <li>・本講座の活動を基盤として、各教育機関、行政、市民団体と協働し、外部機関の学識者・市民・学生の参加を推進し、アジア・アフリカ諸国の大学と手をつなぎ、将来的に地方・全国、地域的・世界的なレベルでの持続可能な社会をかたち創るための総合的な教育のあり方を示すことを目指している。</li> </ul> <div style="text-align: center;"> </div> <p>出典：岡山大学教師教育開発センター (<a href="http://cted.okayama-u.ac.jp/unesco-school/aboutus/">http://cted.okayama-u.ac.jp/unesco-school/aboutus/</a>)</p> <p>&lt;主な活動内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の公民館活動の経験と教訓をアジア太平洋地域で活かすためのサミットの開催</li> <li>・国際公務員就職セミナー招待講演会の開催</li> <li>・ESDシンポジウム、セミナーの開催</li> <li>・国際機関へのインターンシップ</li> <li>・中高等教育におけるESDカリキュラムの作成と実施</li> <li>・国際交流協定（大学：中国、インドネシア、モンゴル、トルコ、ベトナム等）</li> <li>・海外フィールド実習（中国、モンゴル、ヨルダン、バングラデシュ、スリランカ等）</li> </ul>
(5) RCE横浜	
主な参加大学	横浜国立大学、横浜市立大学、東京都市大学、慶應義塾大学、フェリス女子大学
概要	RCE横浜に参加する様々な主体（学校、企業、NGO/NPO、市民、行政等）の代表によって構成される横浜RCEネットワーク推進協議会が中心的役割を果たしている。同協議会がRCEの活動方針、環境教育やESDに関する情報交換や研究調査の促進、活動の評価等を行い、参加団体・機関の情報共有を図っている。大学からは横浜市内にある5大学が参画している。
活動内容	<p>&lt;主な取り組み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・RCE横浜と横浜国立大学の共催によりシンポジウムを開催し、その中で各大学から活動発表を行う。</li> <li>・マレーシア科学大学（RCEペナン）、フィリピン大学（RCEセブ）との連携による大学生・大学院生を対象としたESDサマープログラムの実施</li> </ul>



## (2) 主要RCEにおいて大学が果たしている役割

国内の6つのRCEの中でも、岡山、中部、仙台広域圏についてはそれぞれ特定の組織を立ち上げ、その組織が中心となってESD活動を推進している。そこでここでは上記の3地域における組織（岡山大学ユネスコチェア、中部大学国際ESDセンター、宮城教育大学ESD・RCE推進会議）に対するヒアリングを行い、その特徴を整理した。

### 1) RCE岡山

国連の専門機関であるユネスコ教育局高等教育部が推進するUNITWIN (University twining and networking) 計画は、世界中の大学や高等教育機関相互の連携によって迅速な知識移転を促進し、能力開発や人材育成の促進に資することを目的に1992年の第26回ユネスコ総会で採択された事業である。UNITWINの中に位置づけられるユネスコチェアプログラムは、高等教育機関における教育・研究活動を大学間ネットワークの中で推進し、国境を越えた知識の交換を促すことを目的としている。2013年3月時点で世界134ヶ国・850教育・研究機関の中に762のユネスコチェアと69のUNITWINネットワークが設立<sup>2)</sup>されている。

RCE岡山は2005年6月に世界最初のRCEの1つとして認定を受けており、岡山大学では高等教育機関としてESDの取り組みを強化するために、大学院環境学研究科が中心となってユネスコチェアの設置を申請し、2007年4月に認定を受けている。このユネスコチェアの認定を契機として、さらに文科省などの外部資金を継続的に確保しながらESDの取り組みに積極的に関与しているのが特徴である。

また、他地域にない岡山におけるESD活動の特徴としては、公民館を拠点とした活動があげられる。元々岡山大学に程近い京山地区で環境保全活動に熱心に取り組んできた経緯があり、2007年度の環境省ESD促進事業に京山地区が認定され、公民館を拠点とした学校と社会の連携、地域協働によるESDの継続的促進のための仕組みづくりが展開され、京山公民館を拠点に、地域全体でESD活動に取り組んでいる。市内の他地域においても公民館が拠点となって、地域の環境点検、エコツアー、ESDフェスティバル、ESDサミット（地域全体会議）、ワークショップ、研修会など、社会教育と学校教育が連携・協働し、地域教育力の向上と地域社会の持続性を高める活動を行っている。

表4 RCE岡山で実施したヒアリングの概要

<p>◆ヒアリング先</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・岡山大学：阿部宏史副学長兼理事(教育担当)</li><li>・岡山市ESD最終年会合準備室：内藤元久室長、流尾正亮主任</li></ul> <p>◆実施日時</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・岡山大学：2012年4月23日(月)午前11時～</li><li>・岡山市ESD最終年会合準備室：2012年4月23日(月)午後1時半～</li></ul>
<p>&lt;経緯&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・岡山大学は2007年にユネスコチェアに認定された</li><li>・外部資金獲得(大学院GP)＋学長裁量経費でESD活動を推進してきた</li><li>・21世紀COEプログラム(廃棄物マネジメント研究センター)も獲得した</li><li>・大学院自然科学研究科の改編とあわせてESD活動を推進してきた</li><li>・年間3,000万～4,000万の予算を継続して確保してきた</li></ul>



<p>&lt;活動内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全学的には「岡山大学E S D協議会」を年2回開催している</li> <li>・毎年度末アジアから10数名を呼んで研究報告会を実施</li> <li>・E S Dに関するパンフレットを全新生に配布</li> <li>・中心的な活動は環境分野の先生であったが、最近は教育学部の先生方も熱心に取り組むようになった</li> </ul> <p>&lt;他のセクターとの関係&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岡山E S Dの良いところは市が事務局をつくってやっていることで</li> <li>・市役所の体制は当初はわずか2人であったのが現在はスタッフも大幅に増員されている</li> <li>・N P O岡山県国際団体協議会が積極的に動いており、Kominkan サミットなどを開催している</li> <li>・民間企業の参画はまだ少ない</li> </ul> <p>&lt;学生の就職について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・E S Dに関する研究と学生の就職先がリンクしていないのが実情である</li> <li>・環境分野の職（職能や資格）がないのが大きな課題である</li> </ul> <p>&lt;岡山市役所E S D最終年会合準備室でのヒアリング&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元々市からの働きかけでなく、自然な形で大学が地域におりてきた形であった</li> <li>・岡山理科大学は近隣地域で生態観察調査をやっている、知識や機材を地域づくりに活かしてくれた</li> <li>・岡山大学は海外で活躍する人を地域に連れてきてくれて、地域の励みになった</li> <li>・年に1回の表彰制度があり、様々な活動の中からE S Dウィークに投票して表彰している</li> <li>・月に1回、E S Dの活動交流会である「E S Dカフェ」を開催しており、各団体がお互いの活動を知るよい機会となっている</li> </ul>
---

## 2) R C E 中部

国連による「E S Dの10年」が2005年に開始されたが、同年に愛知県では国際博覧会である「愛・地球博」が開催され、「E S Dの10年」のリーディング・プロジェクトとして国際的にも高く評価された。2007年5月にはR C Eへの申請を行い、同年10月に認定を受けている。翌2008年の1月には、大学、行政機関、N G O / N P Oなどにより「中部E S D拠点協議会」が発足し、正式に中部E S D拠点が設立された。このような中、R C E中部の幹事機関である中部大学でのE S D活動を本格的に始動させるため、2009年4月に「中部大学国際E S Dセンター」が設立された。

他地域にない特徴としては、E S D活動を推進するための独立した研究センターを立ち上げている点であり、そこに専任教員が在籍していることである。また各学部から選出された委員から構成される運営委員会が組織され、定期的開催される委員会において活動内容の議論を行っており、学部横断的にE S D活動が推進されている。また、年2回開催している「中部大学E S Dシンポジウム」については各学部の持ち回りでテーマを決定する、年1回開催している「E S D研究・活動発表会」を学部生の貴重な発表の場として位置づけている、中部地域の他大学の学生にも参加を促しているなど、学内外において積極的に活動が推進されている。

表5 R C E 中部で実施したヒアリングの概要

<p>◆ヒアリング先 中部大学国際E S Dセンター：古澤礼太講師</p> <p>◆実施日時 2012年5月15日（火）午後3時～</p>
<p>&lt;設立経緯と組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2009年4月1日に開設されたセンター</li> <li>・7学部20数学科と並列の研究所という位置づけ</li> <li>・中部高等学術研究所が母体となっており、同研究所の付置センターとなっている</li> <li>・中部高等学術研究所長をされていた元国連大学副学長の武者小路公秀先生が推進された</li> </ul>

- ・センター長の下、専任教員1名と兼任教員で組織されている（実質的には兼任の集まり）
- ・各学部から選出された運営委員や学長が指名するものによって運営委員会が組織されている
- ・運営委員会は月1回、もしくは2ヶ月に1回のペースで開催されている

<センターの役割>

- ・学内E S D活動の推進
- ・学内E S D研究の発掘と支援
- ・学生のE S D活動支援
- ・E S D活動の国際的な展開
- ・地域との連携によるE S Dの普及活動

<センターの主な活動内容>

- ◆中部大学E S Dシンポジウムの開催
  - ・年に2回開催
  - ・毎回各学部の担当制となっておりテーマも多様  
（第10回：超高齢社会での持続可能な居住のための課題／第9回：生物と進化と環境教育）
  - ・年々、学内でのE S Dの認知度は高まっている
- ◆国際シンポジウムの開催
  - ・年に1回開催
  - ・2010年には上海万博の中でアジア地域の学長を集めて実施した
- ◆E S D研究・活動発表会の開催
  - ・年に1回開催
  - ・学部生に研究発表の機会を与える場となっている（院生レベルの発表機会は他にある）
  - ・優秀な個人や団体には学長賞を授与している（就職活動の際に活用できる）
  - ・名古屋大学や三重大学など地域の他大学からの発表もある
- ◆ニュースレターの発行
  - ・「E S D通信」というニュースレターを年3回発行している
  - ・春と秋に新入生のオリエンテーションがあり、その際に1万部を配布している

<主なE S D活動>

- ◆学生×E S D
  - ・COP10のフォローアップ会議に学生がパネリストとして参加
  - ・地域の子どもたちを対象とした田植え体験を学生が主導
  - ・キャンパスで「E S Dエコマネー」の実験運用
- ◆研究×E S D
  - ・中部高等学術研究所内に国際G I Sセンターが創設
  - ・生命医科学科による国際的な疾走予防の共同研究
  - ・中部高等学術研究所による低炭素都市研究の開始
- ◆地域×E S D
  - ・地域医療障害者支援領域センターの主催で、災害と障害者・高齢者をテーマに市民フォーラムを開催
  - ・仙台のE S D地域拠点と震災復興の連携を模索
  - ・外国籍市民のための自立支援
- ◆国際連携
  - ・アジア諸大学との連携を模索
  - ・生物多様性条約締結国会議 COP10 に向けた推進委員会の開設

<予算>

- ・R C Eの予算が年200万円、センターの予算が年200万円ある
- ・センターとしては外部資金を獲得していない（中部高等学術研究所は取っている）

<他のセクターとの関係>

- ・R C E中部（中部E S D拠点）の事務局を国際E S Dセンターが担っている
- ・R C E中部の代表を中部大学学長が、共同代表を名古屋大学総長が務めており、運営委員もほとんどが大学関係者で組織されている
- ・当初は企業を受け入れるスキームがなかった

### 3) R C E 仙台広域圏

R C E 仙台広域圏は2005年6月に岡山などとともに世界最初のR C Eの1つとして認定を受け、高等教育機関である宮城教育大学がR C Eの事務局を担当している。同大学の中には「宮

城教育大学E S D・R C E推進会議」が設置され、環境教育実践研究センター、教育臨床総合研究センター、特別支援教育総合研究センター、国際理解教育研究センターといった研究センターの代表が参画している。宮城教育大学は教員養成のための高等教育機関であるという特性を活かして、宮城県内の小中学校のユネスコスクール<sup>(3)</sup>化を積極的に支援しており、多くの小・中・高等学校が指定を受けている<sup>(4)</sup>。また、学部の必修カリキュラムや教員免許更新の際に必要な科目にE S D関係の講座を設けるなど、E S D理念の根幹とも言える教育に力を注いでいるのが特徴である。

R C Eの対象エリアが「広域圏」となっている通り、仙台地域、気仙沼地域、大崎田尻地域、白石・七ヶ宿地域の4つの地域とそれぞれ連携協定を結び、それぞれ地域の特性を活かしたE S D活動が実践されているのも特徴である。気仙沼地域は気仙沼市教育委員会がE S D活動の窓口となっており、市内の全小・中・高等学校の約83%にあたる33校がユネスコスクールに認定されている。

表6 R C E仙台広域圏で実施したヒアリングの概要

<p>◆ヒアリング先 宮城教育大学：石澤公明 副学長兼理事（総務担当）、小金澤孝昭 教授 加藤文樹 研究・連携推進課研究協力係長</p> <p>◆実施日時 2012年5月28日（月）午後1時～</p>
<p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2005年6月に宮城教育大学内に国連大学R C E推進委員会を設置した</li> <li>・仙台広域圏R C Eの事務局は宮城教育大学が担っている</li> <li>・階層的に下から「仙台広域圏E S D・R C E運営委員会事務局」「宮城教育大学E S D・R C E推進会議」「仙台広域圏E S D・R C E幹事会」「仙台広域圏E S D・R C E運営委員会」という組織が体系化されており、すべてに宮城教育大学関係者が委員として入っている</li> <li>・仙台広域圏R C Eは世界で最初に認定されたイニシャルセブンR C Eの一つ</li> <li>・仙台市に加え、気仙沼地域、大崎田尻地域、白石・七ヶ宿地域の4つの地域を包括的に対象としている</li> </ul> <p>&lt;学内でのE S Dの位置づけ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当初は学内の取り組みというよりはR C Eの運営に力を注いでいた</li> <li>・学内の先生方にはなかなかE S Dそのものが浸透してこなかった</li> <li>・宮城教育大学環境教育実践研究センターでは、環境教育分野における指導者育成・教材開発・フィールドミュージアムの提案や、実践指導・広域通信網を活用した情報提供、学校教育の支援、国際教育・社会教育への貢献などを行っており、E S Dの理念とも重なる部分がある</li> <li>・教員免許更新の科目として「E S D入門」を開講しており県外からも受講生がある</li> </ul> <p>&lt;ユネスコスクール&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員養成機関という特徴があることから県内のユネスコスクール認定の支援を続けてきた結果、宮城県は東日本では最も数が多い</li> <li>・仙台、気仙沼、田尻にはユネスコスクールが約60あり、復興教育のプログラムづくりが課題である</li> </ul> <p>&lt;各地域でのE S D活動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気仙沼は東日本大震災で大きな被害を受け、現在復興教育センターを中心に学力支援やボランティア活動支援などを行っている</li> <li>・4地域とはそれぞれ連携協定を結び、その協定に基づいて活動している</li> <li>・例えば気仙沼は教育委員会が地域における活動の核となり、20以上の団体がネットワーク化されている</li> <li>・狙いは学校だけでなく、地域やまちづくりまで広げてやりたい（七ヶ宿ではコミュニティ支援をやっている）</li> </ul> <p>&lt;海外との連携&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当初はアメリカのノーステキサスR C Eとの交流をやっていた（現在はやっていない）</li> <li>・R C E自体がネットワークそのものであることから国際連携はやろうと思えばいつでもできる</li> </ul>

#### 4. 北九州市におけるE S D活動

##### (1) 北九州市における環境政策と基本計画等におけるE S Dの位置づけ

北九州市は明治34年の官営八幡製鉄所操業以来、北九州工業地帯の中心地として発展し、我が国の高度経済成長を支えてきた。ところが、昭和30年代半ばからの急速な経済発展の過程において、大気汚染や水質汚濁などの公害が発生し、大きな社会問題に直面していた。このような状況の中、市民、企業、行政などが一体となって公害克服に対して取り組み、昭和50年代半ばには大きく改善されることとなった。市民の力が中心となって公害を克服してきた実績は、現在の環境に配慮した都市づくりの礎になっており、地球温暖化対策をはじめ、ごみ減量化、リサイクル、自然保護など、地域が一体となった取り組みを推進している。このような取り組みが評価され「日本の環境首都コンテスト」では2年連続総合第1位となるなど、環境政策は北九州市の代名詞として認識されるようになった。

2007年には「北九州市環境基本計画」が策定された。この中で掲げられた4つの政策目標の1つに「地域から世界にひろがる北九州市民環境力の強化」があがっており、市民・NPO、事業者、行政など、地域社会を構成する各主体が、共に知恵を持ち寄り、共に考え、主体的に行動する「市民環境力」を高めていくことが明記されている。その戦略プロジェクトの一つとしてあがっているのが「持続可能な開発のための教育（E S D）の拠点化」である。E S D概念の普及及びE S Dを継続するための基盤づくりを目標に、具体的な事業内容として、①環境教育・開発教育を進める団体のネットワークの構築、②E S Dに関するセミナーやワークショップの開催、③こどもエコクラブ全国フェスティバルの開催、を通じてこれまでの環境教育など様々な教育活動を進めている市民、企業、大学、行政等がE S Dを積極的に推進することとなっている。また、2008年12月に策定された市の基本構想・基本計画である『「元気発進！北九州」プラン』では、主要施策の1つとして「あらゆる主体による環境政策への参加の推進」が掲げられており、「環境情報を誰でも容易に入手できる体制を整備し、市民、NPO、企業、行政などが連携・協働し、知恵を持ち寄り、共に考え、行動するなど、あらゆる主体の環境政策への参加をより一層進めます。」とある。このような環境政策への参加推進の牽引役として期待されているのは、言うまでもなくE S D活動を実施していく団体であり、策定の前年に認定されたRCEであった。

##### (2) 北九州E S D協議会の理念

北九州は岡山、仙台広域圏、横浜に次ぐ国内4番目のRCEとして、2007年1月に認定された。RCEの事務局を担当しているのが北九州E S D協議会である。教育機関、市民団体、企業、行政などによって構成され、RCE認定前の2006年6月に設立された。2011年11月現在、71の団体会員が加盟<sup>3)</sup>している。

北九州E S D協議会がめざしているE S D活動とは、図4に示すように、①感じる・知る、②学ぶ・考える、③行動する、④つながる、⑤広がる、⑥共有する、の6つの要素からなる。日常生活の中で課題や問題点を見つけ、それを解決するために学び、考え、行動する。さらには一人の行動から二人、三人へと活動を広げていき、その知識や経験を多くの人との間で共有



する。このような活動を、生物、健康、ワークライフバランス、男女の公平、高齢化少子化、防災、安全安心、保安技術、文化、多文化共生、フェアトレード、貧困、食、農、水、CO<sub>2</sub>、エネルギーといった幅広い分野で、かつ市民団体、NPO NGO、学校、個人家庭、行政、大学、企業、教育機関など様々な主体が連携して取り組んでいくことが、北九州ESD協議会がめざしているESD活動そのものである。



出典：平成 24 年度版「北九州市の環境」（北九州市環境局）

図 4 北九州 ESD 協議会がめざすもの

### (3) 北九州 ESD 協議会の構成メンバー

団体会員の内訳をみると、表 7 に示すように、行政からは北九州市環境局、教育委員会、福岡県環境政策課の 3 者が、その他公的機関として男女共同参画センターや JICA 九州などが入っている。教育・研究機関としては市内の 4 大学（九州国際大学、北九州市立大学、九州工業大学、西日本工業大学）と福岡大学環境未来オフィスが、民間企業からは 5 社が入っているが、いずれも市内に立地する大学数、企業数から考えるとまだまだ少ない状況にあると言え、NPO 法人や任意の市民団体によって支えられているのが現状である。活動団体登録数は 64 団体（2010 年 3 月）→66 団体（2011 年 3 月）→72 団体（2012 年 3 月）と着実に増えてはいるが、年間の新規登録数はわずかであり、今後一層の努力による活動範囲の拡大が求められていると言える。

表7 北九州ESD協議会に加盟する団体会員

<p><b>行政機関</b> 北九州市（環境局） 北九州市教育委員会 福岡県環境部環境政策課</p> <p><b>公的機関</b> 北九州市立男女共同参画センター 北九州市市民活動サポートセンター 北九州市環境ミュージアム 北九州市立いのちのたび博物館 （独）国際協力機構九州国際センター 北九州市エコライフプラザ</p> <p><b>教育・研究機関</b> 学校法人九州国際大学 公立大学法人北九州市立大学 九州工業大学理数教育支援センター 西日本工業大学 福岡大学環境未来オフィス 福岡県立ひびき高等学校 国際東アジア研究センター アジア女性交流・研究フォーラム 北九州市社会福祉ボランティア大学校</p> <p><b>財団法人</b> （財）北九州国際技術協力協会 （財）北九州国際交流協会 （財）北九州市芸術文化振興財団 （財）九州ヒューマンメディア創造センター （財）タカミヤ・マリバー環境保護財団 （財）地球環境戦略研究機関北九州事務所</p> <p><b>民間企業・経済団体</b> 九州電力株式会社北九州支店 株式会社九州テクニサーチ 株式会社アウルズ 株式会社ガイアの風 電源開発株式会社若松総合事業所 北九州商工会議所 北九州青年会議所 （社）北九州青年経営者会議</p> <p><b>NPO</b> NPO法人空き缶基金 NPO法人北九州ビオトップ・ネットワーク研究会</p>	<p>NPO法人共同参画実行ネット NPO法人里山を考える会 NPO法人九州海外協力協会 NPO法人北九州サステイナビリティ研究所 NPO法人シニアネット北九州</p> <p><b>その他</b> 北九州市女性団体連絡会議 北九州市男女共同参画地域推進員の会 北九州市婦人会連絡協議会 北九州市食生活改善推進員協議会 北九州市保育所連盟 北九州インタープリテーション研究会 北九州NPO研究交流会 高齢社会をよくする北九州女性の会 自然エネルギー研究会 地球交遊クラブ 日本熊森協会福岡県支部 日本BPW連合会北九州クラブ 人間の安全保障・フォーラム北九州 UN Women 日本国内委員会北九州地域委員会 若松に玄関をつくる会 環のまなび工房 もったいない総研 福岡県地球温暖化防止活動推進員北九州・京築地域連絡会 豊の国・海幸山幸ネット BEN Japan クラブワールドピースジャパン福岡支部 ライズ北九州 KIDs work（キッズワーク） アジアの森を育てる会 Ganesha 材料&amp;環境 Links 有限責任事業組合（LLP） 北九州環境ビジネス推進会（KICS） 北九州国際交流団体ネットワーク 北九州市環境学習サポーターの会 （社）北九州市障害福祉ボランティア協会 地球温暖化を考える北九州市民の会 若松秋桜会</p>
---	---

出典：北九州ESD協議会ウェブサイト（<http://www.k-esd.jp/friend/index.html>）を参考に筆者作成

#### (4) 北九州ESD協議会の活動内容

設立当初、北九州ESD協議会は運営委員会の下に「プロジェクトチーム」「調査・研究チーム」「広報チーム」が設けられていたが、2009年度以降、図5に示すように、それぞれのチーム「地域ネットプロジェクト」「調査・研究プロジェクト」「広報プロジェクト」に置き換わった。また新たに北九州市立大学、西日本工業大学、九州女子大学の学生による「ユースプロ



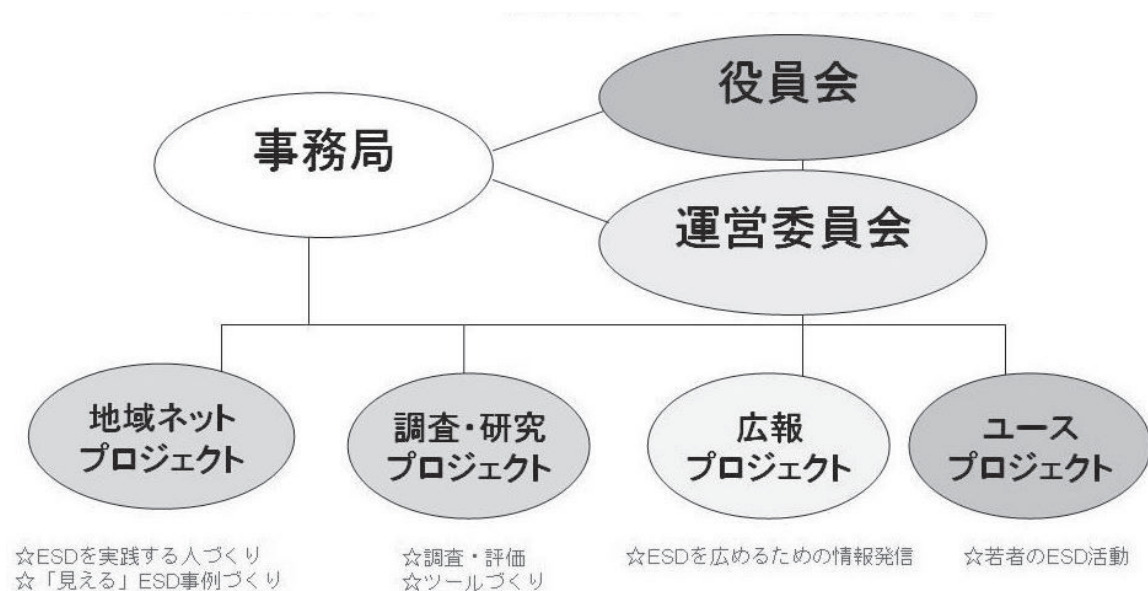
ジェクト」が立ち上がった。

「地域ネットプロジェクト」のこれまでの活動内容としては、保育園でのエコ交流会、シニア世代による環境技術をテーマとしたワークショップの開催、市民センター等のE S D拠点における普及啓発、出前講座の開催、市内イベントへの出展などに取り組んできた。

「調査・研究プロジェクト」は、E S D月例学習会の開催、E S Dの知名度に関する街頭調査の実施、子ども向けE S D教材の開発と普及、北九州市と下関市にある6つの大学が合同で集中講義を開講する大学コンソーシアム関門の実施、島での環境情報の収集と地図づくりを行う藍島プロジェクトの実施、韓国・トンヨン市のE S D推進組織（RCE Tongyeong）との相互交流事業などに取り組んできた。

「広報プロジェクト」は、情報誌「未来パレットだより」の編集・発行、活動報告会の実施、リーフレットの編集・作成、エコスタイルタウンでの広報活動などに取り組んできた。

「ユースプロジェクト」は、RCEトンヨンとの交流、藍島プロジェクトへの参加、国際理解講座の企画・実施、グリーンマップの作成、インターンシップ事業などに取り組んできた。



出典：北九州E S D協議会ウェブサイト (<http://www.k-esd.jp/about/action.html>)

図5 北九州E S D協議会の活動体制

## 5. 北九州市におけるE S D活動における大学が求められる役割と課題

本研究では、E S D活動の概念整理とこれまでの我が国におけるモデル事業の取り組み、さらにはE S Dを推進する地域拠点であるR C E（Regional Centres of Expertise on ESD）の取り組みにおいて大学などの高等教育機関が関わっている事例を整理してきた。ここでは、北九州市において、今後2014年の最終年に向けてE S D活動を活性化させていくために、大学に求められている役割は何であるのか、またそのための課題や方策について以下に整理する。

### (1) 成果報告と外部評価による活動の活性化

北九州 ESD 協議会には行政、民間企業、NPO、市民団体、大学など多方面からの団体で構成されており、個人会員も多くの方々が加入している。これまで、地域ネットプロジェクト、調査・研究プロジェクト、広報プロジェクト、ユースプロジェクトの4つのプロジェクトを中心に様々な活動が展開されてきたが、どちらかという各加盟団体が個別の活動をしてきた傾向にある。ESD 協議会としての各活動に対する予算化も十分ではなかったこともその要因として考えられる。その結果、他の団体がどのような活動をしているのかについて深く知る機会としては、年に1回の総会資料やホームページ等の広報資料を除いては必ずしも多くはなかったと言える。ESDの趣旨を理解、意識した取り組みが今後はより一層求められることから、各団体の活動を知ることができるような活動報告会を年1回の総会だけではなく、数回のペースで定期的に行うことが望ましい。このような定例会を構成団体である大学が主体となってコーディネートし、さらには活動についての外部評価を与えるような機会を設けることによって、活動団体は大いに刺激を受けることができ、活動の活性化につながることも期待できる。RCE岡山が定期的に行っている「ESDカフェ」は、参加人数は小規模であるが、各団体の活動内容を紹介する場として機能しており、なにより月1回程度定期的、かつ継続的に取り組んでいることが評価される。このような他団体との相互交流が促進され、今後の活動に活用できるネットワークづくりを構築していくことが重要である。

### (2) ESDに関する研究交流の活性化

北九州 ESD 協議会には既にいくつかの大学や研究機関が参加しており、様々な分野での研究活動が行われている。これまでは「調査・研究プロジェクト」において、特定の教員を中心に研究活動が実施されてきた。市内に総合大学はないが、各分野の先端を行く単科大学が集積しており、協議会に加盟していない大学の中にも、ESD活動そのものと言える研究・調査活動をESDとは認識せずに実施している研究者も多い。

そこで、まずは北九州市内の大学、高専、研究機関においてESDの理念に即した研究活動を行っている教員・研究者にESD活動の概念を広く周知させるとともに、相互のネットワークを構築していくことが求められる。その上で、市内の各研究者、大学院生、学生などが各自の研究内容を発表する研究報告会を定期的に行い、情報交換を図っていく。いずれは研究論文集、英語による査読付ジャーナルの刊行へとつながるような取り組みへと活性化させていくことで、よりグローバルな研究交流へと発展していくことが期待される。将来的には市内に存在する知的人材を最大限に活かし、相互単位認定や資格取得と結びつけた独自の教育プログラムを展開できる可能性もある。

### (3) 学生へのESDの認知度向上と地域活動を通じたESDの実践

ESDの認知度は全国的にもまだまだ低いのが現状である。これまで学内の組織を挙げてESDに積極的に取り組んできた岡山大学や宮城教育大学でさえも、学生や教職員の認知度向上を図っていくことが大きな課題であるという認識では一致していた。ESDに取り組んでもらいたい学生は特定の学部に限ったことではなく、全学部の学生が対象となってくる。したがってESDに関する副専攻プログラムを展開していくことや、その周知活動として新入生を対象

とした特定のガイダンスを実施するなど、入学当初からESDに関する最低限の知識を習得する機会を提供していくことが求められる。岡山大学では新入生を対象としたオリエンテーションにおいてESDの取り組みを説明する冊子を全新生に配布している。このような底辺からの地道な取り組みが重要になってくる。

また、ESDに少しでも興味を持ってくれた学生が、地域活動に取り組みはじめ、継続的にESDに取り組んでいくことが、ひいては北九州市全体のESD活動の底上げにつながっていくものと考えられる。北九州市立大学が主幹校となって市内10大学<sup>6)</sup>が連携して取り組んでいる文部科学省大学間連携共同教育推進事業によって、2013年3月に小倉の中心市街地に「北九州まなびとESDステーション」が開設される予定である。ここでは、大学と地域社会が連携し、ESDを中心とした実践的教育活動を通じて、将来を担う人材育成に取り組んでいくことになっている。このような実践活動の場を市民が多く集まる中心市街地に設置し、その活動が広く市民の目にさらされることは、市民へのESD啓発という意味でも意義深い。また、単独の大学ではなく、それぞれの得意な専門フィールドを有する複数の大学が連携・協力して設置したというのは、日本はもとより世界各国のRCEでも初の取り組みであると言える。大学相互が連携・協力して、学生による地域でのESD活動を通じて、持続可能な社会をめざすという“北九州モデル”として成功することが期待される。

#### (4) 国際連携を通じたESD活動の普及と世界への情報発信

北九州市は2011年に国の環境未来都市とグリーンアジア国際戦略総合特区にそれぞれ認定された。公害克服や少子高齢化対策など社会が直面する課題に対して他の大都市に先駆けて取り組み続けて大きな成果をあげるとともに、都市環境インフラ技術やノウハウをパッケージ化してアジアの諸都市に提供し、アジアとともに成長することを目指している。これまでも特に東南アジアの各国において、環境技術協力や水ビジネスなどの分野で、国際協力を進めてきたが、今後はESD活動の面でも国際協力・連携を推進していくことが求められる。東南アジア、南アジアの各国ではESD活動は活発に実施されており、特にインド、フィリピン、インドネシアには多くのRCEが設立され、それぞれ地域特性を活かしたESD活動が実践されている。環境技術等と違い、ESD活動については北九州市が特に優れていて先進的というわけではもちろんない。むしろ大学の関わり方、学生の関わり方、地域活動の手法などは、海外からも多くを学ぶこともある。既にRCEに指定される地域とは、教員や学生の相互交流を契機として、交流協定締結を結び、相互のネットワークを構築していくことが期待される。さらにはまだESD活動が実践されていない地域とは、北九州市でのこれまでの実績・蓄積を最大限に活かしてESD活動の普及に努めるなど、様々な交流の形が考えられる。このような国際連携を通じて北九州スタイルのESD活動を発信していくことは、ひいては将来の北九州市におけるESD活動の活性化にもつながっていくものと思われる。

## 6. おわりに

本論では、E S Dの概念やこれまでの日本での活動、各R C Eにおける大学の関わりなどを概括するとともに、大学が中心的な役割を果たしている岡山、中部、仙台広域圏の各R C Eにおけるヒアリング調査を通じて、E S D活動の活性化に向け大学に求められている役割を検討してきた。その結果、成果報告と外部評価による活動の活性化、E S Dに関する研究交流の活性化、学生へのE S Dの認知度向上と地域活動を通じたE S Dの実践、国際連携を通じたE S D活動の普及と世界への情報発信という4つの視点が重要であることを指摘した。

国連が世界規模で展開するE S Dはグローバルな理念であるが、それを実現化、具現化していくのは末端にある地域レベルであり、その担い手は市民、企業、団体、行政など、地域に関係するすべてのステークホルダーである。その一翼として期待されるのがE S Dの「E (Education)」を推進する大学や研究所をはじめとした高等教育機関であり、そこに所属する幅広いジャンルに精通した研究者集団であり、さらには地域に溶け込んで活動していく人的資源としての学生である。その意味では2013年3月に北九州市に開設される「北九州まなびとE S Dステーション」は北九州地域のE S Dを推進していく組織として、市民のE S D活動の場として、市民に向けたE S D活動の広報拠点として大いに期待される。

E S Dの10年は2014年に終了するが、E S Dの理念は今後10年、50年、100年と引き継がれて、より発展的な活動へと展開していくことが期待されるし、当然そうあるべきである。また、その活動範囲も国内6つのR C Eや過去に環境省E S Dモデル事業に取り組んできた14地域にとどまらず、全地域、全世界へと広がっていくことが求められる。北九州はE S D活動のフロントランナーとして、全世界におけるE S D活動を牽引していく役割を担っていると言える。E S Dの「E (Education)」とは未来を生きる人を育てていくことである。新しく開設される「北九州まなびとステーション」は、様々な分野の知的財産である研究者、地域活動の推進役となりその活動を通じて社会参加や持続性を学ぶ学生達、それを支える企業や市民、これら多くの主体が広く集ってこそその威力が大いに発揮できるものと考えられる。今後も北九州市におけるE S D活動にフォーカスを当て、変化・変革を促しながら、よりより地域づくり、未来づくりのために継続的な研究を行っていくことが課題である。

## 参考文献

- 1) ユネスコスクールウェブサイト (<http://www.unesco-school.jp/>)
- 2) UNITWIN ウェブサイト (<http://www.unesco.org/en/unitwin/>)
- 3) 北九州E S D協議会ウェブサイト (<http://www.k-esd.jp/>)
- 4) 「高等教育とE S D－持続可能な社会のための高等教育」阿部治監修，萩原彰編著，大学教育出版，平成23年9月
- 5) 三宅博之，ソン・ミンホ，細井陽子(2012)「E S D (持続可能な開発のための教育) に関する北九州市と韓国・トンヨン市の取り組みの比較研究」北九州市立大学法政論集第39巻第3・4合併号，pp. 49-123

## 補注

- (1) 「ESDの10年」に係る施策の実施について、関係行政機関相互間の緊密な連携を図り、総合的かつ効果的な推進を図るため内閣官房に設置された連絡会議。議長を内閣官房副長官が務め、構成員には内閣官房の他、外務省、文部科学省、環境省、総務省、農林水産省、経済産業省、国土交通省の各担当で構成されている。
- (2) 内訳はアジア太平洋地域(44)、ヨーロッパ(32)、中東・アフリカ(22)、南北アメリカ(17)となっている。
- (3) 参考文献2)によると、ユネスコスクールは1953年、ASPnet(Associated Schools Project Network)として、ユネスコ憲章に示された理念を学校現場で実践するため、国際理解教育の実験的な試みを比較研究し、その調整をはかる共同体として発足した。日本では、ASPnetへの加盟が承認された学校を「ユネスコスクール」と呼んでいる。ユネスコスクールは、そのグローバルなネットワークを活用し、世界中の学校と交流し、生徒間・教師間で情報や体験を分かち合い、地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展を目指している。
- (4) 参考文献2)によると、2012年12月現在の日本のユネスコスクールは550校(幼稚園14校、小学校267校、中学校130校、一貫校等36校、高等学校86校、大学5校、高等専門学校1校、特別支援学校2校、その他9校)で、そのうち宮城県内には全体の12%にあたる66校が指定されている。
- (5) 北九州市内に立地している北九州市立大学、九州栄養福祉大学、九州共立大学、九州工業大学、九州国際大学、九州歯科大学、九州女子大学、産業医科大学、西南女学院大学、西日本工業大学の10大学が文部科学省大学間連携共同教育推進事業に2012年度より取り組んでいる。



### 第三章 関門地域の大学の起業教育の現状と展望

吉村英俊、田頭沙樹、山崎香奈

#### 1. はじめに

地域経済の発展において、ベンチャー企業の果たす役割は大きい。これは企業が成長することによって地域にもたらされる雇用の創出や税収の増加といった直接的な効果の他に、地域に新しいことに挑戦する風土を醸成するといった間接的な効果も生み出すからである。

そこで2008年と2011年、北九州市のベンチャー企業と創業環境について調査を行った。調査の結果、多くの示唆を得たが、ここでは次のことを強調したい。

- ・北九州市においては、50歳以上の実年世代による創業が多い。一方、30歳未満の若年世代による創業は少なく、その割合は減少している。
- ・起業時、資金や人材、販路に加え、経営知識で苦労しているベンチャー企業が多い。
- ・ベンチャー企業が次々と生まれるためには、新しいことや考えが評価・尊敬される風土、いいかえれば、チャレンジを喚起する風土が地域に醸成されていることが望まれる。

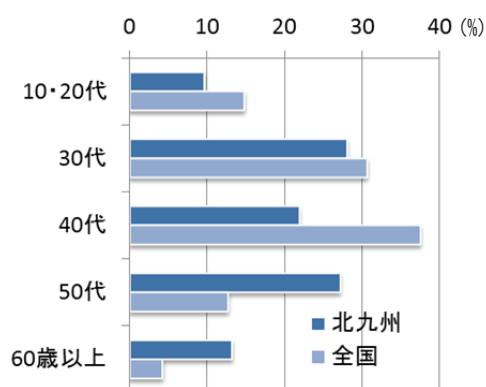


図1 起業時の年齢

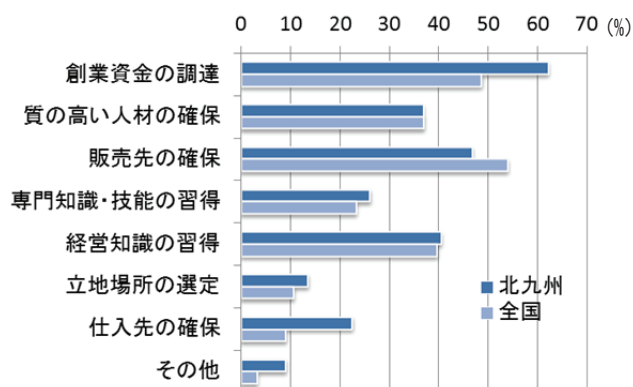


図2 起業時に苦労したこと

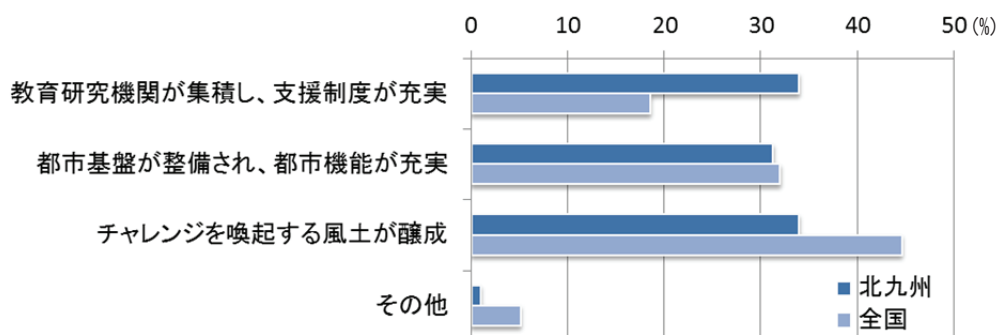


図3 ベンチャーが生まれやすい環境要素



これらの課題を打開もしくは推進していく方策はいくつか考えられ、すでに実行しているもの<sup>1)</sup>もあるが、ここでは大学の起業家教育に着目したい。大学は学生に経営の全般的な知識を教授するとともに、起業家として生きていくことの意義や素晴らしさを紹介することができる。決して起業家を美化する必要はないが、職業の選択肢の一つとして起業があることを正しく伝えることは重要である。また一方、地域の方々は大学に対して、知的好奇心を満足させたり、多様な人と交流したりする場を期待しており、チャレンジ精神を喚起する場としての大学に期待している。

以上のことから、本調査研究では関門地域の大学の起業教育の実状を調査し、今後の展望を示したい。

## 2. 調査の方法及び結果

### (1) 調査方法

まず関門地域の大学（高専、短大含む）に対して、起業にかかわる講義を行っているか、アンケート調査を行い、とくに熱心に行っている教授に実状をヒアリングする。次に全国の起業教育の動向を資料ベースで調査し、関門地域と比較する。さらに起業及び起業教育の認識度合を把握するために本学の学生にアンケート調査を行い、起業家や支援機関の担当者などの関係者に起業や起業教育について広く意見を聴取する。最後に以上の調査結果をもとに、大学における起業教育の展望について示唆を与える。

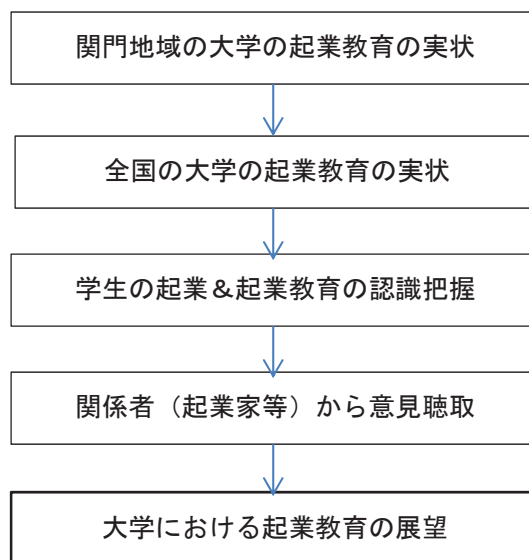


図4 調査手順

### (2) 関門地域の大学の起業教育の実状

#### ① 調査対象大学

北九州市内 18 校<sup>2)</sup>、下関市内 3 校に対して、平成 24 年 6 月、アンケート調査を行った。

表1 アンケート調査依頼大学

No	学校名	区分	経	法	工	医	他	備考
1	北九州市立大学(北方)	社会科学	●	●			●	
2	九州共立大学		●				●	
3	九州国際大学		●	●			●	
4	下関市立大学		●					下関
5	早稲田大学大学院	工学			●			
6	北九州市立大学(ひびきの)				●			
7	西日本工業大学				●			
8	九州工業大学(工学部)				●			
9	九州職業能力開発大学校				●			
10	北九州高専				●			
11	九州歯科大学	医学				●		
12	産業医科大学					●		
13	東亜大学	その他					●	下関
14	梅光女学院大学						●	下関
15	西南女学院大学						●	
16	九州女子大学						●	
17	九州栄養福祉大学						●	
18	西南女学院短期大学						●	
19	折尾愛真短期大学						●	
20	東筑紫短期大学						●	
21	九州女子短期大学						●	

②調査結果

a. 起業教育の実施有無

起業に何らかのかたちでかかわる講義を行っているのは5校(24%)、そのうち真正面からベンチャー教育を行っているのは2校(10%、九州共立大学・西日本工業大学)であり、当地において、起業教育が十分に行われていないことが分かる。なお、社会科学系学部を有する大学は、内容や視点の違いはあるものの、下関市立大学を除いてすべて実施している。

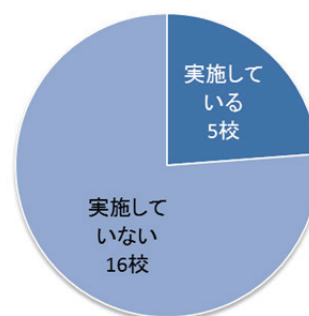


図5 起業教育の実施有無

九州国際大学を除く4校の特徴は、担当の教授がいずれも過去に企業に勤めたことがあり、さらにコンサルタントとして大なり小なり経営指導に携わった経験を有していることである。後述するが、彼らは自らの経験を通じてベンチャー企業の楽しさと難しさを知っており、故に起業教育の必要性を実感している。

表2 起業教育を実施している大学の状況

No	学校名	区分	科目名	学部	学年
1	北九州市立大学(北方)	社会科学	事業計画論	経済	3
2	九州共立大学		ベンチャー企業入門	経済	1
			ベンチャー企業論	経済	2
			ベンチャー特講(経営分析)	経済	2
			ベンチャー特講(合宿・演習)	経済	2
3	九州国際大学	価値創造論	経済	1	
4	北九州市立大学(ひびきの)	工学	技術経営概論	工	3
5	西日本工業大学		ベンチャービジネス	デザイン	3

b. 起業教育を実施していない理由

起業教育を実施していない理由は、「必要性を感じていない(ニーズがない、必要としていない)」と「教える人がいない」に大別することができる。そのため、今後の開講予定についても、開講を予定している大学はなく、未定が2/3、残りは開講する予定がないとしており、消極的である。

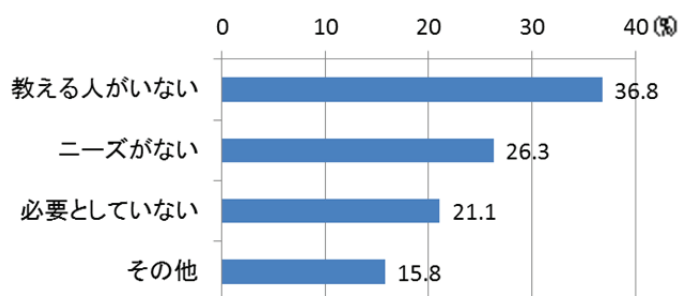


図6 起業教育を実施していない理由(複数回答)

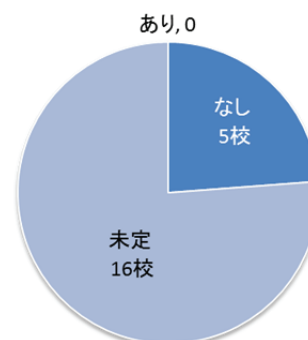


図7 今後の開講予定

この傾向を大学の区分でみると、工科系大学においては起業教育の必要性を認めているものの、教える教員がいないため、現在講義を行っていないのが実状であり、起業教育に対して肯定的である。したがって、九州工業大学においては平成23年度まで大学院で起業にかかわる講義を行っていた他、地元企業人を対象にした事業開発にかかわる講義を産学連携推進センターが毎年行っている。また九州職業能力開発大学校においても、過去に地元企業人を対象に新事業展開にかかわる講義を行ったことがある。北九州高専においては平成23年度から知的財産にかかわる講義を始めている。

医学系大学は、医師を養成することを目的としていることから、そもそも起業教育が必要ないと考えており、開講の予定もない。なお、将来開業医を目指す学生が少なからずいると思われるため、起業はもとより、経営を学ぶことのニーズはあると思われる。現時点

ではこれらの学生を当該医学系大学で対応するのか、それとも MBA 等で対応するのか、明確ではない。

福祉系や語学系といった学部を主とする大学においても、医学系同様、必要性を感じておらず、開講の予定もない。

### c. 起業教育の事例

#### ア. 九州共立大学 経済学部

受講生の特徴としては、留学生が 2～3 割を占めており、彼らは起業や新事業への興味や意欲が高く、ハングリーであること。また日本人学生においても、将来親の会社を継承する予定の学生が少なからずおり、意欲的に受講しているという。

講義では学生の新規性や独創性を重視し、卒業後入社した会社で事業計画を立案できる人材の育成を目標としている。そのため、ビジネスプランの作成を課すとともに、毎年大学祭でビジネスプランコンテストを実施し、優勝者には東京研修旅行を授与している。また理論に加え、実学や現場で学ぶことにより、マインドの醸成を図っており、夢やハングリー精神を持つこと、生き抜かれる力を持つことが重要であることを教えている。

表 3 事例「ベンチャー起業入門」

〔狙い〕 サラリーマンでも起業家精神と経営革新が求められる時代。講義では、ベンチャー企業とは何か、ベンチャー企業の事例を通してベンチャーマインドを形成する。1 年生向けであるため、語句や基礎的経営の知識も学ぶ。

1 回	「企業」とは何か	9 回	小テスト
2 回	中小企業とベンチャー企業の違い	10 回	ベンチャー企業のマーケティング
3 回	経営者に求められる知識、能力、夢とは？	11 回	ベンチャー企業の基礎的財務
4 回	ベンチャーについて	12 回	ベンチャー企業のリスク管理とは？
5 回	ベンチャー企業の意義、役割、求められる社会的背景	13 回	ベンチャー企業の類型
6 回	ベンチャー企業を興すまでのステップ	14 回	ベンチャー企業の成長プロセス
7 回	ベンチャー企業にはどのような会社があるか	15 回	まとめ
8 回	ベンチャー企業の経営手法		

#### イ. 西日本工業大学 デザイン学部

受講生は 50 名程度。学生の「自発性」を大切にしており、学んだことを行動に移す意欲を高く評価している。また楽しみながら学ぶ雰囲気づくりを心掛けており、講義内容を学生の反応によって変えることもある。

受講生のうち 10 名が実践的なプロジェクトに参加するようにしている。プロジェクトではデザイン学部としてのデザインの専門性を高めると共に、事業を興すことの動機付けを図っている。プロジェクトに参加する学生が周りの学生に刺激を与えるなど、相乗効果も見られる。最後に活動結果を商工会議所やメディア、社会福祉協議会で発表させ、社会人

から批評を得るという体験も敢えてさせている。

表4 事例「ベンチャービジネス」

〔狙い〕時代の要請に応じたベンチャービジネス振興のための人材育成と自己実現の創出を目的とする。経営の基礎知識、基礎的な創業のための基本スキルの習得を目指す。

1回	オリエンテーション 学習目的・目標 グラウンドルール
2回	ベンチャー企業の実態と政策① ベンチャー企業を考える
3回	ベンチャー企業の実態と政策② ベンチャー企業の実態
4回	ベンチャー企業の実態と政策③ ベンチャー企業の政策
5回	マネジメントの基礎知識① 経営戦略とは
6回	マネジメントの基礎知識② マーケティングとは
7回	マネジメントの基礎知識③ 経営組織・経営管理とは
8回	マネジメントの基礎知識④ アカウンティング、ファイナンス
9回	マネジメントの基礎知識テスト
10回	ベンチャービジネスモデル① ケーススタディ
11回	ベンチャービジネスモデル② ケーススタディ
12回	ベンチャービジネスモデル③ ケーススタディ
13回	ビジネスプランの作成① 起業の基本ステップ①
14回	ビジネスプランの作成② 起業の基本ステップ②
15回	まとめ

## ウ. 2 事例の共通点

九州共立大学、西日本工業大学の事例から、次の共通点を見出すことができる。

- ・担当教員が民間企業で会社生活を経験したのち、コンサルタントして自ら起業するとともに、多くの企業の経営診断にあたっている。またベンチャー企業や支援機関等に友人・知人を多く持ち、いろいろなところへ顔を出し、絶えず刺激し合っている。
- ・聞くだけの講義ではなく、ビジネスプランを作成させたり、実習やイベントに参加させたりすることで、意欲を掻き立て、理解を深めている。
- ・知識の教授に加え、チャレンジ精神といったマインドの醸成を大切にしている。そのため、起業家や実務家と接する機会を与えたり、実習やイベントを積極的に取り入れたりしている。

このように教員自身がベンチャースピリットに溢れ、フットワークを第一にしていることが分かる。学生にとって教える教員こそが最良のテキストでなければならず、両大学の教員はまさに生きた手本といえる。

### (3) 全国の大学の起業教育の実状

ここでは「大学・大学院企業界教育推進ネットワーク」の調査結果<sup>3)</sup>をもとに、全国の動

向をみてみたい。

回答があった全国の大学 536 校のうち、半数近い 46%にあたる 247 校で起業教育が実施されている。九州地域においては、58 校のうち 22 校で起業教育が実施されているにすぎず、その割合は 38%と中国地方（34%）に次いで低い。起業とは言い換えればチャレンジすることである。変化が激しい時代にあって、それを果敢に取り入れようとする風土が関門地域（前述・同 24%）はもとより、九州は乏しいということになる。

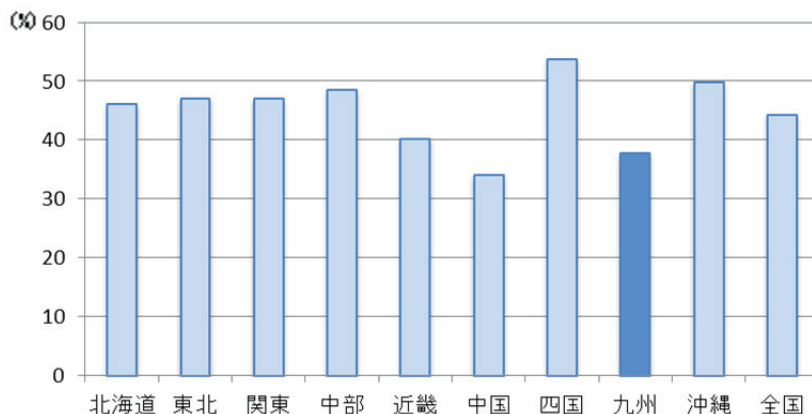


図 8 起業教育の実施割合

講義の内容は、「理論を学ぶ」、「実例を紹介」、「ビジネスプラン」の 3 つに大別することができる。担当教員の意向にもよるが、15 回の講義の中で、理論と実例、ビジネスプランをそれぞれ織り込んでいるものが多い<sup>4)</sup>。このことから、担当教員にはこの 3 つの能力が求められることになり、先に紹介した九州共立大学と西日本工業大学の教員はこの能力を備えている。なお、こういった教員は少なく、実例を紹介したり、ビジネスプランの作成を指導したりする場合には、起業家やコンサルタント、投資・金融関係者などを外部講師として招聘し、補完しているケースが多い。

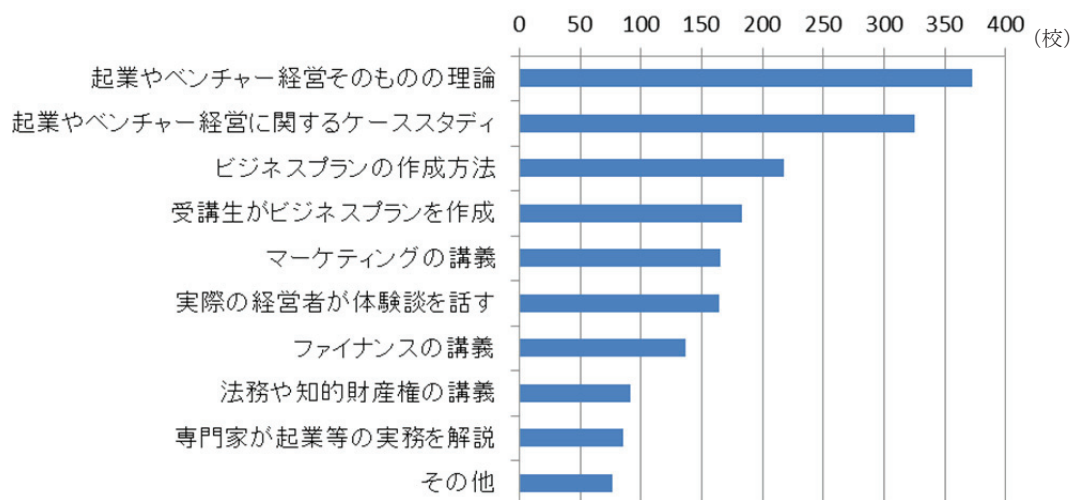
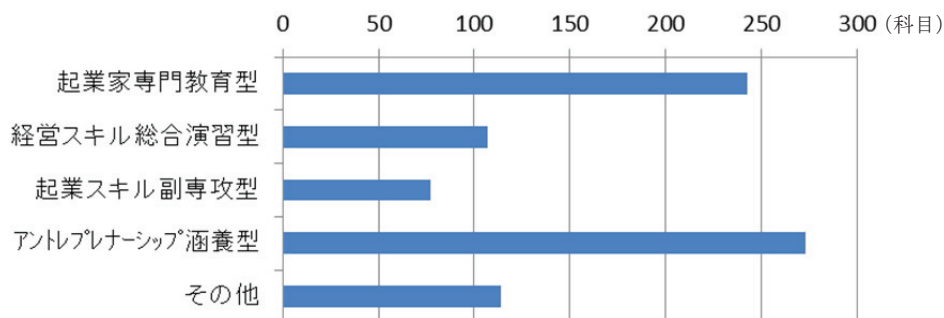


図 9 講義内容



講義の対象は、経営学部やビジネススクール等の「経営を専門に学ぶ学生」と、経営分野の一般教養として学ぶ「すべての学生」に大別することができる。なお、起業スキル副専攻型はアントレプレナーシップ涵養型に含まれるものと思われる。前述の九州共立大学は前者、西日本工業大学は後者に近い。



- ・起業家専門教育型…経営学部やビジネススクール等において、実際に起業する学生を対象にしたもの
- ・経営スキル総合演習型…経営学部やビジネススクール等の仕上げとしてビジネスプランの作成等を行うもの
- ・起業スキル副専攻型…工学や医学等を主専攻とする学生が、副専攻として起業スキルを身につけるもの
- ・アントレプレナーシップ涵養型…主に全学を対象にした一般教養的な起業家教育

図 10 講義科目のタイプ

#### (4) 学生の起業及び起業教育の意向

北九州市立大学の学生（71名）<sup>5)</sup>に対して、起業及び起業教育の意向や認識を把握するためにアンケート調査を実施した。

大学卒業後、いきなり起業を考えている人は2%と少なく、大半は民間企業や行政機関への就職を希望している。また将来のキャリアプランを考えるにあたって、起業も選択肢の一つであると考えている学生は決して多くはないが存在している（16%）。将来起業を夢見るものの、まずは民間企業や行政機関に入って仕事を覚え、人脈をつくり、資金を貯めてから起業するという考えは妥当である。しかし、起業に関心がある学生が16%というのは低すぎるように思われる。これは本学特有のものなのか、それとも先行き不透明な今の時代を反映しているものなのか、詳細は分からないが、両方が加味された結果ではないかと推測される。

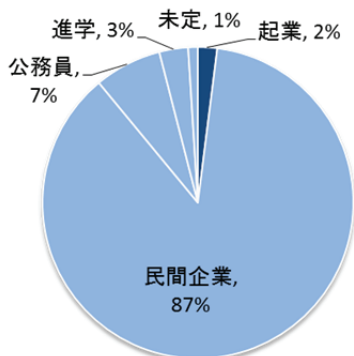


図 11 現在の希望進路

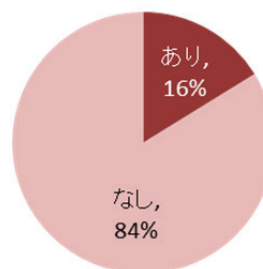


図 12 将来の起業への関心

起業教育への興味の度合いをみると、経営を学ぶ経済学部や地域創生学群では 2/3 の学生が関心を示しており、一方、経営を学ぶ機会のない外国学部や文学部の学生は 1/4 しか関心を示していない。

なぜ関心がないのか、過半数はそもそも起業に興味がないためと回答しているが、1/4 強は起業教育を知らないからと回答している。後者の学生（37 名）のいくらかは経済や経営を学んだり、起業家と接したりすることで起業に関心を抱き、起業教育に興味を持つのではないかと思われる。

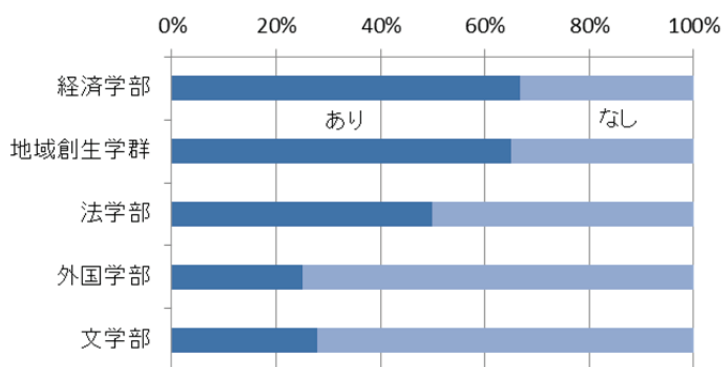


図 13 起業教育への興味

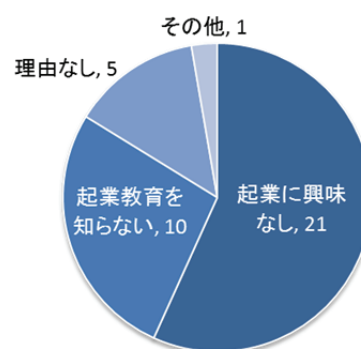


図 14 興味がない理由

起業教育に興味があると回答した学生（34 名）のうち、4 名（1 割強）は将来起業したいためとしているが、大半（85%）の学生は何らかのかたちで役に立つからと考えている。民間企業や行政機関に入って、新事業を企画したり、事業計画書を作成したりする機会があることを想定して、学生のうちに勉強しておこうと考えているものと思われる。

起業教育で学びたいことは、理論が最も多く、事例、ビジネスプランの順になっている。ビジネスプランのニーズが決して少ないわけではなく、前述したとおり、3つの内容を織り交ぜてシラバスを作成する必要があると思われる。

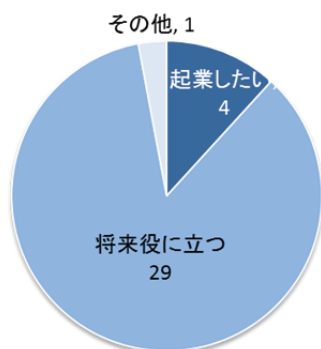


図 15 興味がある理由

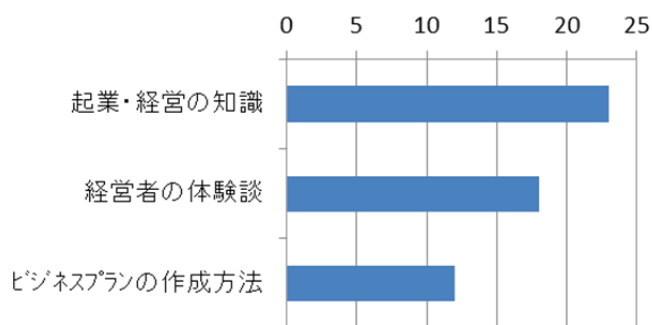


図 16 起業教育で学びたいこと

## (5)関係者（起業家）の意見

起業教育について、ベンチャー企業（5社6名）、支援機関（2機関3名）及び大学（1大学2名）<sup>6)</sup>の担当者に意見を聴取した。これらの方の意見を集約すると、起業教育には経営の知識を習得するとともに、チャレンジ精神を醸成し、起業家はもとより、民間企業や行政機関で新事業を企画・実行する社内ベンチャーを創出することを期待していることが分かった（図17）。

まず前者の経営知識の習得であるが、経営を学んでいない工学部や医学部などの学生に有効である。とくに理系出身者は、技術を武器に起業するケースが多くあるが、起業したのち、販路開拓や資金調達で苦戦している。学部及び大学院で学ぶ過程で専門知識を深化させるが故に、反面俯瞰する能力が疎かになってしまう。企業経営では、技術だけでなく、販売、人事、調達、財務など全方位に対して目配りし、舵を切っていかなければならず、“木を見て森を見ず”になってはいけない。とくに優れた技術であればあるほど、プロダクトアウト的な思考に陥りやすく、お客様が見えなくなってしまう。経営が立ち行かなくなるとはじめてお客様本位であらねばならないことに気が付くことが多い。なお、こういったことに気が付き、専門知識だけでは生き残れないことを察知している学生は、率先して経営の勉強をしているそうである。

次に後者については、チャレンジ精神や探究心を持つことが豊かに生きていくうえで必要であり、起業家の考え方や日常生活などを知ることで、いろいろなことに興味を持ち、主体的に生きるきっかけを見つけて欲しいと考えている。現代はモノが溢れ、何不自由なく生きていけるため、先を見据える力や危機感に欠けてしまっている。もっと身の回りのことに関心を持ち、これから何が必要なのか、先を想像して事前に動かなければならない。また自分の能力・性格を認識し、将来自分はどうありたいのかといった働き方や生き方を考えることが重要である。もちろんリーダー（起業家）は必要であるが、リーダーをサポートするフォロワーも欠かせない。自分の適性を知り、一番力を発揮できる仕事・ポジションを見つけることが重要である。そのためには、さまざまな経験をしなければならず、起業教育を通じて、チャレンジすることの大切さと面白さを知ってもらい、生き方や働き方について教えて欲しいと思っている。

このように起業教育では、心技一体となり、能動的に動く敏感な人材を育成することが期待されている。

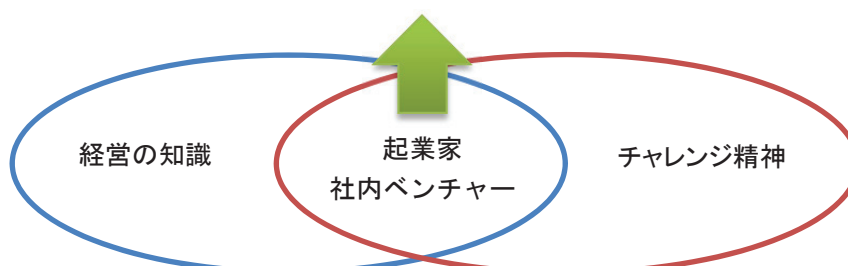


図17 起業教育で得られるもの

### 3. 大学における起業教育の展望

#### (1) 教員の確保

ベンチャー振興では、これまで“笛吹けど踊らず”といわれていたが、関門地域においては“笛も吹かぬし、踊りもしない”といった感が否めない。この笛を吹かない理由として、ニーズがないという回答が多い（前述、図6）が、学生が起業やベンチャー企業を正しく理解した上で興味がないと言っているのか、それともよく知らないので取り敢えず分からないと言っているのか、真意は不明である。大半の学生は起業やベンチャー企業について情報を得る機会がないため、例えば、ベンチャー企業の方に起業のきっかけや日々の仕事などについて講義してもらえば、相当の学生が起業やベンチャー企業に興味を抱くものと思われる。つまり、学生のニーズは教員次第であり、教員が消極的である限り、ニーズは増えないものと思われる。

起業教育では、経営の専門知識やビジネスプランの作成能力を教授し、さらにチャレンジ精神を喚起するために外部から起業家などを招聘することが求められる。一般に専門性が強い大学教員においては、経営の専門知識一つとっても、すべてをカバーできる人材は少なく、ましてやビジネスプランや外部講師の招聘までとなると稀有である。そこで専門家としての能力に加え、プロデューサとしての素質を持った教員を学内で探すか、もしくは外部から獲得することが必要である。

#### (2) キャリア教育との連携

国際化が常態化し、これからはアジアのハングリー精神旺盛な若者と競争していかなければならない。また想定外であることが当たり前の世の中でもある。こういった社会で生きていくためには、民間企業や行政機関に勤めていたとしても、起業家精神が必要とされる。また自らの人生のハンドルを自らがしっかりと握り、障害物に対して逃げることなく、果敢に乗り切ろうとする強い気持ちが必要とされる。

このようなマインドの醸成、いいかえれば生き方を考えるきっかけを起業教育が担うべきではなかろうか。多くの学生は状況を理解し、何かしなければいけないと思っている。しかし一歩が踏み出せないでいる。起業家のアグレッシブな生き方は学生の心を打ち、勇気と希望を与えてくれるものと確信している。経営学の範疇ではなく、キャリア教育の一環として位置付けてはどうだろうか。

#### (3) 経営系以外の学生への教育

日本の製造業は、技術力は強いが、商品力が弱いといわれている。スマートフォンやデジタル家電製品をみれば一目瞭然である。これは帰納的思考に長け、全体最適の視点から考えることが苦手であるからである。とくに理系学生において顕著であると思われる。20世紀の生産性を重視する時代ならばそれで良かったが、21世紀のライフスタイルを創造する時代においては、多様な発想と俯瞰できる力（全体最適化）が必要とされ、この一端を

起業教育に求めてはどうかと考える。

経営において、技術は手段であり、要素である。つまり、ビジネスプランを作成する過程では、技術はもとより、販売、人材、資金、調達、法規、慣習など関係するすべてを考えなければならず、俯瞰する力（全体最適化）とバランス感覚が求められる。とくに理系の学生はスペシャリストとしてこれまで能力を高めてきたが、起業教育を学ぶことで、ゼネラリスト（マネジャー）としての資質も兼ね備えることができる。

## 注

- 1)例えば、新ビジネス・サービス創業講座（北九州市雇用創造協議会）、実践起業塾（北九州産業学術推進機構）、女性起業家支援塾（北九州市男女共同参画センター）など
- 2)北九州市立大学の北方キャンパスとひびきのキャンパスは別大学とした。同様に西南女学院大学と西南女学院短期大学、九州女子大学と九州女子短期大学、九州栄養福祉大学と東筑紫短期大学も別大学とした。
- 3)平成 22 年度経済産業省委託事業「産業技術人材育成支援事業（起業家人材育成事業）」
- 4)大学・大学院起業家教育推進ネットワーク「起業家教育ベストプラクティス事例集」
- 5)2 年生 2 名、3 年生 66 名、4 年生 3 名  
外国語学部 12 名、経済学部 15 名、文学部 18 名、法学部 6 名、地域創生学群 20 名
- 6)ベンチャー企業：(株)ふるさとカンパニー、(株)ブラテック、(株)キットヒット、ハナハナワークス、(株)ぐるり  
支援機関：九州経済産業局新規事業、九州ニュービジネス協議会  
大学：鹿児島大学産学連携推進センター

## 参考文献

- 1)吉村英俊「北九州市の創業・ベンチャーの現状と展望」北九州市立大学都市政策研究所紀要第三号、北九州市立大学都市政策研究所、2009 年 3 月、pp73-90
- 2)吉村英俊「北九州市の創業及びベンチャー企業の実態」2011 年度地域課題研究、北九州市立大学都市政策研究所、2012 年 3 月、pp37-62





---

---

## 2012年度 地域課題研究

2013年3月31日発行

発行所 公立大学法人 北九州市立大学  
都市政策研究所

〒802-8577 北九州市小倉南区北方4丁目2-1

電話 093-964-4302

FAX 093-964-4300

---

---